

千葉県文化財センター

研究紀要

5

考古学から見た房総文化

— 歴史時代 —

昭和 55 年 3 月

財団法人 千葉県文化財センター

序 文

財団法人千葉県文化財センターも発足以来すでに6年余を経過いたしました。その目的とする発掘調査の事例も相当量のぼり、かつ多岐にわたりつつあります。内容的にもいわゆる先史・原史時代のみならず、最近では歴史時代の調査例が激増している現状です。

センターのもつもう一つの目的であります研究事業も先土器時代から古墳時代へと過去4年にわたり、研究紀要としてまとめ上げられます。今年は一つの区切りとして歴史時代を取り扱い、ここに「研究紀要 5」として刊行されることになりました。これを機に学術的にのみならず、文化財保護の思想的裏付けとしても、本書を活用願えれば幸いです。

昭和55年3月

財団法人 千葉県文化財センター

理事長 今井 正

目 次

序 文	
例 言	
はじめに	1

* * *

I 文献目録	2
1. 明治・大正時代	2
2. 昭和初～10年代	2
3. 昭和20～30年代	5
4. 昭和40年代	8
5. 昭和50年代	16
II 遺跡概要	26
1. 集落跡	26
2. 寺院跡	45
3. 城館跡	55
4. 墓跡	61
5. 祭祀跡	72
6. その他	82
III 遺物目録	85
1. 土器	85
2. 陶磁器	85
3. 古瓦	86
4. 土製品	87
5. 石製品	88
6. 鉄製品	89
7. 金属製品	90
8. 古銭	90

* * *

I 下総国を中心とした歴史時代の土器について	101
II 発掘された中世城郭について	116

例 言

1. 本書は財団法人千葉県文化財センター研究部研究事業の一環として行った「研究紀要」5である。
2. 本書の作成は、山田友治・天野 努・阪田正一・菊池真太郎・谷 旬の共同作業によった。
3. 文献目録は発表年代順に並べ、昭和54年12月までのものとし、単なる引用・随筆等は削除した。なお執筆者名は、責任者または当該個所執筆者の主なものを掲げた。
4. 遺跡の概要は①現所在地名 ②旧国郡郷名 ③遺跡の立地と概要 ④遺跡・遺構の特徴 ⑤出土遺物 ⑥備考に分け、遺跡名の左に遺跡番号、右カッコ内に文献番号を記した。遺跡番号は5桁とし、5桁目に遺跡の種類、4・3桁に市町村番号、2・1桁に市町村内における遺跡番号を表わし、同遺跡でも複合要素のあるものは各々の項目で別個の遺跡番号をあたえることとする。
5. 第1図の市町村番号は任意に付け、第2図の旧郷番号は、千葉県郷土資料刊行会発行「千葉県地名変遷総覧」昭和47年5月によった。図の解説は95頁～99頁にある。

はじめに

千葉県文化財センター研究事業の一環としての「研究紀要」は、その副題に基づく5か年計画の最終年次をむかえ、歴史時代全般を取扱うこととなった。

歴史時代とは、史資料に基づき構成された時代区分であることは衆知のとおりであり、考古学という側面よりは、極めて把えにくい面でもある。我々は取合えず奈良時代から江戸時代までとし、かつ土師器の編年上、真間式土器の出現期を一応の対象上限に裾えた。

当該期の遺跡の種類も多岐にわたる。大きくみると、奈良時代以前からの条里制遺構、平安時代以降様相の不明となる集落跡、寺院跡、中世の城館跡、墓跡、近世に多くみられる供養塚等の高塚、牧跡などが列挙される。今回はこれら無限ともいえる数の遺跡のなかで、発掘調査を経て公開されたものに重点を置き、瓦の出土地・採集地、分布調査において確認された城館跡・高塚および石造物などについては、参考として文献目録に集録するに留めた。

資料収集の過程で問題となった点について整理する。

歴史時代を対象とした考古学的研究は他の時代と同様、日本考古学会を中心とする研究団体の刊行する雑誌類に散見されるが、千葉県においては明治末期に国分寺を初めとする寺院跡の研究から始まる。大正末～昭和初期には城、経塚関係にも眼が向けられるようになるが、未だその類例はわずかである。昭和20年代も後半に至り、集落遺跡にまで調査対象が拡大され、また古墳の発掘に際し、単なる高塚遺構も散見され始めるようである。

首都圏拡大の傾向の強まるなかで、昭和40年代後半に至り、発掘調査も激増し、従って文献も増大することになる。なかでも宅地開発といった広範囲を対象とする調査は、集落や高塚全体的または群として把える必要が生じ、またその構成の複雑さも明らかとなった。その意味で県や地方団体における分布調査の持つ価値は高いといえよう。

千葉県は埋蔵文化財の件数の甚大な県の一つであり、開発のテンポも比較的早い。今回はとくにこの10年間に激増した資料を解析することに基本とした。現在の重要な課題に対し、研究の一助となれば幸いである。

I 文 献 目 録

1. 明治・大正時代 (1～10)

明治36年

1. 山崎春凌「國分寺の古刹一下総」『風俗画報』 267・276 風俗画報社

明治39年

2. 安川辰蔵『千葉家旧墳墓調査資料』(和本)

明治44年

3. 和田千吉「下総國千葉寺発掘の灯籠に就て」『考古学雑誌』 1-2 日本考古学会

大正3年

4. 丸山瓦全「下総國分寺の文字瓦」『考古学雑誌』 3-11 日本考古学会

大正6年

5. 住田正一「下総國分寺古瓦について」『考古学雑誌』 8-2 日本考古学会

大正7年

6. 住田正一「上総國分寺古瓦考」『考古学雑誌』 9-4 日本考古学会

大正11年

7. 春永 政「上総國分寺の文字瓦」『考古学雑誌』 13-4 日本考古学会

大正12年

8. 三輪善之助「安房國分寺の遺蹟」『考古学雑誌』 13-7 日本考古学会

9. 出井高義「下総國分寺の文字瓦」『考古学雑誌』 13-9 日本考古学会

大正15年

10. 千葉県『史蹟名勝天然紀念物調査』 2 千葉県

- a 「上総國分寺址」

- b 「下総國分寺址」

- c 「土気城址」

- d 「小弓城址」

2. 昭和初～10年代 (11～54)

昭和3年

11. 佐久間武「千葉県に於ける貝殻経」『人類学雑誌』 18-17 日本人類学会

昭和4年

12. 三輪善之助「上総國分寺」『房総研究』 1-4 房総研究会

13. 八木光之助「上総國分寺の遺蹟と遺物」『房総研究』 1-4 房総研究会

14. 三輪善之助「下総の國分寺」『武蔵野』14-7 武蔵野文化協会
昭和5年
15. 古谷 清「上総國分寺塔址」『史蹟調査報告』5 文部省
16. 大森金五郎「上総國府所在の研究」『歴史地理』55-6 日本歴史地理学会
昭和6年
17. 大森金五郎「上総國府所在の研究」『史蹟名勝天然紀念物調査』8 千葉県
昭和7年
18. 杉原莊介「下総東葛飾郡國分村須和田弥生式遺蹟研究摘要」『武蔵野』18-4・6
武蔵野文化協会
19. 古谷 清「上総國分寺塔址」『郷土愛』2-1 房総文庫刊行会
20. 平野元三郎・滝口 宏「下総國分寺址考」『史蹟名勝天然紀念物調査』9 千葉県
21. 関野 貞「竜角寺銅造薬師如来像及古瓦片」『歴史教育』7-4 歴史教育研究会
22. 服部勝吉「竜角寺塔心礎と古瓦」『寶雲』4 寶雲刊行所
昭和8年
23. 「安食仁生方面見学の1日(松濤雑話其二・三)」『房総郷土研究』1-3・4
房総郷土研究会
24. 広岡城泉「下総國竜角寺」『成田山新更』4-1
25. 山口 隆「古墳出土の寛永通寶」『ドルメン』2-7 岡書院
昭和9年
26. 千葉県『史蹟名勝天然紀念物』9 千葉県
a 大場磐雄・内藤政恒・篠崎四郎「上総國九十九坊廢寺址調査報告」
b 氏家重次郎「史跡から見た竜角寺」
c 高橋直一「竜角寺寺名考」
27. 「古瓦と石仏の発見」『房総郷土研究』1-10 房総郷土研究会
28. 小熊吉蔵「君津郡中郷村大寺廢寺址考」『房総郷土研究』1-10 房総郷土研究会
昭和10年
29. 杉原莊介「下総須和田遺蹟の調査を終って」『人類学雑誌』50-7 日本人類学会
30. 千葉県『史蹟名勝天然紀念物調査』12 千葉県
a 平野元三郎・滝口 宏「安房國分寺考」
b 小熊吉蔵「千葉県に於ける郡家の遺蹟」
31. 服部清五郎「千葉県下の板碑概観」『房総郷土研究』2-1 房総郷土研究会
32. 服部清五郎「金石史上より見たる中世以前の千葉市の開化史概観(上・中・下)」『房
総郷土研究』2-3~5 房総郷土研究会

昭和11年

33. 杉原莊介「須和田遺蹟に於ける考古学的調査の意義に就いて」『考古学』7-1・2
東京考古学会
34. 三輪善之助「房総の奈良時代遺物」『考古学』7-5 東京考古学会
35. 篠崎四郎「房総紀行(四)笠森寺」『房総郷土研究』2-6 房総郷土研究会
36. 君塚好一「下総國分寺私考」『武蔵野』26-10-12. 27-4-5 武蔵野文化協会
37. 柴田常恵「千葉寺の遺瓦」『房総郷土研究』3-1 房総郷土研究会
38. 服部清五郎「千葉寺の研究」『房総郷土研究』3-1 房総郷土研究会
39. 服部清五郎「千葉市金石遺物攷」『歴史公論』 雄山閣
40. 奥山市松「下総薬園址に関する調査報告」『史蹟名勝天然紀念物』13 千葉県

昭和12年

41. 平野元三郎・滝口 宏「上代佛教遺蹟調査予報」『千葉県史蹟名勝天然紀念物調査』14
千葉県
42. 篠崎四郎「上総國真理谷廢寺址」『考古学雑誌』27-10 日本考古学会
43. 服部清道「上総大椎の古瓦遺蹟調査概報」『房総郷土研究』4-2 房総郷土研究会

昭和13年

44. 服部清道「安房國とその國分寺論攷」『房総郷土研究』5-4 房総郷土研究会
45. 角田文衛『國分寺の研究』
 - a 角田文衛「上総國分寺」
 - b 平野元三郎・滝口 宏「下総國分寺」

昭和14年

46. 太田清六「上総國分寺塔婆の一考察」『考古学雑誌』29-9-10 日本考古学会
47. 田口信行「竜角寺もうで」『画説』36

昭和15年

48. 稲葉隣作「竜角寺について」『千葉文化』2-4 千葉県中央図書館
49. 篠崎四郎「竜角寺文字瓦攷」『考古学雑誌』30-4 日本考古学会

昭和17年

50. 上田三平『下総竜角寺の新研究』
51. 篠崎四郎『房総金石文の研究』 小倉家

昭和18年

52. 塚本文次「下総國分寺本堂の礎石について」『建築史』5-2
53. 服部清道「上総大椎の古瓦遺蹟調査概報」『郷土文化を探る』
54. 高木卯之助『古城村史』

3. 昭和20～30年代 (55～116)

昭和24年

55. 千葉県教育委員会『千葉県史蹟名勝天然記念物調査報告書』1 千葉県
 - a 滝口 宏「上総国分寺」
 - b 渡辺保忠「上総国分尼寺」
 - c 平野元三郎・滝口 宏「十三坊塚と雷電池」
56. 平野元三郎「房総古寺」『房総展望』3-8 房総展望社
57. 京成文化会「千葉縣内古瓦出土遺跡一覽」『京成文化』1 京成文化会
58. 大場磐雄「千葉寺を掘る」『京成文化』1 京成文化会
59. 滝口 宏他「終戦後早稲田大学に於ける考古学的調査について—下総竜角寺址調査」『史観』32 早稲田大学史学会

昭和25年

60. 春日俊吉「古寺と古墳の断章」『房総展望』 房総展望社
61. 荻野三七彦「竜角寺の縁起について」『史観』33 早稲田大学史学会

昭和26年

62. 日本考古学協会『日本考古学年報(昭和23年度)』1 誠文堂
 - a 大場磐雄「千葉県菅生遺跡の再調査」
 - b 滝口 宏「千葉県上総国分寺址」
 - c 滝口 宏「千葉県上総国分尼寺址」
 - d 石田茂作「千葉縣市原郡市西村寺院址」
63. 玉口時雄「下総国分寺附近の一竖穴」『古代』1 早稲田大学考古学会
64. 大野政治「印旛風土記—竜角寺建立の基盤をなすもの」『房総展望』5-7 房総展望社

昭和27年

65. 「上総大寺と高蔵寺」『房総探古叢書』16 房総探古会
66. 篠崎四郎「竜角寺管見」『房総探古叢書』16 房総探古会
67. 久保常晴他「千葉県印旛郡長熊廃寺址発掘調査報告」『銅鐸』9 立正大学考古学会
68. 大野政治「板碑に思う」『房総展望』6-8 房総展望社

昭和28年

69. 丸子 亘「千葉県印旛郡和田村熊野神社前の土師住居址発掘報告」『立正大学文学部論叢』1 立正大学文学部
70. 内藤政恒「古瓦より見た奈良朝地方文化相の一傾向—関東・東北の特異な地方文化の分析—」『古代』11

71. 宮原 実『上総国分寺を中心とする史跡』 市原村教育委員会

72. 武田宗久「千葉寺」『千葉市誌』 千葉市

昭和29年

73. 日本考古学協会『日本考古学年報（昭和24年度）』2 誠文堂

a 平野元三郎・滝口 宏「千葉縣市川市下総国分尼寺址」

b 平野元三郎・滝口 宏「千葉縣市原郡千草山建造物址」

c 大場盤雄・小出義治「千葉県千葉市千葉寺址」

d 小出義治「千葉県東葛飾郡流山廃寺址」

74. 滝口 宏「下総国府国分尼寺」『早稲田大学教養学部学術研究』2 早稲田大学教養学部

昭和30年

75. 日本考古学協会『日本考古学年報（昭和25年度）』3 誠文堂

a 滝口 宏「千葉縣市原郡上総国分寺址」

b 平野元三郎・滝口 宏「千葉縣市原郡菊間廃寺址」

c 平野元三郎・滝口 宏「千葉縣市原郡善光寺廃寺址」

76. 日本考古学協会『日本考古学年報（昭和26年度）』4 誠文堂

a 大塚初重「千葉縣市川市第二中学校校庭遺跡」

b 久保常晴「千葉県印旛郡長熊廃寺址」

77. 滝口 宏他「市川市須和田奈良時代遺跡」『古代』14・15 早稲田大学考古学会

78. 山武郡町村会事務局『山武地方誌』 山武郡町村会

79. 「印旛の古城跡」『成田史談』1 成田史談会

80. 万年 一「臼井城について」『佐倉地方文化』7 佐倉地方郷土文化研究同好会

昭和31年

81. 平野元三郎「上総国分寺付近の条里制遺跡について」『国学院雑誌』56-5 国学院大学

82. 山野辺薫「下総竜角寺の研究」『郷土誌料』5

83. 「関東古寺巡礼一竜角寺」『三彩』82 三彩社

昭和32年

84. 日本考古学協会『日本考古学年報（昭和27年度）』5 誠文堂

a 滝口 宏「千葉県安房郡大黒山海触半洞窟」

b 久保常晴「千葉県印旛郡長熊廃寺講堂・塔址」

c 久保常晴「千葉県印旛郡熊野神社境内住居址」

d 武田宗久「千葉県千葉市千葉寺址」

85. 大川 清「上総光善寺廃寺」『古代』24 早稲田大学考古学会

86. 神尾明正「木更津市江川奈良時代火葬墓発掘略報」『千葉大学文理学部紀要』 千葉大学
学先史地理学研究室

昭和33年

87. 丸子 亘「長熊廃寺周辺古瓦出土住居址2例」『銅鐸』4 立正大学考古学会
88. 平野元三郎「上総姉ヶ崎町の火葬蔵骨器」『古代』29・30 早稲田大学考古学会

昭和34年

89. 三友国五郎「関東地方の条里」『埼玉大学学芸学部紀要（社会科学編）』8 埼玉大学
90. 石田茂作「東大寺と国分寺」『歴史新書』至文堂
91. 大川 清「千葉市大金沢町左作瓦窯址」『古代』33 早稲田大学考古学会
92. 内田栄一「千葉県の城」『城郭』1-4 日本城郭協会
93. 内藤政恒「須恵質球状蔵骨器」『歴史考古』3 歴史考古学会
94. 大野政治「土室出土の経筒について」『成田史談』3 成田史談会

昭和35年

95. 坂詰秀一「千葉県横宿古瓦出土遺跡の調査」『古代文化』5-1 古代学協会
96. 内田栄一「千葉県の城」『城郭』2-2~4 日本城郭協会
97. 山岡俊明・上田勇次郎『館山城址調査報告書』
98. 岩崎卓也「千葉県松戸市内における弥生土師遺跡」『史潮』71 大塚史学会
99. 「佐倉市中央市街より人骨出土」『佐倉地方文化』13 佐倉地方郷土文化研究同好会

昭和36年

100. 滝口 宏他『印旛・手賀沼周辺地域埋蔵文化財調査（本編）』千葉県教育委員会
101. 『史蹟上総国分寺』五井町文化財研究会
102. 松村 侑「木下廃寺・竜腹寺・泉倉寺について」『成田史談』7 成田史談会
103. 関野 貞「竜角寺銅造薬師如来像及古瓦片」『歴史教育』7-4 歴史教育研究会
104. 酒巻省三「箕輪城址について」『松戸史談会紀要』1 松戸史談会
105. 大野政治他『成田市の古墳群』成田史談会

昭和37年

106. 堀井三友「上総国分寺」『国分寺址の研究』
107. 松村 侑・関 俊彦「千葉県印旛郡宮後出土の蔵骨器」『歴史考古』7 歴史考古学研究会

昭和38年

108. 日本考古学協会『日本考古学年報（昭和28年度）』6 誠文堂
a 久保常晴「千葉県印旛郡長熊廃寺廻廊・中門・南大門址」
b 滝口 宏「千葉縣市川市須和田住居址」

109. 日本考古学協会『日本考古学年報（昭和32年度）』10 誠文堂
 a 保坂三郎・神尾明正「千葉県木更津市江川火葬墓」
 b 丸子 亘「千葉県長熊廃寺周辺古瓦出土住居跡」
110. 杉原荘介「日本農耕文化の生成の研究」『明治大学人文科学研究所紀要』3 明治大学
 人文科学研究所
111. 落合忠一『谷島野の墳墓』
112. 関 俊彦「市川市国府台出土の墨書土器」『歴史考古』9・10 歴史考古学研究会
 昭和39年
113. 今井福二郎『房総万葉地理の研究』 春秋社
114. 平野元三郎「旭森経塚遺物（清澄寺）」『千葉県文化財調査報告』 千葉県
115. 平野元三郎「市原市上総国府関係遺跡」『千葉県遺跡調査報告』 千葉県教育委員会
116. 「国指定史跡、上総国分寺塔址について（併）」『国分寺を中心とした史蹟』
 市原市教育委員会

4. 昭和40年代（117～274）

昭和40年

117. 日本考古学協会『日本考古学年報（昭和35年度）』12 誠文堂
 a 川戸 彰「千葉県東金市丸山遺跡」
118. 『ふるさと竜角寺』 印旛郡栄町教育委員会

昭和41年

119. 日本考古学協会『日本考古学年報（昭和36年度）』14 誠文堂
 a 川戸 彰「千葉県山武郡湯坂遺跡」
120. 市史編纂委員会議『佐原市史』 佐原市役所 第2章 中世
121. 伊藤 恣「上総国府所在地」『市原地方史研究』1 市原市教育委員会
122. 「国分寺の光堂」『市川』 市川市教育委員会
123. 篠丸頼彦「下総白井城と師戸城」『城郭』45 日本城郭協会
124. 保坂三郎「経塚考」『日本歴史考古学論叢』
125. 島村青米『沼南町郷土史と民俗あれこれ話』

昭和42年

126. 日本考古学協会『日本考古学年報（昭和37年度）』15 誠文堂
 a 岩崎卓也「千葉県松戸市大谷口城跡」
 b 清水潤三「千葉県君津郡千種新田独木舟」
127. 市毛 勲・滝山昌彦他「市原市周辺地域の調査」『市原市文化財調査報告書』3 市原市教育委員会

128. 木下 良「国府と条里との関係について」『史林』50-5 史学研究会
129. 千葉県「国府・国分寺のころ」『千葉県史料—原始古代編—上総国』 千葉県
130. 須田 勉「上総国分寺址」『新鐘』 早稲田大学
131. 滝口 宏『昭和42年度上総国分寺址調査報告』
132. 大川 清「木更津市矢那瓦窯址」『古代』49・50 早稲田大学考古学会
133. 熊野正也「下総国分僧寺跡の発掘調査」『大和文化研究』12-1 大和文化研究会
134. 落合忠一「市原市の城郭跡について」『市原地方史研究』3 市原地方史研究会
135. 古谷 治『あびこむかしむかし』 我孫子町
136. 平野元三郎「五輪石塔—ふるさとの文化財」『教育広報』 千葉県

昭和43年

137. 坂井利明・市毛 勲「南大広遺跡海保古墳群」『市原市埋蔵文化財調査報告』4 市原市教育委員会
138. 下津谷達男『夏見台』 ニューサイエンス社
139. 斎藤 忠「上総国府跡」『日本古代遺跡の研究』総説 吉川弘文館
140. 滝口 宏「発掘調査から見た総武—国分寺を中心として—」『早稲田大学大学院紀要』13 早稲田大学
141. 滝口 宏『昭和43年度上総国分寺址調査報告』
142. 大谷定信『上総国分寺塔址について』
143. 須田勉・安藤鴻基「上総国大寺廃寺の古瓦について」『金鈴』20 早稲田大学考古学研究会
144. 嶋田恵吉「上総国府の研究」『市原地方史研究』4 市原市教育委員会
145. 熊野正也「下総国分尼寺跡の発掘調査」『大和文化研究』13-12 大和文化研究会
146. 杉原荘介・熊野正也『下総国分寺址』 千葉県教育委員会
147. 丸子 亘「千葉県八街町滝台遺跡緊急発掘調査報告」『日本考古学協会 昭和43年度大会研究発表要旨』 日本考古学協会
148. 丸子 亘「千葉県東金市家之子古墳群緊急発掘調査概報」『立正大学文学部論叢』30 立正大学文学部
149. 松下邦夫「下矢切から出土した古銭の調査報告」『まつど』5 松戸市
150. 松下邦夫「松戸市下矢切出土の古銭調査報告」『千葉文華』2-12 千葉県文化財保護協会

昭和44年

151. 千葉県教育委員会『千葉県文化財総覧』 千葉県
152. 藤岡謙二郎「房総の三国府と常陸国府」『国府』日本歴史叢書 吉川弘文館
153. 滝口 宏『昭和44年度上総国分寺址調査報告』

154. 江川良一「下総国分寺」『房総史学』9 千葉県高等学校教育研究会歴史部会
155. 鶴岡静夫「千葉寺」『関東古代寺院の研究』 弘文堂
156. 倉田芳郎「舟戸遺跡」『我孫子古墳群』 我孫子町教育委員会
157. 田丸栄二「椎津城跡雑感」『市原地方史研究』6 市原地方史研究会
158. 「奈良時代の火葬墓発見—考古ニューズ—」『考古学ジャーナル』35 ニューサイエンス社
159. 松本 久「出野尾経塚について」『館山市文化財保護協会会報』2 館山市文化財保護協会
160. 金刺伸吾「本郷町出土の墨書土器」『古代』52 早稲田大学考古学会

昭和45年

161. 滝口 宏「氏寺の建立/国分寺造営」『古代の日本』7
162. 滝口 宏『昭和45年度上総国分尼寺址調査略報』
163. 滝口 宏「上総国分寺尼寺の調査」『考古学ジャーナル』49 ニューサイエンス社
164. 多宇邦雄『上総国分寺の研究』 早稲田実業高校
165. 「(下総国分寺) 鏡瓦」『かみしき』3 下総史料館
166. 落合忠一「佐瀬城跡をたずねて」『市原地方史研究』7 市原地方史研究会
167. 落合忠一「佐瀬城跡をたずねて」『南総郷土文化研究会会誌』7 南総郷土文化研究会
168. 大川 清・岩崎卓也他『大谷口』 松戸市教育委員会
169. 村崎 勇「鎌谷町の佐津間城跡について」『房総文化』11
170. 篠丸頼彦・末木 健『松子城跡調査概報』 松子城跡調査団
171. 対島郁夫「江見町嶺岡東下牧の火葬墳墓について」『館山市文化財保護協会会報』3 館山市文化財保護協会
172. 対島郁夫「安房地区臨地研究会—西春法師入定塚—」『房総史学』10 千葉県高等学校教育研究会歴史部会
173. 鈴木正夫「七天王塚考」『千葉文華』4 千葉県文化財保護協会
174. 丸子 亘『千葉市東寺山遺跡群発掘調査報告書』 東寺山遺跡群発掘調査会
175. 小田富士雄「国衙跡」『新版考古学講座』6 雄山閣

昭和46年

176. 千葉県中近世遺跡調査団『千葉県中近世遺跡調査目録』 県北部 千葉県教育委員会
177. 坂詰秀一『シンポジウム仏教考古学序説 考古学選書2』 雄山閣
178. 日本考古学協会『日本考古学年報(昭和41年度)』19 誠文堂
- a 平野元三郎「千葉県市原市若宮遺跡」
- b 下津谷達男「千葉県船橋市夏見台遺跡」
- c 尾崎喜左雄「千葉県習志野市鷺沼古墳附城跡」

- d 滝口 宏「千葉県市原市上総国分寺址」
- e 熊野正也「千葉県下総国分寺址及び同瓦窯址」
179. 栗本佳弘『東関東自動車道（千葉一成田線）関係埋蔵文化財発掘調査報告書』 千葉県文化財保護協会
- a 栗本佳弘「佐倉市大篠塚遺跡」
- b 栗本佳弘「佐倉市大篠塚古墳群」
- c 村田一男「佐倉市人形塚古墳」
- d 栗本佳弘「佐倉市宮本遺跡」
- e 栗本佳弘「佐倉市寒風遺跡」
- f 栗本佳弘「印旛郡富里村日吉倉遺跡」
- g 栗本佳弘「成田市東和田遺跡」
180. 滝口 宏・中村恵次他『千葉県山武郡成東町湯坂遺跡発掘調査概報』 湯坂遺跡発掘調査団
181. 「（下総国分寺）字瓦」『かみしき』4 下総史料館
182. 佐久間象三「下総竜角寺（古寺探訪）」『船橋市史談会報』 船橋市史談会
183. 清川一史「房総の中世城郭」『千葉県の歴史』2 千葉県
184. 篠丸頼彦『成東城跡調査報告書』 成東城跡調査団
185. 加藤晋平他『国立歴史民俗博物館設置予定地内遺跡調査報告書』 千葉県教育委員会
186. 篠丸頼彦「佐倉城とその周辺」『月刊 文化財』昭和46年11月号 第一法規
187. 湯浅喜代治「蔵骨器」『かみしき』6 下総史料館
188. 多田千枝子・小池守之「千葉県金石文所在目録 追加1」『千葉県の歴史』2 千葉県
189. 篠崎四郎「諸国板碑紀年の上限について」『千葉県の歴史』1 千葉県
190. 岩田慶順「木間ヶ瀬村誌稿（続）」『野田文化』1 野田地方文化研究会
191. 平野元三郎・内野美三夫『法華塚遺跡』 法華塚遺跡調査団
192. 高橋在久「海神信仰の遺跡—富津沖で発見された鏡」『教育広報（千葉県）』 199
昭和47年
193. 千葉県中近世遺跡調査団『千葉県中近世遺跡調査目録』 県南部 千葉県教育委員会
194. 日本考古学協会『日本考古学年報（昭和42年度）』20 誠文堂
- a 滝口 宏「上総国分寺址」
- b 坂井利明「千葉県上総能満製鉄址」
195. 齊藤吉弘「南総中遺跡発掘概報」『先史』8 駒沢大学考古学研究室
196. 坂井利明・矢戸三男・谷 旬『にとな—古墳群とその集落址の調査—』 仁戸名古墳群発掘調査団
197. 米内邦雄・宮入和博『千代田遺跡』 四街道千代田遺跡調査会

198. 下津谷達男・古宮隆信『中馬場遺跡・妻子原遺跡』 日本国有鉄道常磐線複々線工事
関係調査団
199. 「(下総国分寺) 鏡瓦」『かみしき』7 下総史料館
200. 「(下総国分寺) 宇瓦」『かみしき』8 下総史料館
201. 『昭和46年度下総竜角寺調査報告』 千葉県教育委員会
202. 生稲 広「岡本城址」『富浦の文化』1
203. 君塚文雄「中近世遺跡調査の中から」『館山市文化財保護協会会報』5 館山市文化財
保護協会
204. 篠丸頼彦「上総の久留里城址」『千葉文華』5 千葉県文化財保護協会
205. 後藤和民「大椎城址調査(上)」『千葉県の歴史』4 千葉県
206. 古谷 治『あびこ風土記』 北総郷土研究会
207. 多田千枝子・小池守之「千葉県金石文所在目録 追加2」『千葉県の歴史』3 千葉県
208. 多田千枝子・小池守之「千葉県金石文所在目録 追加3」『千葉県の歴史』4 千葉県
209. 船橋市教育委員会『船橋市の文化財』 船橋市教育委員会
210. 川戸 彰「東金市発見の『塚』に関する覚書」『千葉文華』6 千葉県文化財保護協会
211. 『八千代市村上所在古墳発掘調査概報』 千葉県教育委員会
212. 飯田作次『多古町散歩の案内』
213. 栗本佳弘他「武田古墳群発掘調査概報」 武田古墳群発掘調査団
214. 大場磐雄「鏡ヶ池」『神道考古学講座』5 雄山閣

昭和48年

215. 滝口 宏『日本考古学年報(1971年版)』24 日本考古学協会
- a 栗本佳弘「宮崎第1遺跡」
 - b 栗本佳弘「車坂遺跡」
 - c 栗本佳弘「大森第2遺跡」
 - d 松浦有一郎「夏見大塚遺跡」
 - e 桑原 護「南総中遺跡(第1次)」
 - f 平野元三郎「下あらく遺跡」
 - g 平野元三郎「名主山遺跡」
 - h 市毛 勲「村上団地内遺跡」
 - i 野中 徹「北子安の塚」
 - j 滝口 宏「下総竜角寺址」
 - k 滝口 宏「下総竜角寺瓦窯址」
 - l 梶山林継「出戸遺跡」
 - m 梶山林継「大門遺跡」

- n 栗本佳弘「武田古墳群」
- o 中村恵次「湯坂遺跡」
- 216. 栗本佳弘『小金線一小金線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告一』
 - a 大沼忠春・宮入和博・齋木 勝「法蓮寺山遺跡」
 - b 大沼忠春・宮入和博・齋木 勝「印内遺跡」
- 217. 栗本佳弘『京葉一京葉道路第四期一般国道16号線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告一』 千葉県都市公社
 - a 古内 茂「高品第2遺跡」
 - b 真下高幸「車坂遺跡」
 - c 三森俊彦他「宮崎第1遺跡」
 - d 種田齊吾他「大森第1遺跡」
 - e 柿沼修平他「大森第2遺跡」
- 218. 下津谷達男・瓦吹 堅『流山市大畔台・下花輪第二遺跡調査概報』 下花輪第二遺跡調査団
- 219. 玉口時雄・阪田正一『宮脇』 宮脇遺跡調査団
- 220. 江森正義他「成田市中団護台遺跡発掘調査報告」『成田市遺跡調査報告』1 成田市教育委員会
- 221. 『房総一その風土と歴史』 千葉県博物館協会
- 222. 市原市教育委員会社会教育課『市原の歩み』 市原市
 - a II 古代の繁栄……(3)上総国府と更級日記 (4)上総国分寺
 - b III 戦乱の舞台……(6)戦国の市原諸城
 - c IV 江戸時代の生活……(5)出羽三山信仰
- 223. 関口広次「上総・下総国分寺址出土古瓦の系譜と伝播」『史館』1 市川ジャーナル社
- 224. 神山 崇「山武郡芝山町金光寺について」『MUSEUMちば』2 千葉県博物館協会
- 225. 熊野正也「国分寺の建立」『市川風土記』
- 226. 「千葉県の歴史見てある記一千葉寺一2一」『統計千葉』313
- 227. 川戸 彰「古代・中世の竜角寺1」『千葉県の歴史』5 千葉県
- 228. 川戸 彰「古代・中世の竜角寺2」『千葉県の歴史』6 千葉県
- 229. 「途中下車2・竜角寺の七不思議」『京成ライン』249 京成電鉄株式会社
- 230. 日下武重『小見川町の歴史散歩』
- 231. 落合忠一「加茂の中古城址について」『南総郷土文化研究会会誌』8 南総郷土文化研究会
- 232. 後藤和民「大椎城址調査(下)」『千葉県の歴史』5 千葉県
- 233. 伊藤一男「小堤要害城跡調査概報(第1・2次)」『横芝町文化財総合調査報告』1

横芝町教育委員会・横芝町文化財審議委員会

234. 奥原謹爾『関宿誌』 関宿町教育委員会
235. 栗本佳弘・種田齊吾『千葉市上ノ台遺跡―国鉄幕張電車基地建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告―』 千葉県都市公社
236. 篠丸頼彦・渋谷興平『中峠城跡調査報告書』 中峠城跡調査団
237. 多田千枝子・小池守之「千葉県金石文所在目録・追加4」『千葉県の歴史』5 千葉県
238. 一色勝正「流山市の中世石造物について」『千葉県の歴史』5 千葉県
239. 『印旛郡本埜村竜腹寺境内埋没板碑発掘調査報告予報』 竜腹寺境内埋没板碑発掘調査団
240. 海上町教育委員会『海上町の石造文化財』 海上町教育委員会
241. 前田 潮他『幸田貝塚第3次（昭和47年度）調査概報』 松戸市教育委員会
242. 「大栄町で多数の経石を発見―考古ニュース―」『考古学ジャーナル』89 ニューサイエンス社
243. 天野 努・斎木 勝「木更津市下部多山供養塚」『袖ヶ浦町山野貝塚』 千葉県都市公社
244. 君津町誌編纂委員会「3節 行人塚と経塚地」『千葉県君津郡君津町誌』後編 君津市
245. 山田友治『佐倉江原台遺跡発掘調査概報』 千葉県教育庁文化課
- 昭和49年
246. 江上波夫『日本考古学年報（1972年版）』25 日本考古学協会
- a 江森正義「中圀護台遺跡」
 - b 白石竹雄「高根北遺跡」
 - c 白石竹雄「猿塚遺跡」
 - d 白石竹雄「北の台遺跡」
 - e 白石竹雄「大野庚申塚遺跡」
 - f 市毛 勲「舟塚原古墳（第二次調査）」
 - g 野中 徹「南子安遺跡」
247. 斎木 勝・種田齊吾『市原市菊間遺跡』 千葉県都市公社
248. 栗本佳弘・三森俊彦他『市原市大厩遺跡』 千葉県都市公社
249. 沼沢 豊『松戸市金楠台遺跡』 千葉県都市公社
250. 寺村光晴『下総国分の遺跡』 和洋女子大学
251. 栗本佳弘・天野 努『八千代市村上遺跡群』 千葉県都市公社
- a 天野 努・千葉建造「村上第1塚群」
 - b 天野 努「村上第2塚群」
 - c 天野 努・田坂 浩・谷 旬「村上込の内遺跡」

252. 土室遺跡発掘調査団「土室遺跡発掘調査概報」『成田市の文化財』5 成田市教育委員会
253. 白石竹雄『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書』Ⅱ 千葉県都市公社
- a 佐藤克己「大塚前遺跡（CN 405）」
 - b 千葉健造・高木博彦「向原遺跡（CN 601）」
 - c 中山吉秀他「大門遺跡（CN 602）」
 - d 佐藤克己他「萩原出戸遺跡（CN 804）」
 - e 野村幸希他「梵天塚遺跡（CN 805）」
254. 八街町史編纂委員会『八街町史』 八街町
- a 「第2章 柳沢・小間子両牧の沿革」
 - b 「第12章 町内そぞろある記」
255. 渋谷興平・矢戸三男『佐原市仏師台遺跡』 東京文化史学会
256. 古内 茂・矢戸三男『柏市鴻ノ巣遺跡』 千葉県都市公社
257. 鶴岡辰郎「法興寺跡地の発掘調査」『総南文化』15 総南文化研究会
258. 滝口 宏「国分寺造立の発詔」『市川市史』2 市川市
259. 石井則孝「下総国分寺・尼寺の伽藍と下総国府の位置関係について」『史館』3 市川ジャーナル社
260. 佐藤克己・高木博彦「木下廃寺の古瓦」『ふさ』5・6 ふさの会
261. 伊藤一男「房総における中世城郭遺蹟」『房総の郷土史』1 千葉県郷土史研究連絡協議会
262. 相川日出雄「四街道の中世遺跡」『四街道の文化財』1 四街道町教育委員会
263. 村田一男・安達 新「八千代市中世城館跡、1974年度調査」『史学報』5 千葉県立八千代高等学校史学会
264. 栗源町総務課『栗源町史』 栗源町役場
265. 奥田直栄・吉井 宏他『上総国大多喜城本丸址発掘調査概報』 千葉県教育委員会
266. 篠丸頼彦『神崎城遺跡調査報告書』 千葉県教育委員会・神崎城遺跡調査団
267. 宮内速男「下総板碑考」『千葉県の歴史』7 千葉県
268. 大谷和彦「板碑について」『四街道町の文化財』1 四街道町教育委員会
269. 一色勝正「柏の金石文」『郷土と自然』25 柏の文化財と自然を守る会
270. 鈴木 浩「上関村経塚の由来記」『上総文化』1 上総郷土文化研究会
271. 村田一男『村上供養塚発掘調査報告書』 八千代市教育委員会
272. 野中 徹他『北子安堀込古墳調査概報』 君津市教育委員会
273. 加藤晋平・橋口定志「千葉県勝浦市における発掘調査（1）」『考古学ジャーナル』98
ニューサイエンス社

274. 藤下昌信・宮入和博「野毛平同免取香川低地遺跡の調査」『成田市の文化財』5 成田市教育委員会

5. 昭和50年代 (275～438)

昭和50年

275. 江上波夫『日本考古学年報(1973年版)』26 日本考古学協会
a 山田友治「江原台遺跡」
b 平野元三郎「勝間遺跡」
c 篠丸頼彦「我孫子中峠中世城跡」
d 篠丸頼彦「川原井中世遺跡」
e 白石竹雄「鳥見神社前塚群遺跡」
f 白石竹雄「清戸遺跡」
g 平野元三郎「法興寺遺跡」
276. 千葉県文化財センター『千葉県文化財センター年報』千葉県文化財センター
277. 玉口時雄『健田遺跡発掘調査報告書』千葉県教育委員会・千倉町教育委員会
278. 岡崎文喜・松浦有一郎・金刺伸吾他『夏見大塚遺跡』船橋市教育委員会
279. 栗本佳弘・三森俊彦・阪田正一「木戸作遺跡(第1次)」『千葉東南部ニュータウン』
2 千葉県都市公社
280. 栗本佳弘・種田齊吾・阪田正一「有吉遺跡(第1次)」『千葉東南部ニュータウン』3
千葉県都市公社
281. 海野道義・柿沼修平他『将門鹿島台』佐倉市教育委員会
282. 『大崎台遺跡』大崎台遺跡発掘調査団
283. 伊礼正雄・熊野正也他『白井南』佐倉市教育委員会他
284. 白石竹雄『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書』Ⅲ 千葉県都市公社
a 野村幸希「白井第2塚群(CN 202・203)」
b 鈴木道之助「木苧峠遺跡(CN 407)」
c 野村幸希「大塚塚群(CN 408)」
d 中山吉秀「並塚塚群(CN 409)」
e 中山吉秀「大野庚申塚(CN 502)」
f 中山吉秀・古内茂「北の台遺跡(CN 503)」
285. 浜名徳永他『遺跡日吉倉』芝山はにわ館
286. 倉田芳郎『千葉・干潟桜井遺跡調査概要』1 千葉県地域振興公社・干潟桜井遺跡調査団
287. 須田 勉・宮本敬一『南向原』市原市教育委員会

288. 「市原市考古学関係文献目録」『稿本市原市歴史年表』 市原市
289. 須田 勉・宮本敬一「上総国分尼寺」『仏教芸術』103 仏教芸術学会
290. 平岡和夫他『成東町埋蔵文化財分布調査報告板附古墳群』 山武考古学研究会
291. 熊野正也「下総国分寺のはなし」『市立市川博物館遺跡シリーズ』2 市川博物館
292. 滝口 宏・熊野正也「下総国分僧寺址寺域北限確認調査（速報）」『市川博物館年報—昭和49年—』 市川博物館
293. 「（下総国分寺）鏡瓦」『かみしき』14 下総史料館
294. 大橋風土「千葉県四街道町採集の内耳土器と穿孔のある瓦質土器」『Circum Pacific』2 環太平洋学会
295. 下津谷達男・戸辺慶成『鎌ヶ谷市佐津間城址、初富向山馬込』 鎌ヶ谷市史編纂委員会
296. 渋谷興平「古墳群発掘調査区内における小林城の関連遺構」『小林古墳群遺跡』 東京文化史学会
297. 桜井茂隆・吉井 宏・伊藤一男『内山城址調査報告書』 内山城址調査団
298. 小松 繁他『平良文館址』 小見川町教育委員会
299. 野村幸希「墳墓—関東—」『仏教考古学講座』7 雄山閣
300. 湯浅喜代治「蔵骨器」『かみしき』13 下総史料館
301. 斎木 勝「香取郡栗源町西田部所在の下総型板碑」『千葉県の歴史』9 千葉県
302. 平岡和夫他『湯坂古墳群調査報告』 山武考古学研究会
303. 玉口時雄他『千葉県館山市糸里遺構調査報告書』 館山市糸里遺跡調査会
- 昭和51年
304. 千葉県教育庁文化課『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報—昭和49・50年—』 千葉県教育庁文化課
305. 乙益重隆『日本考古学年報（1974年版）』27 日本考古学協会
- a 中村恵次「東寺山戸張作古墳群」
 - b 熊野正也「下総国分僧寺跡」
 - c 野中 徹「御所台遺跡」
 - d 藤下昌信「郷部加定地遺跡」
 - e 浜名徳永「右田遺跡」
 - f 浜名徳永「旧久住中南遺跡」
 - g 藤下昌信「取香川低地遺跡」
 - h 野村幸希「船尾中峠遺跡」
 - i 野村幸希「船尾白幡遺跡」
 - j 野村幸希「結縁寺塚群遺跡」

- k 野村幸希「関所塚群遺跡」
- l 倉田芳郎「干潟桜井遺跡」
306. 千葉市史編纂委員会『千葉市史—史料編—』1 千葉市
 a 第4節古墳時代…(2)古墳時代の主な集落
 b 第5節王朝時代…(1)千葉市付近の群郷、(2)王朝後半の情勢と平忠常の乱
307. 鈴木正夫・桑原 穂『千葉市文化財調査報告』1 千葉市教育委員会
 a 薬師寺崇・寺沢 薫「千葉市多部田町千葉市平和公園内遺跡確認予備調査報告」
 b 青沼道文「千葉市芳賀輪遺跡—第1次発掘調査概報—」
 c 薬師寺崇他「千葉市御殿町お茶屋御殿跡—第1次調査概要—」
 d 望月薫弘他「千葉市内の五輪塔調査報告」
308. 玉口時雄他『公津原—成田ニュータウン内遺跡の考古学的調査』 千葉県企業庁
309. 滝口 宏他『旧久住中南・右田両遺跡発掘調査報告書』 旧久住中南・右田両遺跡調査団
310. 海野道義・内田儀久他『江原台第1遺跡確認調査』 佐倉市教育委員会
311. 白石竹雄『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書』IV 千葉県都市公社
 a 中山吉秀・千葉健造「高根北遺跡(CN 406)」
312. 中村恵次・野村幸希『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書』V 千葉県文化財センター
 a 中山吉秀「清戸遺跡(CN 410)」
 b 高木博彦「鳥見神社塚群遺跡(CN 609)」
 c 中山吉秀「結縁寺塚群遺跡(CN 704)」
 d 野村幸希・古内 茂「船尾白幡遺跡(CN 705)」
 e 野村幸希「船尾中峠遺跡(CN 706)」
 f 高木博彦「関所塚群遺跡(CN 707)」
313. 三浦和信『吉高家老地遺跡』 吉高家老地遺跡調査会
314. 柿沼修平他「多古台遺跡群調査概報」『日本文化財研究所文化財調査報告』2 日本文化財研究所
315. 渋谷興平『妙名遺跡』 水資源開発公団北総東部用水建設所
316. 倉田芳郎『千葉・干潟桜井遺跡調査概要』2 千葉県地域振興公社・干潟桜井遺跡調査団
317. 須田 勉「初期地方寺院の成立事情」『房総の郷土史』4 千葉県郷土史研究連絡協議会

318. 須田 勉・半田堅三『武士遺跡』 武士遺跡発掘調査団
319. 滝口 宏・熊野正也「下総国分僧寺址西限確認調査」『市川博物館年報—昭和50年度—』
市川博物館
320. 佐々木和博「下総国分僧の寺域内地割について」『史館』6 市川ジャーナル社
321. 石井則孝「上総国の国府について（予察）」『史館』7 市川ジャーナル社
322. 須田 勉「上総国府の諸問題（1）—特にその所在地をめぐって」『古代』61 早稲田
大学考古学会
323. 篠丸頼彦・渋谷興平・波田野至郎『千葉県袖ヶ浦町川原井中世城跡調査概報』 川原
井中世城跡埋蔵文化財発掘調査団
324. 柴田龍司『千葉県夷隅町大野城址の測量調査』 立教大学考古学研究会
325. 穴倉健吉「稿本、小弓城」『千葉市南部地区誌資料』1 千葉市南部地区誌編集委員会
326. 森 尚登『国立歴史民俗博物館（仮称）設置予定地内遺構確認調査報告書』 千葉県
文化財センター
327. 山田友治「房総における古代・中世のやきものについて（2）」『史館』6 市川ジャ
ーナル社
328. 対馬郁夫他『大竹遺跡』 千葉県文化財保護協会
329. 日野一郎「日本各地の仏塔—関東—」『新版仏教考古学講座』3 雄山閣
330. 河野明美「入定塚を発見して」『千葉文華』10 千葉県文化財保護協会
331. 関 秀夫「経塚研究文献目録Ⅱ」『考古学ジャーナル』130 ニューサイエンス社
332. 梶山林継・荒木 勝『木更津市請西遺跡—昭和50年度発掘調査概報—』 木更津市教
育委員会
333. 熊野正也『臼井南—石神第Ⅲ地点発掘調査報告書』 臼井駅南土地区画整理組合
334. 斎木 勝他『千葉市中野僧御堂遺跡—千葉東金道路建設工事に伴う埋蔵文化財調査報
告1—（千葉市中野地区）』 千葉県文化財センター

昭和52年

335. 千葉県教育庁文化課『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報—昭和47・48年—』 千葉県教
育庁文化課
336. 乙益重隆『日本考古学年報（1975年版）』28 日本考古学協会
a 斎木 勝「僧御堂遺跡」
b 海野道義「江原台第1遺跡」
337. 玉口時雄『健田遺跡』 考古学資料刊行会
338. 須田 勉「坊作遺跡の調査」『上総国分寺台発掘調査概要』Ⅳ 上総国分寺台発掘調査
団・千葉県市原市教育委員会
339. 滝口 宏・石田広美・松村恵司他『山田水呑遺跡—上総国山辺郡山口郷推定遺跡の発

掘調査報告一』 山田遺跡調査会

340. 岡川宏道・鈴木定明・高田 博・矢戸三男「東寺山戸張作遺跡第1・2次調査」『千葉市東寺山戸張作遺跡』 千葉県文化財センター
341. 石井則孝・熊野正也・堀越正行『いちかわ再発見』 市川ジャーナル社
342. 小川和博・工藤英行「成田市囲護台遺跡No.10遺跡発掘調査略報」『成田市の文化財』7・8 成田市教育委員会
343. 工藤英行・小川和博「成田市加定地遺跡発掘調査報告」『成田市の文化財』7・8 成田市教育委員会
344. 高田 博他『佐倉市江原台遺跡発掘調査報告書』1 千葉県教育委員会
345. 海野道義他「江原台第1遺跡発掘調査報告」『佐倉市文化財調査報告』2 佐倉市教育委員会
346. 小林義彦・橋本寛史・嶺井文史郎・川端弘士他『間野台・古屋敷』 間野台・古屋敷遺跡調査団
347. 渋谷 貢他『坂戸遺跡』 坂戸遺跡埋蔵文化財発掘調査団
348. 矢吹俊男・篠原 正・大野正治「寺沢遺跡」『日本文化財研究所文化財調査報告』4 日本文化財研究所
349. 滝口 宏・市毛 勲他『安房国分寺第1次調査概報』 千葉県教育委員会・安房国分寺調査団
350. 安房国分寺調査団「安房国分寺第1次調査概報」『古代』62 早稲田大学考古学会
351. 寺門義範・田口 崇「千葉県萩ノ原遺跡一房総地方の古代寺院址研究」『日本文化財研究所文化財調査報告』5 日本文化財研究所
352. 寺門義範・田口 崇「千葉県市原市萩ノ原遺跡の調査」『考古学ジャーナル』135 ニューサイエンス社
353. 木更津市教育委員会『木更津市埋蔵文化財分布調査報告書一矢那川流域周辺遺跡詳細分布調査』 木更津市教育委員会
354. 平野元三郎・安藤鴻基『千葉県夷隅郡岬町上総法興寺跡一第一次発掘調査概報一』 千葉県教育委員会
355. 佐々木和博「下総国分僧寺址北方における新発見の遺物」『市川博物館年報一昭和51年度一』 市川博物館
356. 「古代建築史上重要な遺構を発見」『ちばの博物館・千葉県博物館協会報』5・6 千葉県博物館協会
357. 篠崎四郎「史跡散歩76・佐倉の長熊廃寺」『京成ライン』 京成電鉄株式会社
358. 中山吉秀・高橋良助「手賀廃寺の古瓦」『史館』9 市川ジャーナル社
359. 伊礼正雄・小高春雄『千葉県君津市久留里城址発掘調査概報』 久留里城址発掘調査

360. 関根孝夫・花嶋八十八「殿平賀遺跡」『松戸市文化財調査小報』10 松戸市教育委員会
361. 森重彰文『武石遺跡・武石館調査報告』 日本文化財研究所
362. 石田広美『国立歴史民族博物館（仮称）建設予定地発掘調査概報』 千葉県文化財センター
363. 古宮隆信『根戸城遺跡―法華坊遺跡発掘調査報告書―』 我孫子市教育委員会
364. 睦沢村史編纂会議『睦沢村史』 睦沢村 第5章 文化財と史跡
365. 中田 英「地下式土壇研究の現状について」『神奈川考古』2 神奈川考古学研究会
366. 山田友治「房総における古代・中世のやきものについて（3）」『史館』9 市川ジャーナル社
367. 谷沢良光「千葉県印旛郡白井町出土の中世陶器」『遮光器』11 みちのく考古学研究会
368. 斎木 勝「下総の板碑」『考古学ジャーナル』132 ニューサイエンス社
369. 山田常雄「灰釉蔵骨器（蓋付）」『上総博物館報』29 上総博物館
370. 野村幸希「歴史時代の塚」『考古学ジャーナル』131 ニューサイエンス社
371. 三浦和信他『吉高山王遺跡』 吉高山王遺跡調査会
372. 菊池義次・対馬郁夫・谷島一馬『松部』 千葉県文化財保護協会・松部調査団
373. 下津谷達男・飯塚博和『野田市上三ヶ尾平井遺跡』 野田市平井遺跡調査団
374. 栗本佳弘・種田斉吾・谷 旬「生浜古墳群」『千葉東南部ニュータウン』4 千葉県文化財センター
375. 田川 良『桜谷津』 桜谷津遺跡発掘調査団

昭和53年

376. 千葉県教育庁文化課『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報―昭和50（その2）・51年度―』
千葉県教育庁文化課
377. 倉田芳郎他「千葉・南総中学遺跡」『先史』10 駒沢大学考古学研究室
378. 半田堅三「台遺跡A地点の調査」『上総国分寺台調査概報』 上総国分寺台遺跡調査団
市原市教育委員会
379. 矢吹俊男・高野博光『大多喜町横山遺跡発掘調査報告書』 横山遺跡緊急発掘調査会
380. 栗本佳弘・種田斉吾「有吉遺跡（第二次）」『千葉東南部ニュータウン』5 千葉県文化財センター
381. 谷沢良光・小沢清男『千葉市平山町新山遺跡発掘調査概報』 新山遺跡発掘調査団
382. 溝口勝美・柴本一郎・吉野俊忠・岸本雅人・出口智子『千葉県八千代市桑納前畑遺跡』
睦小学校北方遺跡調査会
383. 沼沢 豊他『佐倉市飯合作遺跡』 千葉県文化財センター
384. 森重彰文「第2千成サニータウン埋蔵文化財確認調査」『日本文化財研究所文化財調査

報告』9 日本文化財研究所

385. 海野道義・田村言行他『江原台第1遺跡発掘調査報告』3 佐倉市教育委員会
386. 平田哲也・篠原 正他『新橋遺跡発掘調査報告』 富里村村史編纂委員会
387. 宮川慎一郎・浜名徳永『千葉県佐原市阿広台遺跡発掘調査報告書』 阿広台遺跡調査団
388. 西野 元・池田大助・奥田正彦『佐原市神田台遺跡』 千葉県教育委員会
389. 古宮隆信「豊四季遺跡発掘調査報告書」『南台（第1次・第2次）豊四季遺跡発掘調査報告書』 豊四季・南台遺跡発掘調査団
390. 矢野慎一他『南台遺跡発掘調査第二次報告書』 豊四季遺跡・南台遺跡発掘調査団
391. 千葉県立房総風土記の丘資料館『企画展 房総の古瓦』展示図録4 千葉県立房総風土記の丘資料館
392. 須田 勉「房総の古瓦に関する覚書（1）」『古代』64 早稲田大学考古学会
393. 滝口 宏・市毛 勲他「安房国分寺第2次調査概報」 千葉県教育委員会・安房国分寺調査団
394. 須田 勉「上総国分寺の造瓦組織と同範瓦の展開」『史館』10 市川ジャーナル社
395. 須田 勉「川原井廃寺と古代東海道」『南総郷土文化研究会会誌』11 南総郷土文化研究会
396. 滝口 宏・市毛 勲他『木下別所廃寺跡第一次発掘調査概報』 千葉県教育委員会
397. 千葉県文化財センター『我孫子市日秀西遺跡の調査概要〈記者会見時の資料〉』 千葉県文化財センター
398. 小室栄一・菊池真太郎『館山城跡調査概報』1 館山城調査会
399. 小櫃村誌編纂委員会『小櫃村誌』 君津市「第9章金石文・城址・遺構」
400. 清川一史「山武郡の中世城郭」『歴史手帖』6-2 名著出版
401. 伊礼正雄・橋口定志『大野城跡発掘調査報告』 大野城跡緊急発掘調査会
402. 下津谷達男他『加村台遺跡—1976年度発掘調査報告書一』 流山市教育委員会
403. 八千代市編纂委員会『八千代市の歴史』 八千代市
第三章 中世
404. 平岡和夫・伊藤一男他『助崎城址』 助崎城址遺跡調査団
405. 林 陸朗・古宮隆信『法華坊遺跡・北ノ内遺跡発掘調査報告書（第Ⅱ次）』 我孫子市教育委員会
406. 下津谷達男「鎌ヶ谷市万福寺裏山で中世の墓地を発掘」『考古学ジャーナル』156 ニューサイエンス社
407. 折原 繁・須田 勉・斎木 勝・矢戸三男「築地台貝塚」『千葉市築地台貝塚・平山古墳』 千葉県文化財センター

408. 野村幸希「経塚の地域的分布—関東—」『考古学ジャーナル』 153 ニューサイエンス社
409. 山田友治他『鷹の見遺跡発掘調査報告書』 流山市思井鷹の見遺跡発掘調査団
410. 越川敏夫他『名古屋経塚群—千葉県香取郡下総町名古屋経塚群の調査—』 下総町教育委員会
411. 乙益重隆・三森俊彦『木更津市菅生第2遺跡—大寺浄水場建設に伴う埋蔵文化財試掘調査報告—』 菅生遺跡調査会
412. 渋谷興平・渋谷 貢『大寺遺跡』 北総東部用水事業埋蔵文化財発掘調査団

昭和54年

413. 鈴木普二男『白井町の文化誌』
414. 野村幸希・菊池真太郎他『千葉市城の腰遺跡—千葉東金道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告3—(千葉市大宮地区)』 千葉県文化財センター
415. 矢戸三男・谷 旬他『千葉市西屋敷遺跡—千葉東金道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告4—(千葉市大宮地区)』 千葉県文化財センター
416. 栗本佳弘・上村淳一「椎名崎遺跡」『千葉東南部ニュータウン』 6 千葉県文化財センター
417. 中山吉秀他『流山市桐ヶ谷新田遺跡』 桐ヶ谷新田遺跡調査会
418. 栗本佳弘・田坂 浩「ムコアラク遺跡」『千葉東南部ニュータウン』 8 千葉県文化財センター
419. 瀬戸久夫他『千葉市奈木台・藤沢・中芝・清水作遺跡』 千葉県文化財センター
420. 海野道義他『江原台』 佐倉市教育委員会
421. 谷 旬・奥田正彦『江原台第1遺跡発掘調査報告』 4 佐倉市教育委員会
422. 山岸良二他『高野台遺跡発掘調査報告書』 柏市教育委員会
423. 柿沼修平・村山好文他「千葉縣市原市土宇遺跡発掘調査報告」『日本文化財研究所文化財調査報告』 6 日本文化財研究所
424. 滝口 宏・市毛 勲他「安房国分寺第3次調査概報」 千葉県教育委員会・安房国分寺調査団
425. 滝口 宏・市毛 勲・多宇邦雄・安藤鴻基他『木戸別所廃寺跡第二次発掘調査概報』 千葉県教育委員会
426. 山岡俊明・内野美三夫・菊池真太郎『館山城跡調査概報(第二次)』 館山城跡調査会
427. 伊礼正雄・小高春雄『上総久留里城』 君津市教育委員会
428. 古内 茂・斎木 勝「やかたと板碑」『北総台地』 岡崎文喜・古内 茂
429. 古宮隆信・松尾雅裕「中世城郭遺構」『戸張城山遺跡発掘調査報告書』 東京都文京区

教育委員会、戸張城山遺跡発掘調査団

430. 半田堅三「本邦地下式壙の類型学的研究」『伊知波良』2 伊知波良刊行会
431. 谷島一馬「御林跡遺跡の調査」『上総国分寺台調査概報』 上総国分寺台遺跡調査団
432. 「請西火葬墓」『請西』 木更津市請西遺跡調査会
433. 須田 勉「西谷・加茂古墳の調査」『上総国分寺台調査概報』 上総国分寺台遺跡調査団
434. 竹石健二他『八千代市村上古墳群』 八千代市都市部都市計画課
435. 小川和博・工藤英行「川栗台古墳群発掘調査報告（一）」『成田市市の文化財』10 成田市教育委員会
436. 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター「古代地方官衙遺跡関係文献目録、Ⅰ総論・東日本篇」『埋蔵文化財ニュース』 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター
437. 古里節夫他『幸田貝塚第8次（昭和53年度）調査概報』 松戸市教育委員会
438. 千葉県教育庁文化課『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報一昭和52年度一』 千葉県教育庁文化課
439. 渋谷 貢『大寺出羽遺跡』 北総東部用水事業埋蔵文化財発掘調査団

〈追 補〉

昭和34年

440. 山田 巖「浅間台古墳」『成田史談』5 成田史談会

昭和46年

441. 川瀬 浩「竜角寺の伽藍配置」『成田史談』17 成田史談会

昭和47年

442. 「（下総国分寺鎧瓦）『かみしき』5 下総史料館
443. 清水浦次郎『山武郡の古城址』 清水浦次郎遺稿刊行会

昭和48年

444. 滝口 宏『上総国分寺』 千葉県教育委員会

昭和49年

445. 千葉市教育委員会『千葉市史』 千葉市
446. 「池の尻遺跡発掘調査レポート」 学習院大学輔仁会史学部
447. 鈴木普二・山田友治「県指定常滑三筋壺について」『史館』3 市川ジャーナル社

昭和50年

448. 千葉市教育委員会『千葉市史』史料編 千葉市
449. 山田友治「房総における中世のやきものについて」『史館』5 市川ジャーナル社
450. 米内邦雄他『志津西ノ台遺跡』 佐倉市教育委員会

昭和51年

451. 柿沼修平他『成田市林西遺跡発掘調査報告』 成田市教育委員会他
452. 篠丸頼彦『多古の城址』 多古町教育委員会

昭和53年

453. 佐藤克己『船尾城遺跡』 印西町教育委員会

昭和54年

454. 須田 勉「房総の古瓦に関する覚書（2）—川原井廃寺—」『古代』65 早稲田大学考古学会
455. 高木博彦「墨書土器よりみた房総古代仏教の一側面」『ミュージアムちば』10 千葉県博物館協会
456. 平岡和夫『成田用水—水資源開発公団成田用水関係埋蔵文化財発掘調査報告書』 高田権現・大台西・上吹入・林遺跡調査会他
457. 小川和博『成田市間野台遺跡発掘調査報告』 間野台遺跡発掘調査会他
458. 石田守一他『鹿島前遺跡—第一次発掘調査概報』 我孫子市教育委員会
年度不明

459. 名主山遺跡調査団『名主山』 名主山遺跡調査団

昭和55年

460. 大木 衛・小笠原清『日本城郭大系』6 新人物往来社

墨書土器に関する文献

- 滝口宏 他『印旛・手賀沼周辺地域埋蔵文化財調査』本編」千葉県教育委員会 文献番号 100
「墨書土器4件」 昭和36年3月15日
岡 俊彦「市川市国府台出土の墨書土器」『歴史考古』9.10号 歴史考古会 文献番号112
金刺伸吾「本郷町出土の墨書土器」『古代』52 早稲田大学考古学会 文献番号160
早稲田大学考古学研究室『墨書土器』2、 出版月日不詳
佐藤次男『墨書土器出土地名表』昭和32年1月15日 考古学会
藤下昌信「成田市域内(成田ニュータウン以外)出土の墨書ヘラ書土器銘文果成」
『成田市の文化財』第10昭和54年3月
成田市教育委員会
千葉県立房総風土記の丘『文学は語る』昭和52年9月13日

Ⅱ 遺 跡 概 要

1 集 落 跡

11201 若宮遺跡 (C地区) (127,178-a)

- ① 市原市山木地内若宮
- ② 上総国市原郡市原郷
- ③ 東京湾に接する台地で小支谷が発達する台地上に位置する遺跡はA地区よりD地区まで調査されているが、C地区及びB地区(70軒内国分も検出)で歴史時代の遺構が検出された。
- ④ 重複する遺構が多いため、遺構の全容及び出土遺物はあまり明確でなく、よって時期比定も確かでないが歴史時代に比定される遺構はC-4・5, E-15の3軒である。
- ⑤ 遺物は稀少であるが、国分期に比定して良いようである。

11202 南大広遺跡 (137)

- ① 市原市能満字車皿計
- ② 上総国市原郡市原郷
- ③ 東京湾に突出した台地上で村田川が開析する台地で若干内陸に入った所に位置する。集落跡、製鉄跡の遺跡である。
- ④ 堅穴住居跡は北壁中央部にカマドが設置され、柱穴が見られるが、2号は壁構なし。製鉄跡は長10m巾3.9mを計る大型のもので、フイゴ、釘あるいは墨書土器、坏、甕等の遺物を多く出土している。
- ⑤ いずれも国分期

11203 菊間遺跡 (247)

- ① 市原市菊間字北野
- ② 上総国市原郡菊間郷
- ③ 村田川が東京湾に注ぐ直前著じるしい

屈曲を呈す左岸の舌状台地上に位置する。弥生時代中期、後期、歴史時代の複合遺跡である。

- ④ 弥生時代の住居跡及び円形周溝と重複を呈しているため検出状況は良好でないが、5軒の歴史時代の住居が検出された。
- ⑤ いずれも国分期に比定され、カマド内より瓦が出土している点注目した。現在のところ比定寺院あるいは窯跡等との関係は不明である。

11204 萩ノ原遺跡 (351,352)

- ① 市原市上高根字萩ノ原
- ② 上総国海上郡福良郷
- ③ 養老川左岸で松川という小河川の源基部にあたる南から北にのびる舌状台地に位置する。2基の基壇、4基の柱列遺構、22軒の堅穴住居跡、土壇6基、楕円形ピット14基、製鉄跡5基等が検出されている。
- ④ 堅穴住居跡は22軒、プランは一定せず方形を基調としているが長方形を呈するものもある。カマドは堅穴住居跡北壁の一辺に構築されており甕をいく重にも重ね煙道を作っている例も多く認められる。柱穴は対角線上を基調とし数ヶ所にわたり検出されている。また壁溝も設けられている例が多い。
- ⑤ 甕、坏、皿等出土している。甕はカマドの煙道に使用されていたためか出土例が多い。坏は糸切りをヘラで調整したものが多くいようである。しかし体部がヘラ削り調

整されたものもあり、必ずしも同一時期でないだろう。また18号出土の坏は他の坏と比較すると生産地が異なると思えるような異質な状況を呈するものである。その他、青銅製鈔帯が出土している。

11204 萩ノ原遺跡 (351, 352)

- ① 市原市上高根字萩ノ原
- ② 上総国海上郡福良郷
- ③ 前記の通り
- ④ 5基の製鉄跡がある。いずれもプランは不正な形状を呈し、その状況は不明な点が多いが焼土等製鉄遺構として性格を具備しているといえるであろう。
- ⑤ 羽口が12点出土している。

11205 坊作遺跡 (338)

- ① 市原市山田橋679
- ② 上総国市原郡海部郷
- ③ 養老川下流の北岸台地上に所在し、上総国分尼寺跡の北側に位置する遺跡である。発掘調査は昭和52年度に約18,000㎡の区域が実施された。検出された遺構は奈良、平安時代の住居跡等が中心であるが、その他に縄文時代早期の炉穴15基、落穴58基、弥生時代後期の住居跡41軒であり、古墳時代の遺構、遺物は皆無であった。

本遺跡は、上総国分尼寺と密接な関係にある遺跡と考えられている。

- ④ 住居跡 141軒・掘立柱建物跡21棟
- ⑤ 土師器(甕、瓦、坏等)・須恵器(坏甕等)・瓦類等である。

11206 祇園原貝塚

- ① 市原市根田
- ② 上総国市原都市原郷
- ③ 養老川の開析する広大な沖積地に望む

台地上に位置する。台地は小支谷が著しい発達を呈しており遺跡は支谷最奥部近くに位置する縄文時代後期、弥生時代、歴史時代の複合遺跡である。

④ 当該期の住居は3軒検出されているが概報では39号の記載のみである。

壁溝、柱穴はなし。カマドは瓦芯構築される北カマド。

⑤ 土師器(坏)須恵器(長頸壺)真間期に比定可能である。

12401 山田水呑遺跡 (339, 147)

- ① 東金市大字山田字水呑新田
- ② 上総国山辺郡山口郷
- ③ 太平洋に注ぐ真亀川支流の小野川により複雑に谷が開析される付近の台地上に位置し、台地両側には印旛沼に注ぐ鹿島川の支流が位置している。先土器時代、縄文時代、歴史時代の複合遺跡である。
- ④ 掘立柱建物跡52棟、竪穴住居跡 143軒が検出されている。竪穴住居跡は小型のものまで整然と造られており柱穴、壁溝も良好である。掘立柱建物跡は2間3間の規模が多く東西棟と南北棟と量的には同数に近い。
- ⑤ 出土遺物は真間、国分期の土器、鉄器、銅製品が出土し、スラグを出土した住居も数軒認められる。また墨書が多く注目される。

12601 湯坂遺跡 (180, 215-o)

- ① 山武郡成東町大字湯坂
- ② 上総国武射郡畔代郷
- ③ 作田川が太平洋に注ぐ手前に洪積台地が終り沖積地が始まる付近の東方に延びる舌状台地にかかる河岸段丘上に位置する。古墳時代前期から奈良時代の集落と古代寺院跡の複合遺跡である。

④ 竪穴住居跡であるが削平のため覆土及び壁高は低い。カマドは北壁中央部に設置されるが分明を欠く点が多い。柱穴は認められない。

⑤ 鬼高期の流れを有する甕・甔が出土。坏類は底部の大きい平底のもの、平底であるが体部の立ち上がり若干丸味を有するもの等真間の古い時期のものと思われる。八葉素弁連華文鐙瓦が出土している。

14101 下花輪第二遺跡 (218)

① 流山市下花輪

② 下総国葛飾郡茂呂郷

③ 江戸川の沖積地に突出したような台地上に位置し、支谷が著しく発達している。縄文時代、弥生時代、古墳時代、歴史時代の複合遺跡である。

④ 概報のため詳細については分明を欠く。

⑤ 11号住居跡(国分期)から銅鈴が床面より出土している。

14102 加村台遺跡 (402)

① 流山市加村1226-6

② 下総国葛飾郡茂呂郷

③ 江戸川の沖積地帯と江戸川に向う小支谷とが集合する所の北方に突出する台地上に位置している。弥生時代、古墳時代、奈良時代、旧本多藩加村台屋敷跡、旧葛飾印旛両県庁跡等の複合遺跡である。

④ 奈良、平安時代に比定される遺構は明確には遺物の出土しているH2号のみである。カマド、壁溝、柱穴等住居の機能を有しているが疑問である。H3号も同時期として良いと思われるが遺物はない。

⑤ H-2真間(土師の坏、須恵の坏、2点のみ)

14103 桐ヶ谷新田 (417)

① 流山市西初石

② 下総国葛飾郡茂呂郷

③ 江戸川左岸、下花輪から侵入する支谷の奥部東岸台地縁にあり縄文から近世の複合遺跡である。

④ 住居跡1軒(3.35^m×2.35^m)東カマドを有す。

⑤ 須恵器(坏、甕)、土師器(甕)、土製品。

14201 金桶台遺跡 (249)

① 松戸市紙敷西金桶台

② 下総国葛飾郡井上駅郷

③ 東京湾に突出する広大な洪積台地の基部近くに位置し紙敷方向に入る支谷の北面の台地上に位置する。調査は路線敷のみであるため未調査部分に遺構の存在も考えられる。

④ 真間期の住居跡1軒、縄文時代後期、歴史時代の複合遺跡である。

14301 須和田遺跡 (29, 33, 77, 108-b)

① 市川市須和田

② 下総国葛飾郡葛飾郷

③ 国府台地の一部で南は市川市街地のある低地にのぞみ、西から東に向って舌状に張り出す土地で、北は国分台地との間に根古屋低地が狭に侵入している。

④ 竪穴住居跡5軒、報文では1号址A、B、Cとなる。また2号址A、Bで計5軒である。単独住居でなく、重複関係を呈している。いずれもカマドを有し壁溝も認められるが柱穴と思われるものがない。また住居跡を囲むようにV字状の溝状遺構が検出されている。その他市川市史には28軒の調査例が記載されている。真間A地点9軒、B地点6軒。国分A地点3軒、B地点12軒

である。

⑤ 甕がなく坏類が支配的である。坏、皿等には墨書の認められるものがあり、1号住居跡からは布目瓦が出土している。

14302 国分校地遺跡 (250)

- ① 市川市国分町1980-2049番地
- ② 下総国葛飾郡葛飾郷
- ③ 江戸川右岸、洪積台地が終り沖積地になる、その洪積台地南端部に位置し国分僧、尼寺に国府等の推定地に接する地域である。
- ④ 奈良、平安時代の住居が支配的である。北壁にカマドを設置される例が多く壁溝、柱穴は各々普遍性を有していない。遺跡は旧陸軍練兵場になっていたため部分的に攪乱を生じているため22軒の住居が全体であるとは考えられない。
- ⑤ 甕、坏等一般的に観られるものの他、鏡瓦は宝相華文で下総国分寺創建時の瓦当文。新羅系瓦。宇瓦は心葉形宝相華文。

14303 権現原遺跡

- ① 市川市北国分町3227、3229番地
- ② 下総国葛飾郡葛飾郷
- ③ 市川市北部の東から西に深く入り込んだ支谷によって開析された低平な台地に位置している。縄文時代の貝塚との複合遺跡である。
- ④ 当該期の住居は1軒のみである。不正な方形を呈し、東壁にカマドが設置されている。柱穴はなし。
- ⑤ 土師器、坏、甕、甗が出土。真間期の最新とされるものである。

14501 夏見台遺跡 (138,178-b)

- ① 船橋市夏見町2丁目
- ② 下総国葛飾郡大結郷

③ 東京湾に突出した南北に細長い洪積台地で台地東辺部に位置する。古墳時代後期から歴史時代の集落遺跡である。

④ 当該期の住居は著しい削平を生じているため遺物も稀少である。

⑤ 真間、国分、1.9.18より鉄器が出土。

14502 夏見大塚遺跡 (215,278)

- ① 船橋市夏見町大塚
- ② 下総国葛飾郡大結郷
- ③ 東京湾に突出した南北に細長い洪積台地で台地先端部に位置する。弥生時代から歴史時代の集落。
- ④ 当該時期は1号址1軒である。
- ⑤ 国分期、鉄鎌出土。

14503 印内遺跡 (216)

- ① 船橋市印内町163-1
- ② 下総国葛飾郡大結郷
- ③ 東京湾に開析する2本の細長い谷にはさまれ、さらに東方の谷が西方の谷に続くような状況を呈し独立台地のごとくを呈している。
- ④ 第1地点より第3地点まで分れているが遺物の性格上、同一遺跡として把握してよいと思われる。カマドは北壁中央部に位置する遺構が多い。第1地点の1号、7号第2地点の6号、第3地点1、2号等はカマドはなく特異な住居である。ただし出土遺物からは、当該期にはカマドは存在しないものになるのかもしれない。
- ⑤ 合計16軒の住居跡は奈良から平安初期と思われる遺物であるが、カマドのない5軒の住居跡は燈明皿風の坏が多く出ており、平安も後半の時期に比定できるものであろう。また甕の中に武蔵地域において散見で

きるものがあり、下総での相対年代を調べ
る中で貴重な資料となろう。

14504 法蓮寺山遺跡 (216)

- ① 船橋市藤原町1-225-4外
- ② 下総国葛飾郡大結郷
- ③ 柏井支谷の台地上に位置し、先端部に
本遺跡が位置しており、今島田、姥山貝塚
等に近接して位置している。
- ④ 一辺3 m弱の竪穴住居であるが、北壁
部は斜面にかかるため壁の遺存度はきわめ
て良くない。壁高は5 cm程度で、床面が比
較的堅緻であったため、それに遺物が出土
してきたために、その存在が認められた遺
構である。柱穴、カマド、壁溝等皆無であ
る。
- ⑤ 環類が支配的で甕類は皆無に近い状況
である。糸切りのままの底部で高台付環も
見られる。生活址か疑問である。

14701 仁戸名遺跡 (196)

- ① 千葉市仁戸名町720-1
- ② 下総国千葉郡千葉郷
- ③ 東京湾にのぞむ下総台地西端部で東を
都川の支谷、そして西は東京湾の支谷が著
しい洪積台地に位置する。古墳、古墳時代
後期と歴史時代の集落である。
- ④ 当該期の遺構はD地点にかぎり認めら
れている。1～5号が該当するようである
が、1は鬼高の新しい段階、5は遺構が著
しく攪乱されているため不明でない。柱穴
群等は検出されていない。
- ⑤ 真間、国分

14702 宮脇遺跡 (219)

- ① 千葉市畑町2042番
- ② 下総国千葉郡駅家郷

③ 花見川が東京湾に注ぐ直前大きく屈曲
を呈する左岸の舌状台地上に位置する。
古墳時代前期、中期、歴史時代の複合遺跡
である。

- ④ 当該期の遺構は1号住居跡1軒である。
攪乱が著しいため不明を欠く部分が多いが
北壁中央部にカマドが位置している。壁溝、
柱穴はない。
- ⑤ 甕形土器1点である。

14703 高品第2遺跡 (217)

- ① 千葉市高品町100～1番
- ② 下総国千葉郡三枝郷
- ③ 東京湾方向へ開析する都川谷の一支谷
である貝塚支谷の西側、小河川により形成
される洪積台地である。7世紀から8世紀
後半までの集落遺跡である。
- ④ 相対的に西壁中央にカマドが構築され
る例が支配的である。住居跡間に大小の差
を生じている。概して壁溝、柱穴等が設置
されている。
- ⑤ 真間に比定できるものが多く、国分は
少ない。刀子、鎌、鏃、鉄斧等鉄器が出土
している。

14704 木戸作遺跡 (279)

- ① 千葉市椎名崎町895番地
- ② 下総国千葉郡千葉郷
- ③ 東京湾に注ぐ村田川の河口近く広大な
沖積地を形成するか、その沖積地に突出す
る小支谷が著しい発達をする台地上に位置
する縄文時代、古墳時代、弥生時代の複合
遺跡である。
- ④ 当該期の住居は3号址1軒である。北
壁にカマドを有し、壁溝が全周するが柱穴
は検出されない。また床面に壁溝際より溝

が床面中央部に検出されている。

⑤ 国分期の甕、坏等が出土。

14705 有吉遺跡 (280)

① 千葉市有吉町628-643

② 下総国千葉郡千葉郷

③ 村田川下流域に広がる沖積地の北岸でV字状に入り込む狭長なイズミ谷津と赤塚支谷の谷口に形成された、北から南の舌状台地に位置する。検出遺構数 176軒、和泉1、鬼高40、真間39、国分82で平安時代の遺構が支配的である。その他工塚(墓)が検出されている。

④ 住居跡は壁の一辺にカマドが設置され柱穴がないものが支配的である。また壁溝は無いもの、有るものがある。カマドの対面する壁に接する床面に小ピットが検出される住居跡が少なくない。柱列遺構がこの時期の集落にあっては検出し得なかったのは特筆すべきであろう。

⑤ 遺物を焼成する際の焰の状況により、酸化焰A、還元焰B、不明(A・Bいずれか)Cとし遺物を表現する総対的にAが支配的であるがCの存在も注目される場所である。坏は粘土紐巻き上げロクロ整形、甕はヘラ削調整されるものが多く、中には叩き目が認められるものもある。またロクロ整形の比較的小形なものもある。

14705 有吉遺跡 (第2次) (380)

① 千葉市有吉町628-643

② 下総国千葉郡千葉郷

③ 第1次調査と同じ

④ 北カマド東カマドのものがあり必ずしも統一的でない。また壁溝、柱穴も同様設置されているものとそうでないものがある。

る。第1次同様掘立柱建物跡は検出されていない。

⑤ 国分期に比定される。

14706 芳賀輪遺跡 (307-b)

① 千葉市野呂町714

② 下総国千葉郡千葉郷

③ 印旛沼に注ぐ鹿島川上流域で分岐する分部の台地上で若干の小支谷が発達している。遺跡は沖積地に南面する台地上に位置する。縄文時代、歴史時代の複合遺跡である。(第1次より第3次調査まで実施)

④ 北カマドをとり壁溝はいずれも設置されているが柱穴は認められない。掘立柱建物跡は検出されていない。

⑤ 土師器は真間、国分期である。

14707 東寺山戸張作遺跡 (340)

① 千葉市東寺山町454-464

② 下総国千葉郡三枝郷

③ 東京湾内湾に接する支谷が著るしく発達する台地上に位置する。先土器から縄文、弥生、古墳時代そして江戸時代に亘る遺跡である。古墳時代、古墳、滑石模造品の工房址群、江戸時代塚等である。

④ 当該期の住居跡1軒のみ緩斜面に構築され、東壁の立ち上がりは認められない程度である。北壁中央カマド。

⑤ 甕類より坏類が多く内面黒色処理のものも多い。国分期に比定可能である。

14708 新山遺跡 (381)

① 千葉市平山町

② 下総国千葉郡千葉郷

③ 都川右岸に位置する洪積台地上にある古墳時代後期から歴史時代の集落。

④ 古墳時代後期、歴史時代の竪穴住居跡

と歴史時代の掘立遺構が検出される。当該期は8、9号跡のみである。ただしこれは国分期ということのみで正式報告がないので真間の存在については分明を欠く。

⑤ 8号灰釉高台付皿、鉄器、掘立柱建物遺構2号、灰釉手付小瓶。

14709 ムコアラク遺跡 (418)

① 千葉市大金沢町888番地

② 下総国千葉郡千葉郷

③ 東京湾に注ぐ村田川が開析する小支谷の基部に位置している。後期古墳と古墳時代の、歴史時代の複合遺跡である。

④ 堅穴住居跡が支配的で、遺構等は確認されていない。堅穴住居跡は柱穴壁溝の具備するものが普遍的であり、中には覆土中に貝ブロックを充満するものも見られる。また性格不明の土壌が検出されている。

⑤ 遺物は国分、真間期の歴史時代の遺物、古墳時代鬼高期のものが出土している。土師器は甕、坏等が多量に出土している。墨書、ヘラ書が出土。その他鉄製品、青銅製品、土製品、石製品等出土している。

14710 城の腰遺跡 (414)

① 千葉市大宮町769番地

② 下総国千葉郡糟荏郷

③ 東京湾に注ぐ都川支流と都川が合流する地点の台地上に位置し支流の沖積地に南面する。台地上は中世の城郭が位置する。縄文時代、弥生時代、古墳時代、歴史時代の複合遺跡である。

④ 当該期住居は2軒検出されている。17号は北カマドを有するものであるが、79号はカマド等ない。その他、当該期の土壌が1基ある。

⑤ 国分期に比定できる。079からは小型の台付甕形土器が出土している。

14711 西屋敷遺跡 (414)

① 千葉市大宮町890番地

② 下総国千葉郡糟荏郷

③ 東京湾に注ぐ都川支流と都川が合流する地点の台地上に位置し、支流の沖積地に南面する。縄文時代、弥生時代、古墳時代、歴史時代の複合遺跡で中近世の土壌墓群は注目される。

④ 当該期の住居跡は9軒である。いずれも北カマドをとるものが支配的である。掘立柱建物跡は検出されていない。

⑤ 真間期、国分期の土師器であるが、真間期の好資料を提供している。

14712 駒形遺跡

① 千葉市作草部町995番地

② 下総国千葉郡三枝郷

③ 葭川の左岸の小支谷が発達した台地上に位置する。弥生時代、古墳時代、歴史時代の複合遺跡である。

④ 堅穴住居が支配的で掘立等の遺構は皆無である。

⑤ 土器の他に多量の鉄製品が出土していることが注目されよう。

14713 椎名崎遺跡 (416)

① 千葉市椎名崎町420番地

② 下総国千葉郡千葉郷

③ 東京湾に突出した洪積台地で小支谷が著しく発達している東西に細長い台地に位置している。先土器時代、縄文時代、古墳時代後期、歴史時代の複合遺跡である。

④ 当該期の堅穴住居は50軒検出されている。北壁にカマドが設置されているものが

多く、中には東カマドも散見できる。柱穴、壁溝が設置されるものが多い。

⑤ 真間、国分期の土器、鉄製品等が出土している。

14901 千代田遺跡 (197)

① 印旛郡四街道地区物井地区

② 下総国千葉郡物部郷

③ 印旛沼に注ぐ手繰川上流で著じるしい小支谷により形成された台地上に位置する。縄文時代、古墳時代、歴史時代の複合遺跡である。

④ 概ね北壁中央部にカマドが設置される、壁溝及び柱穴は認められる。

⑤ 若干の国分も含むが真間が支配的である。

15001 村上込の内遺跡 (251-c, 215-h)

① 八千代市村上字込の内

② 下総国印旛郡村神郷

③ 東京湾に注ぐ花見川と印旛沼に注ぐ新川の分水嶺に近く、新川の右岸に位置する。台地は西方より入る小支谷が発達しており遺跡はその最奥部分に近く位置している。縄文時代、弥生時代、古墳時代、歴史時代の複合遺跡で村上第1塚群、第2塚群等が隣接している。

④ 遺構は竪穴住居跡が支配的で155軒あるが、掘立柱建物跡も24棟検出されており、大きく4ブロックに分かれており、竪穴住居跡との関係が注目される。

⑤ 真間、国分期の土器、それに鉄製品、石製品それに銅製品の銚帯等出土している。また墨書土器が多量に出土しているのが注目される。

15002 高津遺跡

① 八千代市高津833番地他

② 下総国千葉郡萱田郷

③ 印旛沼に注ぐ新川と東京湾に注ぐ花見川の分水嶺に広く開析する支谷があり、その支谷の最奥部の台地上に位置する。

④ 検出されれば遺構は竪穴住居跡2軒で、いずれも国分期に比定される。壁溝、カマドはいずれも設置されるが、柱穴は規則的でない配置である。

⑤ 2号跡より、土師器(坏)土製支脚が出土している。

15003 桑納前畑遺跡 (382)

① 八千代市桑納170

② 下総国千葉郡草田郷

③ 八千代市街の北方、新川西岸の標高約23.5mを測る平坦な台地上に広範囲にわたって所在する。調査結果は奈良、平安時代の遺構の外、縄文時代の土壘や時期不明の溝等が検出された。

④ 住居跡2軒、掘立柱建物跡2棟。

⑤ 真間式土器(甕)国分式土器(甕、坏他)

15101 東和田遺跡 (179-g)

① 成田市東和田中

② 下総国埴生郡山方郷

③ 根木名川本流と成田市寺台付近で合流する支流によって形成される舌状の台地上に位置する。古墳時代後期、歴史時代の複合遺跡である。

④ いずれも北壁にカマドが設置されている。壁溝のないもの、柱穴のないもの等さまざまである。

⑤ 国分期比定できる。

15102 中囿護台遺跡 (220,246-a)

- ① 成田市成田1297-1998
- ② 下総国印旛郡八代郷
- ③ 北総台地の北端で西は印旛沼、北から東に利根川に続く根古名川支谷、南は印旛沼系の江川支谷にかこまれた洪積台地に位置する。
- ④ 縄文、歴史時代の複合遺跡である。歴史時代に比定できる遺構は竪穴住居跡1軒である。
- ⑤ 真間期に比定できる。

15103 土室遺跡 (252)

- ① 成田市土室827番地
- ② 下総国香取郡磯部郷
- ③ 荒海川と尾羽根川にかこまれた洪積台地上に位置する。
- ④ 縄文時代、古墳時代後期、歴史時代の遺構が発掘されている。
- ⑤ 国分期はH-8号のみ1軒。

15104 野毛平同免取香川低地遺跡 (274, 305-g)

- ① 成田市野毛平同免
- ② 下総国殖生郡山方郷
- ③ 根木名川と小橋川が合流する地点近く香取川の形成する沖積地に位置する。
- ④ トレンチ調査の結果遺構は皆無。
- ⑤ 国分期・坏類が多い。甕は1点、坏には墨書がある。

15105 山谷遺跡 (343)

- ① 成田市幡台字桜谷津941-3
- ② 下総国香取郡磯部郷
- ③ 尾羽根川と荒海川に挟まれた東西に細長い台地で両河川による小支谷が発達する最奥部に位置する。

- ④ 歴史時代の住居跡が7軒調査されている。5号跡のみカマドが設置されていない。
- ⑤ 報告書中に遺物の挿図がないため分期を欠くが一覧表によると国分期として良いであろう。

15106 囿護台遺跡郡No.10遺跡 (342)

- ① 成田市国護台1280番地
- ② 下総国印旛郡八代郷
- ③ 北総台地の北端で西は印旛沼、北から東に利根川に続く、根古名川支谷、南は印旛沼系の江川支谷にかこまれた洪積台地に位置する。中囿護台遺跡と隣接する遺跡である。
- ④ 住居跡33軒、掘立遺構が検出された遺跡である。
- ⑤ 遺物については整理中であり、詳細については不明でない。

15107 加定地遺跡 (305-d,343)

- ① 成田市郷部字加定地339-358
- ② 下総国殖生郡殖生郷
- ③ 小橋川が囿護台地先で大きい南方へ向きを変えた右岸の舌状台地に位置する。
- ④ 古墳時代から近世までの複合遺跡。国分期は2軒。
- ⑤ いずれも国分期。

15108 旧久住中南遺跡 (305-f,309)

- ① 成田市幡谷字桜谷津937-1
- ② 下総国香取郡磯部郷
- ③ 荒海川と尾羽根川とにはさまれる台地で著しく小支谷を形成しており、第1地点・第2地点ともにその小支谷の最奥部に位置している。縄文時代、古墳時代、歴史時代の複合遺跡である。当該期の住居跡は第1地点で2軒第2地点で2軒調査されている。

る。

④ いずれも北壁にカマドが設置されており、第1地点では壁溝柱穴が認められる。また第2地点では火災住居も認められる。

⑤ 真間、国分期の土師器及び鉄器が出土している。

15109 Loc 1遺跡 (308)

① 成田市成田ニュータウン内 (囀護台)

② 下総国印旛郡八代郷

③ 小橋川の支谷が複雑に入り込み一種の樹枝状の谷が発達し、北方より南西に向けて入る狭長の一支谷の最奥部の南側の台地上に位置している。

④ 当該期の住居は概ね壁溝、柱穴が認められ、カマドが北壁中央部に設置されている。

⑤ 真間、国分期の土器、土製品等である。

15110 Loc 4遺跡 (308)

① 成田市成田ニュータウン内 (江弁須)

② 下総国印旛郡八千代郷

③ 江川が開折する小支谷が著しく発達しており、台地縁辺の小舌状台地上に位置している。縄文時代、歴史時代の複合遺跡である。

④ 当該期の住居は、4軒で北壁中央部にカマドが設置されるが柱穴は認められない。

⑤ 国分期の土器。

15111 Loc 7遺跡 (308)

① 成田市成田ニュータウン内 (加良部)

② 下総国印旛郡八代郷

③ 小橋川によって形成される広い谷の最奥部の南側で南側に延びる西側の支谷に面し舌状に突出する台地上に位置する。

④ 住居跡は7軒検出されており、カマド

が北壁中央部に設置されている。いずれも壁溝、柱穴が設置されている。

⑤ 国分期の土器、鉄製品、土製品等である。

15112 Loc 19遺跡 (308)

① 成田市成田ニュータウン内 (谷津崎)

② 下総国印旛郡八代郷

③ 小橋川とその支流が形成する小支谷に囲まれた独立台地で、台地北東側を小橋川、東側をその支流が流れ、更に別の支流が南西側に位置した真北に伸びた舌状台地上に位置する。縄文時代、弥生時代、古墳時代、歴史時代の複合遺跡である。

④ 当該期の住居は1軒程度でしかも遺物も稀少である。

⑤ 国分期の土器。

15201 大篠塚遺跡 (179-a)

① 佐倉市大篠塚字郷の台

② 下総国千葉郡物部郷

③ 鹿島川が南流より北流に流れを著しく変え印旛沼に注ぐ、その屈曲を呈する地点に突出する舌状の台地に位置する。

④ 古墳時代、中後期、歴史時代の複合遺跡である。住居跡は北壁、西壁カマドと普遍性が見られず、東壁カマドも見られる。

⑤ 国分期に比定できるが古墳時代後期の甕形土器に真間期に初見されると思われる口唇部に特長の甕が散見されるのが注目されよう。

15202 鹿島台遺跡 (281)

① 佐倉市将門字鹿島台

② 下総国印旛郡印旛郷

③ 印旛沼に突出する平坦面が広大な洪積台地の基部が若干の支谷によって形成され

た北に延びる状台地に位置する。京成大佐倉駅より南西約 600m である。

④ 真間、国分期の住居群と国分期の土城群である。

⑤ 国分期・鉄製品（刀子、鉄斧等）墨書土器、真間期（鉄鎌）

15203 大崎台遺跡 (282)

① 佐倉市大崎大崎台

② 下総国印旛郡島矢郷

③ 鹿島川が印旛沼に注ぎこむ手前で高崎川と合流する地点の一支谷に形成される洪積台地に位置する。

④ H-1 号跡のみ当該期の住居。

⑤ 真間期比定される。須恵器環一点のみ出土。

15204 神明社遺跡 A 地点 (283)

① 佐倉市白井

② 下総国印旛郡日理郷

③ 印旛沼に突出する細長い洪積台地で、その先端部に位置する。

④ 攪乱等が著しいためか、1 基発掘された住居も東南壁が検出されていない。

⑤ 国分期。環類に墨書あり。

15205 神明社遺跡 B 地点 (283)

① 佐倉市白井

② 下総国印旛郡日理郷

③ 印旛沼に突出する細長い洪積台地で、その先端部一番印旛沼に近い所に位置する。

④ 住居遺構は発掘されていない。

⑤ 国分期、判読不明の墨書あり。

15206 石神遺跡第 1 地点 (283)

① 佐倉市白井

② 下総国印旛郡日理郷

③ 印旛沼に突出する細長い洪積台地で、

この石神第 1 地点はその基部近くに位置する。先土器、古墳 5、炉穴群、柱穴列群、土城基群等発掘。

④ 北壁カマド及び東壁カマドがあるが、北が一般的である。柱穴、壁構も有るものとなないものがあり一様でない。14号は壁コーナー外側に柱穴と思われるピットがある。

⑤ 真間式土器 国分式土器 鉄器（刀子鎌、鋏、環、紡錘車等）

15207 石神遺跡第 2 地点 (283)

① 佐倉市白井

② 下総国印旛郡日理郷

③ 印旛沼に突出する細長い洪積台地で、この第 2 地点は第 1 地点の西方 1 km で白井台に延びる台地の基部に位置する。

④

⑤ 歴史時代は国分期、墨書土器がある。

15208 渡戸遺跡 (283)

① 佐倉市白井

② 下総国印旛郡日理郷

③ 印旛沼に突出する細長い洪積台地で、この渡戸遺跡は比較的平坦の多い遺跡である。周溝墓 1 基、柱列 1、溝 3 等を発掘。

④ 住居はいずれも国分期に比定できる時期で、北壁中央部にカマドが位置されている。相対的に柱穴が位置されている住居は少なく壁溝は逆に多い。

⑤ 国分式土器（甕、環、墨色土器）緑釉手付瓶、鉄器、青銅器。

15209 江原台第 1 遺跡 (310, 336-b, 345, 385, 420, 421)

① 佐倉市白井田字江原台 505 番地

② 下総国印旛郡日理郷

③ 鹿島川が印旛沼に注ぐ所が著しい屈曲

を北西部にとるが、その左岸印旛沼に突出する舌状台地上に位置する。

縄文時代中期、弥生時代後期、古墳時代より歴史時代の遺構が調査されている。江原台遺跡とは同一遺跡として認定して良いであろう。

④ 歴史時代に比定される遺構は数基であるが、比較的出土遺物も少なく、時期比定はむずかしい。住居は概してカマド、壁溝を有するが柱穴がないものが多い。またカマドに対応する南壁部に接し小ピットが床面に認められている。

⑤ 少ない遺物中からは判断しにくいが還元焰、酸化焰そして中間的な焼成焰の焼成の土器が注意される。

15209 江原台遺跡 (245,275-a,344)

① 佐倉市臼井田字江原台505番地

② 下総国印旛郡日理郷

③ 鹿島川が印旛沼西部調整池に注ぐ所は、著しい屈曲を西方にとるがその左岸、印旛沼に突出する舌状の台地に位置する。縄文時代中期、弥生時代後期より歴史時代の遺構が調査されている。江原台第1遺跡とは同一遺跡として認定が可能である。

④ 歴史時代に比定される遺構は住居跡と掘立柱遺構である。住居跡は北カマドを普遍的に柱穴、壁溝等はその限りでない。掘立柱遺構は2×3間が支配的であるが、集落での有機的な関係は資料的に把握されていない。既に3,4,5次の調査が進み、多くの資料を提出している。

⑤ 他の集落遺跡と異なり還元焰焼成される土器が出土している。時期的には真間の中葉の時期、国分の古い時期の2段階に分

けられるようであるが、還元焰窯業の開始あるいは歴史的背景を考える時、貴重な資料となろう。

15210 間野台遺跡 (346)

① 佐倉市臼井字間野台

② 下総国印旛郡日理郷

③ 鹿島川が印旛沼に注ぐ直前著しい屈曲を呈す左岸の台地と支谷をはさみ、印旛沼に突出する細長い台地上に位置する。縄文、弥生、古墳、歴史時代の複合遺跡である。

④ 当該期の竪穴住居跡は1軒のみである。

⑤ 土師器、国分期。

15211 古屋敷遺跡 (346)

① 佐倉市臼井字間野台

② 下総国印旛郡日理郷

③ 鹿島川が印旛沼に注ぐ直前著しい屈曲を呈す部分の左岸、小支谷をはさみ印旛沼に細長く突出する台地で支谷が発達する部分に位置する。縄文、弥生時代、古墳時代、歴史時代の複合遺跡である。

④ 竪穴住居跡が支配的で掘立建物跡は1棟検出されるが柱間が不明である。北カマドをとるものが支配的である。

⑤ 真間、国分期に比定される土器が出土している。

15212 清水作遺跡 (坂戸遺跡第3地点)

(347)

① 佐倉市坂戸字清水作

② 下総国千葉郡山梨郷

③ 鹿島川が印旛沼に注ぐ左岸の台地上に位置する。遺跡は坂戸遺跡群中第3地点にあたる。

④ 概報であるため明確に把握することはできないが、およそ北壁にカマドが設置さ

れ周溝柱穴等設置されている例が多い。ただし1号のみ柱穴、壁溝が明らかでない。

⑤ 平安時代ということなので国分に比定できよう。

15213 広遺跡 (坂戸遺跡第2地点) (347)

① 佐倉市坂戸字広

② 下総国千葉郡山梨郷

③ 鹿島川が印旛沼に注ぐ左岸の台地上に位置する遺跡は坂戸遺跡群の第2地点にあたる。古墳時代後期、平安時代の集落遺跡である。

④ 概報であるため明確に把握することはできないが、およそ北壁にカマドが位置される。

⑤ 住居跡の規模と状態要覧の表と遺物実測等を比較すると平安時代ということであるので国分に比定して良いであろう。鉄製品、緑釉、墨書等が出土している。

15214 飯合作遺跡 (383)

① 佐倉市大志津字飯合作266-9

② 下総国印旛郡鳥取郷

③ 手繰川が二又に分かれる地点の台地上に位置する。弥生時代、古墳時代、歴史時代の複合遺跡。

④ 北壁中央部にカマド位置、壁溝は概ね認められるが柱穴はないものとあるものとに分かれる。掘立柱建物跡5軒(南北棟2、東西棟2)。

⑤ いずれも国分期、ただ時期的に新旧の関係が見出される。

15215 高岡大山遺跡 (384)

① 佐倉市高岡字大山

② 下総国印旛郡鳥取郷

③ 印旛沼の南東約4km地点、鹿島川へ合

流する小河川を南にする台地上にあり、東約200mで連続する台地上には、長熊廃寺跡が所在する。国分期、鬼高期が主体を占めているか他に縄文早期、茅山期前期及弥生時代後期の遺物が認められている。

15216 高岡谷津遺跡 (384)

① 佐倉市高岡字谷津

② 下総国印旛郡鳥取郷

③ 印旛沼の南東約4km、鹿島川の合流する小河川を南にする台地にあり隣接して高岡遺跡が所在する。国分期の住居跡の外に弥生時代後期の住居跡が確認された。

15217 西ノ台遺跡 (450)

① 佐倉市小竹字西ノ台

② 下総国印旛郡日理郷

③ 印旛沼に注ぐ手繰川に合流する井野川付近で印旛沼沖積地に突出する台地上に位置する。弥生時代、古墳時代、歴史時代の複合遺跡である。

④ 歴史時代の住居跡は比較的小型であるが、北カマド、壁溝等伴うものである。

⑤ 国分期の環、甕。

15218 南大堀遺跡 (84-c,87)

① 佐倉市長熊字五良

② 下総国印旛郡長隈郷

③ 印旛沼に注ぐ鹿島川がその支流と合流する近くの台地で小支谷が著しく発達している。遺跡は長熊廃寺に隣接し、愛宕神社参道脇に位置している。

④ 調査される堅穴住居跡は2軒である。いずれも柱穴、壁溝等認められず、カマドは北壁のものまた北壁東壁コーナー部に設置されるものもあり。

⑤ 土師器の皿、鉢、甕、台付皿、須恵器

の皿、盗、鉢、蓋、それに瓦、鉄製品が出土している。瓦は長熊廃寺跡出土のものと同種。

15701 松の木台遺跡 (285)

- ① 印旛郡富里村大字日吉倉
- ② 下総埴生郡山方郷
- ③ 根本名川を望む台地で、著しい小支谷により形成されている。遺跡では方形墳、土壙などと歴史時代の住居跡が検出されている。
- ④ 北西壁中央部にカマドが設置され、壁溝はあるが柱穴はなし。当該期の遺構は1軒のみ。また土壙も出土遺物より同時期と考えられる。
- ⑤ 土師器の坏、灰釉の甕が出土している。

15702 寺沢遺跡 (348)

- ① 印旛郡富里村新橋寺沢
- ② 下総国印旛郡長隅郷
- ③ 印旛沼に注ぐ鹿島川の上流、富里村新橋を流れる高崎川の左岸、標高37.9cmの台地上に近在する。検出された遺構は平安時代の住居跡のほか江戸時代の楕円形ピット、ピット状遺構であるが遺物として縄文時代早期及び中期、弥生時代後期の土器片が検出されている。当該期の住居跡3軒。
- ④ 国分期。

15703 新橋遺跡 (386)

- ① 印旛郡富里村新橋小字池内台
- ② 下総国印旛郡長隅郷
- ③ 鹿島川上流高崎川の南岸標高35mの台地上に位置する。先土器時代、縄文時代(中期)歴史時代の重複遺跡。
- ④ 歴史時代に比定される遺構は2軒である。1号は西壁カマド、2号は西壁カマド

で1・2号とも壁溝はあるが2号は柱穴なし(火災)。

- ⑤ 真間期の墨書、2号刀子、坏出土。

15801 吉高家老地遺跡 (313)

- ① 印旛郡印旛村吉高字家老地
- ② 下総国印旛郡吉高郷
- ③ 印旛沼と西部調整池をつなぐ印旛捷小路の西側、印旛沼に突出する舌状台地に位置する。この舌状台地は小さな支谷が発達しているが遺跡の位置する台地西側の谷は特に著しく本台地のみ独立台地を形成する感がある。遺跡は弥生時代後期、奈良、平安時代の集落跡である。
- ④ 1~17号の住居跡が調査されているが内4軒が後期弥生時代である。歴史時代の住居は平安時代に比定出来るのが支配的であるが、重複関係を呈しているのもあり、集落内での時間経緯を観手できよう。歴史時代のもは北壁にカマドを有するものが支配的である。
- ⑤ 坏、甕等ごく一般的に認められるものの他に緑釉高台付皿等も出土しており、遺物の相対年代を考える時有効である。また4号址のように平安時代でも新・旧の時期の遺物が混在しており、本遺跡の特異性を考えなければならないことであろう。

15802 吉高山王遺跡 (371)

- ① 印旛郡印旛村吉高山王1477番地
- ③ 下総国印旛郡吉高郷
- ③ 印旛沼と西部調整池をつなぐ印旛捷小路の西側印旛沼に突出する舌状台地に位置する。円筒埴輪を伴う前方後円墳、溝、近世の祠等の複合遺跡。
- ④ 1号住居跡1軒のみで、しかも保存状

況の良くないものでカマド、柱穴等は不明。

⑤ 須恵器の坏が出土している。

15901 大塚前遺跡 (253-a)

① 印旛郡印西町浦幡新田大塚前592番地

② 下総国印旛郡三宅郷

③ 印旛沼と手賀沼にかこまれる地で両沼

の分水界の位置にして標高25m程である。

大溝、溝、堀立柱建物跡、当該期の住居1軒が検出された。

④ 竪穴住居跡は東西に細長いプランを呈し、ごく一般に認められるような形状ではない。カマドは北壁中央部から西側に寄って設置される。竪穴、堀立、溝と本遺跡については特に注意が必要。

⑤ 竪穴住居跡からは国分の甕と須恵坏が出土、他になし。大溝、溝からは多量の古瓦が出土している。「埴」のヘラ書瓦が出土している。鏡は宝相華文、字は均正唐草文。

15902 木苧峠遺跡 (284-b)

① 印旛郡印西町浦幡新田木苧峠222番地

② 下総国印旛郡三宅郷

③ 遺跡は印西町成で手賀沼に開口する支谷の最奥部に位置し、東西は更に小支谷により侵食され「コ」字状の谷に突出した様な台地である。先土器時代、縄文時代前、中、後期、歴史時代の複合遺跡である。

④ 北壁中央部にカマドが設置される壁溝柱穴はなし。

⑤ 出土遺物は報告によると国分期であるが、真間期(坏1点、若干の甕)も出土。

15903 北の台遺跡 (284-f)

① 印旛郡印西町武西北の台1071番地

② 下総国印旛郡船穂郷

③ 武西部落付近より北に侵入する小支谷

か遺跡の東側に延びている他白井町谷田より侵入する谷田支谷が西から東へ入って来ている台地上にある。縄文時代中期、古墳時代前期、歴史時代の複合遺跡である。

④ いずれも北壁中央部にカマドが設置及び壁溝柱穴等設置されている。

⑤ 2,4,5号いずれも国分期。

15904 高根北遺跡 (246-b,311)

① 印旛郡印西町小倉字大塚前400番地

② 下総国印旛郡三宅郷

③ 神崎川下流の八千代市神崎をとおる支流により西から東へ経路をとり台形半島状に突出する台地である。先土器時代、縄文時代、歴史時代の複合遺跡。

④ 北東壁コーナーにカマドが設置され壁溝柱穴等はなし。

⑤ 土師器、甕、坏、「田」の墨書、須恵器の坏。

15905 船尾白旗遺跡 (305-i,312-d)

① 印旛郡印西町船尾白旗317

② 下総国印旛郡船穂郷

③ 印旛沼に注ぐ神崎川は八千代市を通過する新川と合流し、低地帯を形成するが、その沖積地に突出する台地に位置する。台地は東西の支谷が著しい。先土器時代、縄文時代、弥生、古墳、歴史時代の複合遺跡である。

④ 当該期の住居は4号1軒である。南壁中央より北に寄りカマドが設置されている。壁溝、柱穴はない。

⑤ 真間期、坏等が出土している。

15906 木下別所廃寺遺跡 (425)

① 印旛郡印西町別所876-1他

② 下総国印旛郡言美郷

③ 手賀沼に注ぐ小河川の右岸の洪積台地上に位置する。台地上はほぼ平坦である。この台地上には古代寺院跡があり、講堂、金堂、塔の伽藍を有するものである。この廃寺調査時にトレンチにかかり多くの竪穴住居跡が確認されており大集落となる可能性もある。

④ 調査された住居は3号住居跡1軒のみである。東壁カマドをとり壁溝が設けられている。柱穴と思われるピットはない。

⑤ 出土遺物は須恵環、土師環、甕、高環も出土している。他に刀子、高台付環の硯転用品も出土している。また、男瓦片が床面直上より出土している。

15907 船尾城遺跡 (312-d)

① 印旛郡印西町船尾1225番地

② 下総国印旛郡船穂郷

③ 印旛沼に注ぐ新川が印旛沼直前で大きく屈曲するか、その広範な沖積地に面し著しく小支谷を有する南北に長い舌状の台地の一部に位置する。縄文時代、弥生時代、古墳時代、歴史時代の複合遺跡である。

④ 当該期の住居は2軒である。いずれも北カマドをとり壁溝が廻るが柱穴はない。005は斜面に構築されており、西壁の保存状況は良好でない。

⑤ 出土遺物は国分期の土器、刀子、その他墨書土器が出土している。

16101 大寺遺跡 (412)

① 八日市場市大字大寺

② 下総国匝瑳郡珠浦郷

③ 北総台地東端部で栗山川が開析する著しい小支谷の発達する台地上に位置し、台地面は広大な平坦面をなしている。弥生時

代、古墳時代、歴史時代の複合遺跡である。

④ 歴史時代の遺構は竪穴住居跡、それに土壌に溝が調査されている。掘立柱建物跡は検出されていない。

⑤ 出土遺物は真間、国分の土器、鉄製品それに墨書土器がある。

16102 大寺出羽遺跡 (439)

① 八日市場大字大寺出羽

② 下総国匝瑳郡珠浦郷

③ 北総台地東端部で太平洋に突出している台地上に位置する。台地は著しい小支谷を形成している。遺跡は奈良時代、中世の溝遺構が検出されている。大寺遺跡と関連のある遺跡である。

④ 竪穴住居は1軒で、しかも著しい攪乱を受けているため明確でない。カマドも床を残す程度、壁溝も全周していない。柱穴は2ヶ所のみ。

⑤ 真間期の土師で丸底の環、平底の環、赤彩の環等が出土、また墨書「丈」?がある。

16401 裏坪遺跡 (315)

① 香取郡山田町府馬字裏坪

② 下総国海上郡布方郷

③ 標高40mを測る平坦な台地上にあり、同一台地隣接して所在する原宿遺跡と合せ、一体となる遺跡と考えられる。調査区域が幅4mのパイプライン埋設地域に限定されたため、遺跡の詳細な性格は把握できない。

④ 竪穴住居跡1軒(国分期)

⑤ 土師器の環その他破片。土製紡錘車(1点)などである。

16402 萱付道遺跡 (315)

① 香取郡山田町小川字萱付道

② 下総国匝瑳郡珠浦郷

③ 栗山川の東約 750mの平坦部の広い標高約40mを測る舌状台地上に所在する。水田を挟んで対岸には妙名遺跡が所在する。調査は遺跡台地の北東先端部の一部分を発掘し鬼高期の住居跡1軒と国分期の住居跡1軒が検出されている。台地上に営まれた集落の存在は調査地区より南方 300m程の台地中央部に寄った地点に多量の土器片が広範囲にわたって散布しており、この地区に集落の中心があると想定されている。

④ 住居跡は1軒で方形プラン、北壁、中央にカマドがあり柱穴が検出されている。

⑤ 国分式土器、土師器(甗、坏) 墨書土器1点

16403 妙名遺跡 (315)

① 香取郡山田町小川字妙名

② 下総国匝瑳郡珠浦郷

③ 栗山川の東方約 600mの樹枝状に広がって形成された標高約40mを測る平坦な台地上に所在しており、台地の規模は東西 1100m南北 250mの細長い舌状を呈している。発掘調査は台地中央部を南北に幅 4 mのトレンチ発掘である。台地中央から先端部にかけて6軒の竪穴住居跡が検出された。

④ 竪穴住居跡 6軒。

⑤ 土師器(甗、坏、高坏、盤)、須恵器(坏、盤、甗)、墨書土器13点、土製紡錘車。

16404 原宿遺跡 (315)

① 香取郡山田町府馬原宿

② 下総国海上郡布方郷

③ 裏坪遺跡と同じ。

④ 竪穴住居跡1軒(国分期)

⑤ 土師器破片(国分期土器)

14701 仏師台遺跡 (255)

① 佐原市玉造字仏師台

② 下総国香取郡小川郷

③ 利根川の左岸、利根川に接する台地よりわずかに奥まった位置にあり、西南より北方に細長く延びる標高30~40mの舌状台地に所在している。遺跡の大半は調査前にすでに大半が土採取により消滅していた。約1200㎡の面積を発掘調査した結果、鬼高期の住居跡4軒、国分期の住居跡7軒の他時期不明の住居跡2軒が検出された。

④ 住居跡 7軒で1, 2, 3 B、4 A B、6 A、6 B。竪穴貯蔵穴は1基である。

⑤ 土師器は国分式土器の甗、甗、坏、高台付坏、土製品の管状土錘(3)、丸玉(2)、支脚1、須恵器の破片が出土している。

16702 阿広台遺跡 (387)

① 佐原市玉造字阿広台654、657

② 下総国香取郡小川郷

③ 利根川下流域右岸の標高35~36mを計る舌状台地上、南西より北方に樹枝状に開析される基根部に位置している。現水田面との比高差約25mの遺跡は調査面積約5500㎡の広さであったが調査時点ではほとんど消滅していた。調査の結果、奈良から平安時代の遺構のほか、縄文式土器及び古墳時代前期の土器片さらに鬼高期の住居址1軒が検出されている。

④ 住居跡は第1地点で3軒、第2地点で5軒(うち1軒 屋内小鍛冶址あり)。土壙は第2地点で14基。掘立柱建物跡は第2地点1棟。

⑤ 第1地点で土師器(甗、坏)・須恵器(甗、坏)・石製品(紡錘車1)・灰釉長

頸壺1点(破片)・鉄製品(1点一用途不明品)。第2地点で土師器(甕、坏)・須恵器(甕、坏、坏蓋)・石製品(砥石1、支脚6)・円面硯(破片6)・羽口片・鉄製品(刀子1、鎌1)・鉄滓21点が出土している。

16703 神田台遺跡 (388)

- ① 佐原市字神田台ホ374番地
- ② 下総国香取郡香取郷
- ③ 利根川に面する下総台地に北縁にあたり沖積地に突出する平面の小さな舌状の台地上に位置する。標高約38mを計る。遺跡には古墳時代の住居から国分期までの13軒が検出されている。
- ④ いずれも北壁にカマドを有しているが、柱穴、壁溝等については画一的な様相は呈していない。既に著しい削平を受けているため保存の良い遺跡ではない。
- ⑤ 特に真間期に比定された遺物中には比較的古式的な内容を呈するものがある。4号の1の坏、5号の2の坏は貴重なものである。

17001 名古屋経塚群遺跡 (410)

- ① 香取郡下総町名古屋字小堤
- ② 下総国香取郡須賀郷
- ③ 北総台地北縁で利根川支流の尾羽根川右岸の台地上に位置し、台地は若干の支谷が見られる。古墳時代、歴史時代の複合遺跡で歴史時代は特に近世の塚が目される。
- ④ 当該期の住居は塚下部より検出されたもので1軒のみである。北カマドで壁溝を有し柱穴は見られない。
- ⑤ 真間期の土器、その他、塚封土内より真間期の遺物を出土している。

17401 干潟桜井遺跡 (286,305-1,316)

- ① 香取郡干潟町桜井(釜山台)
- ② 下総国海上郡神代郷
- ③ 下総台地東縁、九十九里平野に面する比高30~50mの海蝕崖をもつ台地上に位置し、東辺を大塚川が流れる。遺跡は約11,000㎡に及び旧石器~江戸時代の遺構が検出された。
- ④ 国分期の遺構は住居跡28軒で殆んどが北または北北東にカマドを有し、ある程度の規則制がみられる。製鉄跡・小鍛冶2、精練炉2。蔵骨器が住居跡内に2基併設。
- ⑤ 土師器の甕、碗、坏、高台付坏等で坏のうちには墨書がある。石製品は飯岡石を加工して作成した支脚がある。

17801 中馬場遺跡 (198)

- ① 柏市根戸中馬場他
- ② 下総国相馬郡色陀郷
- ③ 柏市と我孫子市にわたる遺跡で、手賀沼沖積地と小河川により開析された小支谷が発達する台地上に位置している。縄文時代、弥生時代、古墳時代、歴史時代の複合遺跡である。
- ④ 竪穴住居跡が支配的であるが、掘立柱建物跡、土壇、井戸等も検出されている。国分期41軒、真間期8軒。
- ⑤ 真間期、国分期の土器。鉄製品、石製品、これに若干の墨書土器が出土している。

17802 鴻ノ巣遺跡 (A~C地点) (256)

- ① 柏市鴻ノ巣西高野花野井
- ② 下総国相馬郡色陀郷
- ③ 手賀沼北西部、須賀支谷を形成した川が手賀沼に注ぐ東西に小支谷が開析する北に延びる舌状台地上に位置する縄文時代(前期)、古墳時代(中期)、弥生時代(後期)、

歴史時代それに先土器時代の複合遺跡である。

④ A～C地点に遺跡が分散しているが、歴史時代の遺構が検出されたのはB地点である。24、25号の2軒である。いずれも東壁カマドである。

⑤ いずれも国分期。

17803 南台遺跡 (389,390)

① 柏市豊四季

② 下総国相馬郡色陀郷

③ 手賀沼に注ぐ大津川右岸の台地上に位置する。歴史時代の住居跡 $\frac{1}{2}$ 軒が検出されている。

④ 調査区の都合で住居跡 $\frac{1}{2}$ 軒の検出のみで全体の状態は分明を欠くが、東壁にカマドが位置されている。壁溝は全周すると思われる。

⑤ 国分期の坏に墨書あり。

17804 高野台遺跡 (402)

① 柏市根戸高野台430番地

② 下総国相馬郡色陀郷

③ 北総台地北端部、利根川と手賀沼には

さまれた台地上に位置し、小支谷が発達している。歴史時代の住居跡、溝、堀立柱建物跡が検出されている。

④ 当該期の住居跡10軒、それに堀立柱建物跡1棟がある。北カマドをとるものが支配的であるが、西カマドの住居も1軒認められる。概ね壁溝、柱穴は認められる。堀立柱建物跡は遺跡東方に位置する。

⑤ 真間、国分期の土器、鉄製品、瓦。

17901 紫崎遺跡

① 我孫子市紫崎

② 下総国相馬郡古溝郷

③ 北総台地北端部、利根川の沖積地に突出する台地に小支谷を形成している部分の台地上に位置している。縄文時代、古墳時代、歴史時代の複合遺跡である。

④ 当該期の遺構は竪穴住居3軒である。カマドは未掘調査の住居もあり明確でない。壁溝も認められない。10号は9号と重複しており分明を欠く点が多い。

⑤ 国分期の土師器。

2 寺院跡

- 20101 増間廃寺跡 (391) 161, 164, 178, 194, 221, 223, 228, 391, 394)
- ① 安房郡三芳村増間
② 安房国朝夷郡健田郷
⑤ (表面採集) 平瓦 (縄目文)、丸瓦
- 20501 安房国分寺跡 (12, 30, 41, 44, 34, 9, 391, 393, 424)
- ① 館山市国分959-2
② 安房国平群郡大里郷
③ 現在の海岸から直線で約3kmを測る館山平野の南東部、標高19m前後の砂丘台地上の南端部に所在する。遺跡地は現国分寺境内及びその周辺が想定されている。三次にわたる発掘調査により、本址の他に、弥生式土器及び同時期の竪穴住居址と想定される遺構、平安時代竪穴住居址等も検出されている。
- ④ 金堂址基壇、溝状遺構等。金堂址基壇は東西約22m、南北約15mで、西縁でN-7.5°-Eを指向する。構築は版築の工法で行っており、版築の中から瓦片の出土は認められていない。
- ⑤ 軒丸瓦 (素縁七葉素弁蓮華文一瓦当表面に布目痕のあるものの他に1点布目痕のないものが検出されている)
丸瓦 (無段)、平瓦 (格子目文、縄目文)
土師器、須恵器、石帯 (巡方破片)、ヘラ描き土器 (「松」「吉」)、宋銭他。瓦については軒平瓦の出土がこれまで認められていない点特に留意される。
- 21201 上総国分僧寺跡 (6, 7, 10, 12, 13, 15, 19, 41, 45, 46, 59, 71, 81, 101, 106, 116, 130, 131, 140, 141, 153, 161, 162, 163, 164, 178, 194, 221, 222, 223, 228, 287, 289, 391, 394)
- ① 市原市惣社
② 上総国市原郡市原郷
③ 養老川下流右岸の通称国分寺台と呼ばれる台地上に所在する。寺跡の北半には現在医王山清浄院国分寺がある。寺跡はほぼ方約12町の寺域と大官大寺様式の伽藍配置が考えられている。
- ④ 塔心礎及び基壇、金堂址基壇、講堂址基壇、南大門址、中門址、回廊址、地割り溝等。このうち、講堂址基壇の掘込み地形と伽藍地及び外郭を画する地割り溝の方位は、他と異なって尼寺跡で検出されたA期掘立柱建物址に近い方位をもっている。そして、これらは尼寺址におけるA期掘立柱建物址の時期から推して本寺の造営のなかで最も初期のものと想定されている。
- ⑤ 軒丸瓦 (二十四葉単弁蓮華文、有心二重圈文、有心三重圈文)
軒平瓦 (均正唐草文、重廓三重弧文、素文、連珠文、唐草文)
丸瓦 (縄目文、格子目文、斜格子目文)
文字瓦 (「周」「倉崎郷長谷部、稲」) 埴、鉄釘、土師器、須恵器
- 21202 上総国分尼寺跡 (6, 7, 10, 12, 13, 15, 19, 41, 46, 55, 56, 59, 62, 71, 73, 81, 101, 106, 116, 130, 131, 140, 153, 161, 162, 163, 164, 178, 194, 221, 222, 223, 228, 287, 289, 391, 394)
- ① 市原市惣社字祇園原
② 上総国市原郡市原郷

③ 僧寺跡の北東約 740mの台地上平坦部に所在するが、両者の所在する台地間には二枝に別れる浅い谷が入り込んでいる。昭和23年以来数次にわたって発掘調査が行なわれてきているが、昭和46年から始まった国分寺台区画整理事業に伴う発掘調査によって、ほぼその全容が明らかにされた。約9町の寺域と東大寺式の伽藍配置が想定されている。

④ A期の建物—掘立柱建物址2棟。これらは、後述する伽藍の下層から方位、計画を異にして検出されており、8世紀中頃以降の短期間、本格的な伽藍造営を前提として営なまれた仮設的な国分尼寺（尼房と講堂に相当する建物）と想定されている。

B期の建物—中門址、金堂址、金堂講堂間瓦敷き通路址、講堂址、軒廊址、尼房址、竪穴住居址。これらは、従来から捉えられていた、本尼寺跡の伽藍である。特に尼房址は大房址と小子房址とがあるが、軒廊址により講堂址と連絡している。このことから軒廊で連絡された尼房・講堂の一郭が尼僧の日常的な活動の場として寺院内で一つの強いまとまりをもった建築空間を構成していたことが明らかにされている。また、尼房の周囲から検出された竪穴住居址については、全体の伽藍計画にのっとり配置された、尼寺の付属施設である可能性が考えられている。

⑤ 軒丸瓦（二十四葉単弁蓮華文、三重圏文）、軒平瓦（均正唐草文、三重弧文）、丸瓦（玉縁丸瓦）平瓦（格子目文、縄目文）、道具瓦（面戸瓦、慰斗瓦、隅切瓦）、文字瓦（「海」「借」）、土師器、須恵器、灰釉陶器（

浄瓶、水瓶他）緑釉陶器、墨書土器（「興」7点、「法花寺」4点、「仏勝」「勝」「最各1点）鉄釘、鎌子の牝金具（正倉院の唐櫃などに使われているものと同形式の海老錠）刀子、鉄鎌、鉄鉋）石帯（2点）

21203 光善寺廃寺跡（85,391,394）

① 市原市寺山光善寺境内

② 上総国市原郡市原郷

③ 市原台地の北端の舌状台地上に所在する。本遺跡は光善寺境内を中心とした地域であるが、周辺の民家の建築に伴う削平等により地形の変化が著しい。報文によれば土壇、礎石等の遺構は認められていないが、周辺に散在する瓦と発掘調査を実施した5～6坪の笹藪から出土した瓦（但し、二次的な移動による瓦の集積地という）から寺院跡と捉えられている。

④ なし

⑤ 軒丸瓦（三重圏文縁四葉単弁蓮華文—A・B二種、鋸歯文縁八葉複弁蓮華文—A・B二種、素文縁八葉複弁蓮華文、鋸歯文縁四葉複弁蓮華文、有心三重圏文、六重圏文、素文縁二十四葉単弁蓮華文）

軒平瓦（均正唐草文、三重弧文—A・B・C各種）、丸瓦（格子目文、縄目文、押形文）

21204 菊間廃寺跡（91,391,394）

① 市原市菊間

② 上総国市原郡菊麻郷

③ 東灌山古墳の北に接する台地上に所在する。

④ 未発掘。土壇上の高まりが2カ所に所在する。

⑤（表面採集）軒丸瓦（細弁蓮華文）、軒平瓦（均正唐草文）、平瓦（縄目文）

21205 川焼台廃寺跡 (391,394)

① 市原市草刈字川焼台

② 上総国市原郡菊麻郷

③ 村田川下流右岸の台地上に所在する。

この台地裾には数基の瓦窯の所在が確認されている。

⑤ 軒丸瓦 (二十四葉単弁蓮華文)

平瓦 (縄目文一凸面型一枚造り) 二十四葉単弁蓮華文軒丸瓦は上総国分寺創建瓦と同範である。

21206 武士麁寺跡 (62,318,391,394)

① 市原市福増字大明神96-1

② 上総国市原郡建市郷

③ 養老川右岸の標高約80mを測る台地上に所在する。同一台地上の南側に隣接して建市神社 (三代実録の元慶八年七月十五日条に正六位上から従五位下に昇叙された国史見在社) がある。また、同じく北側からは、本寺跡と関連すると思われる布目瓦を出土した溝1条が検出されている。

⑤ (表面採集)、軒丸瓦 (鋸歯文縁六葉複弁蓮華文、鋸歯文縁八葉複弁蓮華文、素文縁有心四重圏文)。軒平瓦 (三重弧文)

平瓦 (縄目文)。このうち、素文縁有心四重圏文軒丸瓦は今富廃寺跡出土のものと同範である。

21207 千草山廃寺跡 (55,115,391,394)

① 市原市山田橋字千草山1451外

② 上総国市原郡海部郷

③ 旧養老川に開析された支谷を見下す台地上に所在する。隣接して、古墳時代～奈良・平安時代の住居址62軒、掘立柱建物址3棟、古銭 (神皇開宝) 等が検出されている千草山遺跡がある。

④ 土壇 (形はくずれているが、南北約7m、東西約10m、高さ約90cm、方位は南北線約25°東偏) と径約30cm程の凝灰砂岩の小礎石が3個確認されている。

⑤ 軒丸瓦 (二十四葉単弁蓮華文)、丸瓦、平瓦 (格子目文、縄目文)、土師器、須恵器、鉄釘等。このうち、二十四葉単弁蓮華文軒丸瓦は上総国分寺創建瓦と同範である。

21208 二日市場廃寺跡 (391,392,394)

① 市原市二日市場字三反田外

② 上総国市原郡山田郷

③ 養老川中流域に位置し、同河川により開析された沖積平野のほぼ中央の微高地に所在する。遺跡の現況は、微高地上に国道297号線と二日市場部落が重なっているため、必ずしも良好とはいえないが、瓦の散布は一定の広がりをもって分布している。

⑤ 軒丸瓦 (雷文縁八葉複弁蓮華文) 内傾三重圏文縁十二葉単弁蓮華文) 軒平瓦 (段頸三重弧文)

平瓦 (格子目文、縄目文)

丸瓦 (無段式、有段式)

雷文縁八葉複弁蓮華文軒丸瓦は大和紀寺式の瓦に酷似した文様構成をもつ。

21209 久保雷廃寺跡 (391,394)

① 市原市久保

② 上総国市原郡江田郷

③ 養老川中流右岸の台地上、久保雷神社境内に存在したが造成のため湮滅。

⑤ (表面採集) 平瓦 (縄目文)、丸瓦。

21210 月崎永昌寺廃寺跡 (391,394)

① 市原市月崎1098外

② 上総国海上郡大野郷

③ 養老川上流域右岸の山中にある。瓦の

出土量は少なく不明な点が多い。

⑤ (表面採集)軒丸瓦(素文縁単弁蓮華文)
21211 今富廃寺跡 (75,391,394)

- ① 市原市今富字坊ヶ谷536-2外
- ② 上総国海上郡海上郡家郷
- ③ 養老川左岸の自然堤ぼう上に所在する。
- ⑤ (表面採集)軒丸瓦(三重圏縁八葉単弁蓮華文、二重圏縁八葉単弁蓮華文、有心四重圏文)軒平瓦(重弧文、均正唐草文)丸瓦、平瓦(格子目文、縄目文)他。このうち、有心四重圏文軒丸瓦は武士廃寺跡のものと同範である。

21212 萩の原廃寺跡 (352,391,394)

- ① 市原市上高根字萩の原1611
- ② 上総国海上郡福良郷
- ③ 後述の遺構の他、奈良～平安時代の住居址、掘立柱建物址、鍛冶址等が検出されている。
- ④ 2基の基壇が検出されている。このうち1号基壇は対角線上に2個の礎石が認められ、心礎、階段等が確認されている。2号基壇は柱穴とみられる小ピットが多数検出されており、また、心礎から鎮壇具として埋納されたと思われる直刀が出土している。

⑤ 平瓦(縄目文、敲目文)、風鐸、瓦塔、墨書土器(「寺」「入」「法」「佛」「寺塔」その他)鉄釘、銅製帯金具、銅匙、灰釉浄瓶、その他)このうち、基壇及びその周辺から出土している風鐸及び鉄釘を除く、瓦、瓦塔その他のものは、住居址及びその周辺区域から出土している。

21213 郡本廃寺跡 (115,391)

- ① 市原市郡本

② 上総国市原郡市原郷

③ 八幡神社所在地周辺が遺跡地である。
⑤ 布目瓦

21301 川原井廃寺跡 (391,394,395,)

- ① 君津郡袖ヶ浦町川原井字東郷
- ② 上総国畔蒜郡甘木郷
- ③ 東を養老川、西を小櫃川によってはさまれた台地上で、小櫃川支流松川の谷頭付近の西側台地端部に所在する。瓦の散布した場所はすでに土採集により消滅している。採集された格子目文を有する平瓦は本址の北東約3kmに所在する二日市場廃寺跡出土のものと同じの特徴を有し酷似する点等から、その創建について二日市場廃寺跡と同一の年代まで遡る可能性が考えられている。また本址は、古代東海道及び鎌倉街道との関連性においても注意される寺跡と把握されている。

④ 地形と瓦の散布範囲から、遺構は伽藍をもった寺跡ではなく、一字の瓦葺建物か推定されている。

⑤ (表面採集)軒丸瓦(均正唐草文)、平瓦(格子目文、縄目文)、丸瓦(無段)

21401 上総大寺廃寺跡 (28,41,143,391,394)

- ① 木更津市大寺1063外
- ② 上総国望陀郡飫富郷
- ③ 小櫃川下流右岸の沖積微高地に所在する。瓦がこの微高地に所在する熊野神社境内及び境内東側の墓地から出土している。墓地一帯はとうのこし(塔の越)、境内の北側はとうのうら(堂の裏)と呼ばれる地名が残っている。
- ④ 未調査。熊野神社境内に凝灰砂岩の石

(石製露盤及び礎石とも考えられている)
が2個残っている。

⑤ (表面採集) 軒丸瓦(内傾面違鋸齒文縁八葉複弁蓮華文、重圏文)、軒平瓦(段類三重弧文、重廓三重弧文、なお額面に平行五条線と四条線を有する特殊な文様が施されている。他に唐草文も小破片がある)、丸瓦(無段)、平瓦(斜格子目文、縄目文、点列文)

21402 真里谷^{まりやつ}廃寺跡(41,42,391,394)

- ① 木更津市真里谷
- ② 上総国畔蒜郡美々郷
- ③ 小櫃川中流右岸の丘陵上に所在する。
- ④ 土壇の所在等認められていない。
- ⑤ 軒丸瓦(有心二重圏文、有心三重圏文) 軒平瓦(唐草文一退化した蕨状で左右が別の方向を示す特殊な文様) 平瓦(格子目文、縄目文) 磚(素文一破片)

21501 九十九坊廃寺跡(26,41,391,394)

- ① 君津市内表輪191
- ② 上総国周准郡三直郷
- ③ 小糸川中流、右岸の低い台地上に所在する。伽藍配置は法起寺式と想定されているが確証は得ていない。付近には道祖神裏古墳(前方後円墳)や八幡神社古墳(前方後円墳)等がある。
- ④ 塔址と考えられる土壇が検出され、上面に塔心礎とその西側に側柱礎石と推定される礎石が4個確認されている。礎石の石材はいずれも凝灰砂岩で俗にいう房州石である。
- ⑤ 軒丸瓦(三重圏文縁四葉複弁蓮華文) 軒平瓦(段類三重弧文)、平瓦(格子目文)

21901 笠森寺(35,57,391)

- ① 長生郡長南町笠森
- ② 上総国長柄郡刑部郷
- ③ 現笠森寺境内
- ⑤ (表面採集) 軒丸瓦(素文縁)、軒平瓦(唐草文)、丸瓦(表面撫で整形)、文字瓦。瓦の年代については文献57では鎌倉期としており、文献391では布目瓦の最下限として把握している。

22601 湯坂廃寺跡(180,391,394)

- ① 山武郡成東町湯坂
- ② 上総国武射郡畔代郷
- ③ 作田川の中流、北側の作田川に向けて舌状に突出す標高約9mの微高地の突端部に所在する。発掘調査の結果、以下に記す基壇の他、古墳時代及び奈良時代の竪穴住居址が多数検出されている。昭和46~47年発掘調査、消滅
- ④ 集落址の中心部に一辺13m位の基壇が検出されている。基壇は版築で4~5層に入念にたたきしめられていた。礎石の出土はないが、基壇上部にごく浅い掘り形が検出されており、調査者は、礎石のある高床式の建物(寺院)を想定している。
- ⑤ 軒丸瓦(素文縁八葉素弁蓮華文)丸瓦(無段)平瓦(格子目文、縄目文 無文一槌巻作り)

22602 真行寺廃寺跡(27,41,177,391,394)

- ① 山武郡成東町真行寺
- ② 上総国武射郡大藏郷
- ③ 境川左岸の台地上に所在する。近接して布目瓦を出土する島戸遺跡が所在する。
- ⑤ (表面採集) 軒丸瓦(素文縁十三葉単弁蓮華文、八葉複弁蓮華文、素文縁十二葉

素弁蓮華文)、丸瓦、平瓦(無文、縄目文、格子文、他に四葉をあしらったもの、渦巻状のものもある)

22801 山田廃寺跡 (224,391,394)

- ① 山武郡芝山町山田字小金
- ② 上総国武射郡新居郷
- ③ 高谷川の右岸、高谷川から樹枝状にのびる小支谷を南にのぞむ台地上に所在する。北東約 200m の台地上には小金台廃寺跡がある。

④ かつて基壇状の高まりが2カ所存在したというが、現在は削平されている。

⑤ 丸瓦、平瓦(格子目文、縄目文—いずれも樋巻造りの製法)、のし瓦。

22802 小金台廃寺跡 (別称金光寺廃寺)
(224,391,394)

- ① 山武郡芝山町山田字小金
- ② 上総国武射郡新居郷
- ③ 東西約 200m、南北約 300m程の舌状台地の基部近くに所在する。重機による整地で現在畑地になっている。なお、文献394では本遺跡について山田廃寺の瓦が移動した可能性もあるとしている。
- ④ 文献 224によると瓦の発見された場所は耕作土が幾分盛り上った部分であったということであり、あるいは基壇等が残存している可能性も考えられる。
- ⑤ (表面採集) 平瓦(縄目文、格子目文)文字瓦(「口総」「口作己智取」)他に遺跡地内から蔵骨器、宝篋印塔相輪部、同笠が採集されている。

23001 小川廃寺跡 (41,391,394)

- ① 山武郡松尾町小川205 外
- ② 上総国武射郡大蔵郷

③ 木戸川の支流によって開析された小支谷に面する台地上に所在する。

⑤ (表面採集) 軒丸瓦(有心三重圏文、有心二重圏文)、軒平瓦(三重弧文)、丸瓦、平瓦(縄目文)

23101 埴谷横宿廃寺跡 (別称上総横宿廃寺)
(95,391)

- ① 山武郡山武町横宿
- ② 上総国武射郡埴屋郷
- ③ 狭長な舌状台地の先端部近くに所在する。昭和35年4月の発掘調査時点では、遺跡の一部はすでに破壊されていたという。
- ④ 古瓦包含地域に限定性が認められたが、土壇あるいはそれに類する明確な遺構は認められていない。調査者は、古瓦の散布区域や出土瓦から八角円堂単堂の存在を推定している。

⑤ 軒丸瓦(瓦当面欠失、文様不明)、軒平瓦(二重弧文)、丸瓦、平瓦(斜格子文)、隅切瓦。

23501 岩熊廃寺跡 (別称法興寺跡)
(257,275,354,391,394)

- ① 夷隅郡岬町岩熊1555
- ② 上総国夷隅郡夷瀨郷
- ③ 夷隅川下流左岸の支流熊田川の開析支谷に画された東側、標高15mを測る水田中に所在する。
- ④ 第1建物跡、第2建物跡、第3建物跡、石組遺構等が確認されており、報文354では、浄土型式寺院を想定している。なお、これらの遺構は、建物跡の基壇等には、焼害を受けた破損瓦がつき込んでいることから、再建されたものと把握されている。調査は、上層面での確認であり、創建時の遺構は、

下部に所在すると考えられている。

⑤ 軒丸瓦(三重圈縁八葉単弁蓮華文、鋸齒文縁八葉複弁蓮華文(推定))

軒平瓦(三重弧文)、丸瓦(行基丸瓦)、平瓦(正格子文、斜格子文、縄目文及び花文系のもの)

24101 流山廃寺跡(73,391)

① 流山市西平井字庚塚

② 下総国葛飾郡茂呂郷

③ 荒川の沖積地に発達した流山の町を西方に見下す標高約20mの台地上にあり、東側の広い台地から西側の谷に向かって100m程屋根状に延びる台地突端部に所在した。この台地突端部は方約30mのほぼ平滑な地形を呈していたという。本遺跡は、土取り等によりすでに消滅している。

④ 報文73dでは、台地突端の北側から東北部にかけて自然地形の周縁に土盛りあり、これを土壇と考えて差支えないものとしている。

⑤ 軒丸瓦(素文縁宝相華文)、軒平瓦(三重弧文、四重弧文)、丸瓦、平瓦(縄目文)

24301 下総国分僧寺跡(1,4,5,9,10,14,15,20,36,41,45,52,74,122,133,140,146,161,165,178,181,199,200,225,258,259,291,292,293,319,320,341,355,391)

① 市川市国分町1786-1外

② 下総国葛飾郡葛飾郷

③ 国電総武線市川駅の北東約2kmの地点、通称国分台地と呼ばれる標高約20mを測る台地南端に所在する。昭和5年以来数次にわたる調査が行なわれており、文献20により現在地が国分僧寺として確定された。昭和

41~42年の調査により金堂、講堂、塔の伽藍配置(法隆寺式)が明らかになった。

④ 基壇3(金堂址、講堂址、塔址)、溝。なお、これら三堂塔基壇は金堂が東に11度、講堂が東に9度、塔は東に各々方向のぶれをもつ。

⑤ 軒丸瓦(宝相華文、六葉複弁蓮華文、八葉複弁蓮華文、細弁蓮華文)、軒平瓦(宝相華文、扁行唐草文、重廓文、均正唐草文)丸瓦、平瓦、文字瓦(「古尼麻呂」「坊」)、土師器、須恵器、灰釉陶器、墨書土器(「国院」「尼寺」「安」「男」「梵字」)

⑥ 史跡・遺物…多くは市川市立博物館で保管。

24302 下総国分尼寺跡(41,45,74,145,146,161,223,258,291,341,391)

① 市川市国分町1972

② 下総国葛飾郡葛飾郷

③ 国分僧寺の北西約400mの地点に所在する。昭和初期まで僧寺、尼寺の比定に対して諸説あったが、昭和7年この地から「尼寺」と墨書した土師器が発見されるに及び尼寺跡と認定された。伽藍配置は東大寺式。

④ 基壇2基(金堂址、講堂址)、礎石。

⑤ 軒丸瓦(宝相華文、六葉複弁蓮華文、八葉複弁蓮華文、細弁蓮華文)、軒平瓦(宝相華文、扁行唐草文、重弧文、均正唐草文)鬼瓦破片、丸瓦、平瓦、瓦塔破片、文字瓦(「埴」「一」「六」「荒人」「十」)土師器、須恵器、緑釉陶器、墨書土器(「尼寺」「法」「大」「生」「慶」「上」「蓋」「十」「下」「安」)、古銭(隆平永宝)、鉄釘。

⑥ 史跡・遺物…多くは市立市川博物館に保管。

24701 千葉寺跡 (41,32,38,39,58,72,73,84,155,226)

- ① 千葉市千葉寺町161
- ② 下総国千葉郡池田郷
- ③ 東京湾を眼下に見下す台地上に位置し現在する千葉寺観音堂境内がほぼその寺域と推定されている。なお、寺域北側に奈良～平安期の竪穴住居址の存在も確認されている。
- ④ 金堂址をその後改変したと推定される土壇、土塁、堀の他、礎石が5個発見されている。文献73cでは、寺域を南北約400尺、東西約240尺と推定しているが、文献84では約70間四方を想定している。
- ⑤ 軒丸瓦（鋸歯文縁四葉複々弁蓮華文）軒平瓦（三重弧文、四重弧文、五重弧文）丸瓦、平瓦、文字瓦（「嶋」「乙」）瓦塔（破片）、土師器（坏）、須恵器（坏、蓋）、合子（青白磁）、金銀箔、檜扇残片、経筒（底部に2個とも和鏡をはめ込んでいる）鉄釘他。

24702 大椎廃寺跡 (41,43,53,391,394)

- ① 千葉市大椎町文六2
- ② 上総国山辺部草野郷
- ③ 村田川の上流、分水界に近い標高約90mの台地上に所在する。近接して台地西方には大椎城跡また、西方約1.5kmには小食土廃寺跡が所在する。

⑤ （表面採集）軒丸瓦（素文縁四葉単弁蓮華文）、軒平瓦（三重弧文）

24703 小食土^{やましろ}廃寺跡 (391,394)

- ① 千葉市小食土町昭和の森公園内
- ② 上総国山辺郡草野郷
- ③ 村田川、鹿島川、小中川の源泉地付近、

分水界の標高約90m余を測る台地上に所在する。近接して、長方形の周溝の中に東西に対峙した掘立柱建物址2棟が発見された荻生道遺跡が所在する。

⑤ 軒平瓦（均正唐草文—上総国分寺創建瓦と同范関係にある）

平瓦（縄目文—凸面型一枚造り、胎土・焼成ともに上総国分寺瓦に酷似する）

24704 谷津台廃寺跡（伝東光院跡） (391)

- ① 千葉市平山町谷津台
- ② 下総国千葉郡千葉郷
- ③ 都川の支流により開析された平山支谷の右岸、標高約38mを測る台地上に所在する。同一台地上に隣接して所在する築地台貝塚（文献407）の表土層及びその直下から本遺跡と関係のあると考えられる古瓦（軒平瓦、丸瓦、平瓦）が出土しており、また南東約700mの地には、平瓦の検出された新山遺跡（文献381）が所在する。

⑤ （表面採集）平瓦。

※現在の東光院の故地との伝承あり。

25201 長熊廃寺跡 (67,76,84,108,357,391)

- ① 佐倉市長熊字五良外
- ② 下総国印旛郡長隈郷
- ③ 印旛沼に注ぐ高崎川中流北岸の標高約35mを測る平坦な台地上に所在する。発掘調査の結果、法起寺式の伽藍配置をもつ寺院跡と想定されている。なお、隣接して奈良～平安期の住居址群が検出されている。
- ④ 基壇建物址3棟（金堂址、講堂址、塔址）中門址、南大門址、廻廊址。
- ⑤ 軒丸瓦（二重圈縁八葉素弁蓮華文、素縁八葉蓮華文）

軒平瓦（均正忍冬唐草文、並行連珠文）

丸瓦（無段、有段玉縁付）

平瓦（縄目文）

瓦塔（4片）、鉄釘。

25901 ^{きわろし}木下別所廃寺跡（41,100,102,260,391）

- ① 印旛郡印西町別所876の1外
- ② 下総国印旛郡言美郷
- ③ 利根川本谷と手賀沼から東方に延びる大森支谷とにはさまれた下総台地北部の標高約25mを測る台地南端に所在する。周辺地域には全長30mの前方後円墳を含む約20数基で構成される道作古墳群や、本遺跡に近接しては後庵山古墳、大森上宿古墳がある。さらに、本遺跡の北西約800mの地点には、本遺跡と関連を有すると考えられる曾谷窪瓦窯址がある。なお、発掘調査により寺跡とともに奈良～平安期の住居址群が確認されている。

④ 昭和52、53年度の2度にわたる調査により講堂址基壇、金堂基壇、及び塔址と考えられる方形基壇が各々検出されている。

⑤ 軒丸瓦（三重圏縁八葉単弁蓮華文）

軒平瓦（段頸三重弧文）

丸瓦（無段、有段玉縁付）

平瓦（格子目文、縄目文）

隅切瓦 文字瓦（「道」）、瓦塔片、鉄釘、土師器、須恵器、

25902 大塚前廃寺跡（253,391）

- ① 印旛郡印西町浦幡新田大塚前592
- ② 下総国印旛郡三宅郷
- ③ 印旛沼と手賀沼の分水界に位置する標高25m程の平坦な台地上に所在する。出土した瓦から奈良末～平安初期頃に比定され

ている。昭和48年千葉ニュータウン建設に伴う発掘調査。消滅。

④ 堀立柱建物址2棟。これら2棟は約2mの間隔で並び、ともにほぼ同一方位を示す。東棟は3×3間、四面廂の建物址、他の一棟は2×2間、東柱のある建物址である。報告書では瓦葺の草堂址を想定している。他に、建物址の北側及び南側に瓦を出土した溝と東側で竪穴住居址1軒が検出されている。

⑤ 軒丸瓦（宝相華文）、

軒平瓦（宝相華文、均正唐草文）

丸瓦（行基丸瓦）、平瓦（縄目文）、

のし瓦、隅切瓦、文字瓦（「埴」36点）

瓦塔（小破片1点）

26101 八日市場大寺廃寺跡（44,391）

- ① 八日市場市大寺1861
- ② 下総国匝瑳郡珠浦郷
- ③ 現在の竜尾寺の裏山にあたる台地端に所在する。

⑤（表面採集）軒丸瓦（素文縁八葉素弁蓮華文、三重圏縁八葉単弁蓮華文、六弁蓮華文、素文縁十六葉単弁蓮華文）

26102 御堂跡廃寺跡（391）

- ① 八日市場市大寺字荒場565 外
- ② 下総国匝瑳郡珠浦郷
- ③ 八日市場大寺廃寺跡の北東約750mの台地上に所在する。

⑤（表面採集）平瓦（縄目文）

27001 竜正院寺跡（41,391）

- ① 香取郡下総町滑川1093-1竜正院境内
- ② 下総国香取郡須賀郷
- ③ 利根川右岸の低地（自然提防上）に所在する。隣接して瓦窯跡の所在が確認され

ている。

⑤ (表面採集)

軒丸瓦(三重圏縁八葉単弁蓮華文、宝相華文) 軒平瓦(三重弧文) 丸瓦(無段、有段玉縁付)

27002 名木廃寺跡(41,391)

① 香取郡下総町名木字鎌部

② 下総国香取郡子松郷

③ 北側の利根川に向い開折する小支谷の東側、標高約35mの台地上に所在する。本遺跡地及び付近から計3体の小型仏像が発見されている。

⑤ (表面採集) 軒丸瓦(三重圏縁八葉単弁蓮華文)、平瓦、青銅製小仏像

27101 竜角寺跡(22,24,23,26,41,47,48,49,50,59,61,64,66,83,82,100,103,182,227,228,391)

① 印旛郡栄町竜角寺239

② 下総国埴生郡麻生郷

③ 利根川に通じる小支谷に東西を画された標高37~38mの南北に延びる樹枝状台地の基部に所在する。

④ 金堂址基壇、塔址基壇、掘立柱建物跡。

金堂址基壇は東西間口51尺、南北奥行41尺を計り、現在の磁北に対し東に7.2°片よっている。金堂址の東方に1辺36尺の塔址基壇が存在する。他に塔址北方に掘立柱建物址が確認されている。講堂、門等は現在のところ不明。

⑤ 軒丸瓦(三重圏縁八葉単弁蓮華文)

軒平瓦(三重弧文、唐草文、連珠文、鋸齒文若干あり)

丸瓦(行基丸瓦)、平瓦(格子目文)

文字瓦(「朝市」「服止部」「赤加」「加刀利」

「加刀入」など)

瓦塔(破片)、石製鷗尾。

27201 木内廃寺跡(230,391)

① 香取郡小見川町木内権見社

② 下総国海上郡城上郷

③ 利根川に注ぐ黒部川左岸の台地上に所在する。西方約1.5km地には布目瓦を出土する内野遺跡が所在する。

④ 基壇らしき地形の高まり有りといわれる。

⑤ (表面採集) 軒丸瓦(八葉素弁蓮華文) 平瓦(格子目文)

文字瓦

27901 船戸廃寺跡(156,391)

① 我孫子市船戸

② 下総国相馬郡色陀郷

③ 手賀沼北岸の標高約19mを測る台地上に所在する。

④ 確認されなかった。

⑤ 軒丸瓦(珠文圏縁六葉複弁蓮華文)

軒平瓦(唐草文)

平瓦(裏面絡縄痕、一枚作りと推定されている)

28001 手賀廃寺跡(41,100,358,391)

① 東葛飾郡沼南町手賀寺台301外

② 下総国相馬郡大井郷

③ 手賀沼南岸の小字が寺台と呼ばれる舌状台地上に所在する。土採取により遺跡の大半は消滅しているものと考えられる。

④ 未発掘

⑤ (表面採集) 軒丸瓦(素文縁八葉単弁蓮華文、素文縁六葉単弁蓮華文)

軒平瓦(唐草文、素文)

平瓦。

3 城 跡

30501 館山城 (97,398,426)

- ① 館山市字城山
- ② 安房国安房郡河曲郷
- ③ 館山湾に注ぐ汐入川と見留川に挟まれ、周囲 1.5km、標高65mの丘陵に位置する。
- ④ I・II・III次調査を行なったが、遺構らしきものは城山内部では検出されず。鹿島堀で2地点調査。
- ⑤ 陶器、磁器、鉄滓、刀子片。

31301 蔵波砦 (304)

- ① 君津郡袖ヶ浦町字蔵波
- ② 上総国望陀郡望陀郷
- ③ 東京湾の旧海岸線を見下す、半島状に突出した台地上に位置する。
- ④ 空堀を有する本丸跡と掘立柱群を検出。

31302 川原井城 (323)

- ① 君津郡袖ヶ浦町大字川原井
- ② 上総国畔蒜郡甘木郷
- ③ 小櫃川の本流と支流に囲まれた、半島状台地の北端に位置する。
- ④ 主郭は調査を行なったが遺構なし。堀、土塁を調査。
- ⑤ なし

31401 請西台遺跡 (304)

- ① 木更津市請西字望池谷851-1
- ② 上総国望陀郡会戸郷
- ③ 矢那川によって開析され、複雑に入りこんだ支谷の台地上に位置する。
- ④ 土塁等が確認され、館跡の所在を示唆する。
- ⑤ なし

31501 久留里城 (359,427)

- ① 君津市久留里字城山
- ② 上総国周淮郡山家郷
- ③ 小櫃川の中流域の谷口部に位置し、川を自然の外堀として利用している。
- ④ 天守台跡、二ノ丸長屋堀跡、本丸土堀跡、本丸建物跡、二ノ丸石切場跡等の遺構を検出する。
- ⑤ カワラケ、陶・磁器、鉄釘、古銭、砥石、しっくい塊。

31801 碓城

- ① 長生郡睦沢村字大上碓谷
- ② 上総国夷濲郡三宅郷
- ③ 大上碓谷の西北に連恒する丘陵上に位置。

32401 小野城 (438)

- ① 東金市小野上ノ城443 他
- ② 上総国山辺郡山口郷
- ③ 九十里方面より侵入する小支谷に面した台地上に位置する。
- ④ 空堀、土塁等を調査。
- ⑤ 不明

32601 成東城 (184)

- ① 山武郡成東町成東
- ② 上総国武射郡畔代郷
- ③ 両総台地が、九十九里海岸平野に向い急峻な崖を呈する台地端に位置する。
- ④ 地表面の遺構観察により、堀、土塁、郭、折邪等についての考察が述べられる。
- ⑤ 板碑。

32602 津辺城 (184)

- ① 山武郡成東町津辺

- ② 上総国武射郡畔代郷
- ③ 成東城の北東 1.3kmの地点で、二つの支谷の間の半島状台地の突端に位置する。
- ④ 遺構の解説のみ。
- ⑤ なし

32801 ^{いひつ}飯櫃城 (400)

- ① 山武郡芝山町飯櫃字谷台
- ② 上総国武射郡加毛郷
- ③ 東の方に張り出した舌状丘陵上に位置する。
- ④ 直線連郭式で、土塁、空堀等の遺構を確認。
- ⑤ なし

32802 山中城 (400)

- ① 山武郡芝山町山中字根古屋
- ② 上総国武射郡長倉郷
- ③ 横芝町に所在する坂田城の東北数km地点で、北の方に突き出す舌状丘陵上に位置する。
- ④ 直線連郭式で、土塁、空堀を認める。
- ⑤ なし

32803 大台城 (400)

- ① 山武郡芝山町大台字池之内
- ② 上総国武射郡新居郷
- ③ 山中城の東北 1.5kmに位置し、北の方に突き出す舌状丘陵上に位置する。
- ④ 直線連郭式で、3つの郭から形成され、土塁、空堀等の遺構を比較的良く残す。
- ⑤ なし

32901 小堤要害城 (233)

- ① 山武郡横芝町小堤下宮台
- ② 上総国武射郡狎狼郷
- ③ 標高20~30mを測る台地の先端に位置する。

- ④ 測量により、郭、堀、土塁、櫓台を確認する。
- ⑤ なし

33001 高砂城 (304)

- ① 山武郡松尾町蕪木433
- ② 上総国武射郡片野郷
- ③ 木戸川により開析された支谷の、北側の舌状台地に位置する。
- ④ 堀、土塁、小ピット等を検出する。
- ⑤ 灰釉陶器。

63201 天神台遺跡 (335)

- ① 富津市海良字天神台
- ② 上総国周准郡周准郷家
- ③ 湊川河口近くの右岸の海成段丘上。
- ④ 調査区北東端に大形のV字溝があり、中世の遺構とみられる。
- ⑤ なし

33301 大野城 (401)

- ① 夷隅郡夷隅町大字大野下
- ② 上総国夷湍郡大野郷
- ③ 夷隅川に向って半島状に突出した、丘陵上台地とその裾部に位置する。
- ④ 測量調査と発掘調査を行ない、郭、腰曲輪、土塁、空堀、縦堀、階段状遺構を検出。
- ⑤ 陶器、磁器、カワラケ、金属製品、古銭、木製品。

33401 大多喜城 (265)

- ① 夷隅郡大多喜町大字大多喜
- ② 上総国夷湍郡大野郷
- ③ 夷隅川の流域で、城跡下は川が「コ」字状に屈曲し、背後よりせまる丘陵の東端に位置する。
- ④ 本丸内部で総南博物館建設予定地内の調査。柱列(建物跡)、弓木石、土壘、溝を検出。

⑤ カワラケ、耳カワラケ、磁器（白・青磁・染付）、陶器（瀬戸・志野・唐津）、鉄製品（角釘）、銅製品（釘・鋌）、鉛製品（鉛弾）、石製品（砥石）。

33801 松部城（372）

- ① 勝浦市松部字下長者519
- ② 上総国夷湍郡勝浦郷
- ③ 太平洋側は海水による侵蝕谷、山側は夷隅川により開析された谷津が樹枝状に入り組み、この丘陵上の最南端に位置する。
- ④ 測量調査を実施、5つの曲輪、16ヶ所以上の物見状遺構、12ヶ所の腰曲輪、2本の堀切り、1条の土塁を確認。
- ⑤ 江戸以降～明治期の陶・磁器（美濃・伊万里・四日市・白万古）。

34101 加村屋敷跡（陣屋）（402）

- ① 流山市加1225～6
- ② 下総国葛飾郡茂侶郷
- ③ 江戸川の低湿地帯と、江戸川に向かって開析された谷津が合流する地点の、台地の上に立地する。
- ④ 本多家陣屋跡、建物跡一棟（長屋跡か）
- ⑤ 江戸期～昭和にかけての陶器、瓦。

34201 小金城（168）

- ① 松戸市大谷口
- ② 下総国葛飾郡井上郷
- ③ 江戸川を望む、洪積台地上に位置し、下総台地の西端である。
- ④ 高城氏の居城で享禄3年（1530）～天文6年（1537）の築城期間をようし、天正19年（1591）に廃城となる。
本城、中城、外番場、馬屋敷の四つの郭に対して実施、それに供なって、土塁、堀の調査を実施。

⑤ かわらけ、内耳土鍋、ほうろく、陶器（常骨風摺鉢等・古瀬戸・天目）、舶載磁器（青磁・白磁・染付）、古銭（開元通宝・淳化元宝・至道元宝・祥符通宝・皇宋通宝・元豊通宝・大観通宝・元符通宝・永樂通宝・朝鮮通宝・治平通宝・景口宝）、鉄砲玉、小青銅製品（用途不詳）、鉄製角釘・鉄製刀子。

34601 佐津間城（295）

- ① 鎌ヶ谷市佐津間
- ② 下総国葛飾郡大結郷
- ③ 手賀沼に注ぐ小支流により開析された台地上に位置し、小金原を南に望む台地である。
- ④ 測量調査により郭、堀、土塁を確認、空堀の一部を発掘。
- ⑤ 板碑（元亀三年銘）。

34701 城の腰遺跡（414）

- ① 千葉市大宮町字城の腰
 - ② 下総国千葉郡糟苺郷
 - ③ 都川の本流、支流が分岐する地点に、東方より突出した舌状台地の南西端に位置する。
 - ④ 複郭を呈し、土塁、空堀が良く残るが、郭内部には遺構は検出されなかった。
 - ⑤ 陶器、磁器、古銭。
- 34702 武石館（361）
- ① 千葉市武石町1-520
 - ② 下総国千葉郡茜津郷
 - ③ 花見川が形成する台地の南端に位置する。
 - ④ 溝が検出されたが、その他館跡に関連ある遺構については不明。
 - ⑤ 近世の泥面子、灯明皿。

34703 御茶屋御殿跡 (307)

- ① 千葉市御殿町字津志野
- ② 下総国千葉郡池田郷
- ③ 鹿島川とこれに注ぐ小支流によって分断された平坦な台地上に築造されている。
- ④ 測量調査を実施、土塁、空堀、土橋を確認。
- ⑤ なし

34901 亥が鼻砦 (262)

- ① 印旛郡四街道町鹿渡小字戸崎140
- ② 下総国千葉郡山梨郷
- ③ 鹿島川の支流により開析された台地上で、四街道駅と物井駅のほぼ中間に位置する。
- ④ 土塁、空堀が残る。
- ⑤ なし

34902 戸崎砦 (262)

- ① 印旛郡四街道町中野字戸崎
- ② 下総国千葉郡山梨郷
- ③ 鹿島川の本谷の左岸にあり、前面には水田が広がる。
- ④ 単郭で、土塁と空堀とにより構成される。
- ⑤ なし

34903 木出砦 (吉岡城) (262)

- ① 印旛郡四街道町大字吉岡小字木出
- ② 下総国千葉郡山梨郷
- ③ 鹿島川の支流により開析された、舌状台地の突端に位置する。
- ④ 空堀、土塁を確認。
- ⑤ 五輪塔、板碑。

34904 福星寺砦 (262)

- ① 印旛郡四街道町大字吉岡小字下田山898
- ② 下総国千葉郡山梨郷

- ③ 福星寺の周囲に位置する。

- ④ 土塁、空堀を確認。
- ⑤ なし

34905 栗山池の尻遺跡

- ① 印旛郡四街道町栗山字池の尻
- ② 下総国千葉郡物部郷
- ③ 鹿島川の支流北岸の舌状台地の根元西寄に位置する。
- ④ 堀、土塁、地下式土壇、建物跡、井戸を検出。
- ⑤ 土鍋、土がま、土師質すりばち、陶器、磁器、砥石、硯、木製品(井戸わく)、古銭、小柄。

35001 米本城 (263)

- ① 八千代市米本字内宿南
- ② 下総国印旛郡村神郷
- ③ 舌状台地の突出部の先端を城の最奥部として、側面は自然の断崖を利用する。
- ④ 測量調査で3つの郭と、3本の堀を確認。
- ⑤ なし

35002 吉橋城 (263)

- ① 八千代市吉橋字尾崎、花輪
- ② 下総国千葉郡草田郷
- ③ 桑納川の支谷が形成する台地の東北端に位置する。
- ④ 測量調査により、郭、堀、土塁を確認する。
- ⑤ なし

35003 高津館 (263)

- ① 八千代市高津字部田
- ② 下総国千葉郡茜津郷
- ③ 新川により開析された、標高20mの台地東端に位置する。
- ④ 測量調査により、単郭長方形の郭、堀、土塁を確認する。

⑤ なし

35201 佐倉城 (185,186,326,362)

① 佐倉市城内町

② 下総国印旛郡印旛郷

③ 鹿島川の河口近くの右岸に半島状に突出した台地上に位置する。

④ I・II・III・IV次の調査により、馬出の堀遺構及び、近世以前の城郭遺構かと思われる堀等の遺構が検出された。

⑤ カワラケ、陶器、磁器、板碑、古銭、瓦。

35202 忍台城 (283)

① 佐倉市臼井渡戸字忍の台

② 下総国印旛郡日理郷

④ 単郭で台地を分断させるような堀切。

⑤ なし

35203 謙信一夜城 (283)

① 佐倉市臼井

② 下総国印旛郡日理郷

④ 空堀、土橋、櫓台を確認。

⑤ なし

35801 吉高家老地遺跡 (313)

① 印旛郡印旛村吉高家老地653-1

② 下総国印旛郡吉高郷

③ 印旛沼の南岸で沼に突出した、舌状台地に位置する。

④ 溝、土城等が検出される。

⑤ 陶・磁器。

35901 小林城 (296)

① 印旛郡印西町小林字城山

② 下総国印旛郡言美郷

③ 旧利根川を望む、下総台地の先端に位置する。

④ 測量調査で、土塁3ヶ所、郭4ヶ所、

溝1、腰曲輪8ヶ所を確認。

⑤ 古銭(熙寧元宝)。

35902 船尾城 (453)

① 印旛郡印西町船尾1225

② 下総国印旛郡船穂郷

③ 神崎川の支流により形成され、北方に突出した舌状台地上に位置する。

④ 城跡に伴う土塁、空堀を調査。

⑤ 土器、古銭(寛永通宝)

36101 内山城 (297)

① 八日市場市内山

② 下総国匝瑳郡干俣郷

③ 半島状にのびた舌状台地の突端部に位置する。

④ 発掘調査では、特に遺構は検出されず。

⑤ 陶器、砥石。

36501 岩部城 (438)

① 香取郡栗源町岩部5076

② 下総国匝瑳郡田部郷

③ 栗山川に突出した舌状台地。

④ 城跡に関連する遺構が検出されたが、詳細は不明。

⑤ 古銭(治平通宝)。

36502 城郷遺跡

① 香取郡栗源町字城郷

② 下総国匝瑳郡田部郷

③ 半島状台地の台地端に位置する。

④ 単郭方形で土塁の一部を残す。測量のみ。

⑤ なし

36601 多古城 (314)

① 香取郡多古町字多古台

② 下総国匝瑳郡播羅郷

③ 栗山川と多古橋川の合流する地点の、

標高40m前後の洪積台地の東端に位置する。

④ 溝状遺構が検出される。

⑤ なし

36801 松子城 (170)

① 香取郡大栄町字松子

② 下総国香取郡真敷郷

③ 樹枝状に開析された下総台地の中で、同町字吉岡の方から台地が北にのび、その北端に位置する。

④ 後詰、要害、城之内地区をブルドーザーにより削平、①でピット列、土壘、②で基壇、①と②の郭の間で空堀を検出。

⑤ カワラケ、陶器（古瀬戸・常骨・灰釉）、鉄器、古銭、刀子、銅製品。

36901 神崎城 (266)

① 香取郡神崎町字並木

② 下総国香取郡子松郷

③ 下総台地の一部で、孤立した島状の台地に位置する。

④ 土壘3ヶ所を調査。

⑤ 中世の遺物なし。

37001 助崎城 (404)

① 香取郡下総町名古屋字登城

② 下総国香取郡須賀郷

③ 利根川、尾羽根川により開析された低丘陵上に位置する。

④ 建物跡、土壘、溝を検出する。

⑤ カワラケ、古銭、鉄製品。

37201 平良文館 (298)

① 香取郡小見川町阿玉台字本立

② 下総国海上郡編玉郷

③ 樹枝状に開析された下総台地上に位置し、東西70m、南北100mを測る台地である。

④ 空堀、溝、貯蔵穴、柱穴群等を検出する。

⑤ 内耳土器、陶器、古銭、カワラケ、刀子片。

37801 戸張城 (429)

① 柏市戸張城山台909

② 下総国相馬郡色陀郷

③ 手賀沼に向かって突出している、戸張台地の南端の一角に位置する。

④ 発掘により、土壘、空堀を検出。

⑤ なし

37901 中峠城 (236)

① 我孫子市中峠字亀田谷

② 下総国相馬郡古溝郷

③ 舌状台地の先端で、南は手賀沼に面している。

④ II郭～III郭に当る部分と、土壘、空堀を調査。

⑤ カワラケ、陶器。

37902 根戸城 (363,405,198)

① 我孫子市根戸字法花坊及び柏市根戸中馬場

② 下総国相馬郡色陀郷

③ 北柏駅の東方で、手賀沼に望む舌状台地に位置する。

④ 郭、北堀、東堀、土壘部の四ヶ所を調査、郭では遺構の存在は確認できず、また隣接する北の内遺跡で、根戸城に関連する遺構が検出されている。

⑤ 陶器、磁器、古銭。

4 墓 跡

41001 観音台遺跡 (158・171)

- ① 鴨川市江見西牧
- ② 安房郡長狭郡日置郷
- ③ 大平洋に注ぐ洲貝川東岸の舌状台地上に位置する。
- ④ 小形石室を発見。蛇紋岩側壁で三方を囲む石室で、玄室は径1.5mの円形、床面に敷石を施す。南に3m強の羨道部が開口する。
- ⑤ 須恵器2個の内に火葬人骨、土師器の内には灰が遺存する。奈良時代。

41101 旭森経塚遺跡 (151)

- ① 安房郡天津小湊町清澄
- ② 安房国長狭郡余戸郷
- ③ 台地の小突端部
- ④ 不詳
- ⑤ 常滑の甕を外容器とし中に金張りの経筒(銅)が入っていた。銘があり応永年間であることがわかる。

⑥ 清澄寺

41201 大坪所在遺跡 (299・320)

- ① 市原市大坪
- ② 上総国市原郡海部郷
- ③ 山倉古墳群の一つ南斜面
- ④ 前方後円墳の後円部にピットあり正位で発見、上部、周囲に玉砂利がひいてあった。
- ⑤ 常滑大甕(緑泥片岩の蓋)
- ⑥ 国分寺台調査団。

41202 南中野台遺跡 (299・320)

- ① 市原市南中野台(市役所脇)
- ② 上総国市原郡市原郷

⑤ 常滑大甕

⑥ 国分寺台調査団

41203 矢田所在遺跡 (327)

- ① 市原市下矢田
- ② 上総国市原郡江田郷
- ③ 台地の辺り崖面より偶然に出土、他にも数点出土したといい、それらは寺で再埋葬したという。
- ④ 不詳。
- ⑤ 常滑甕 1。
鎌倉末、肩に押印あり。

⑥ 同地酒巻萬喜寿氏。

41204 台遺跡

- ① 市原市台
- ② 上総国海上郡馬野郷
- ④ ピット内から。
- ⑤ 常滑甕(骨入)。
- ⑥ 国分寺台調査団。

41205 金出台所在遺跡 (88)

- ① 市原市姉ヶ崎立野金出台
- ② 上総国海上郡馬野郷
- ③ 台地中央部、マウンドあり。
- ④ 地表下110cm
- ⑤ 土師(女性大腿骨、凝灰岩石櫃)。

41206 金出台所在遺跡 (88)

- ① 市原市姉ヶ崎立野金出台
- ② 上総国海上郡馬野郷
- ⑤ 土師脚付壺。

41207 立大堀切所在遺跡 (88)

- ① 市原市姉ヶ崎立大堀切
- ② 上総国海上郡馬野郷
- ⑤ 土師脚付壺。

41208 宮前遺跡 (376)

- ① 市原市山田橋字宮前川外
- ② 上総国市原郡海部郷
- ③ 養老川右岸に突出する国分寺台の舌状台地上にあり、平安時代集落を主とする複合遺跡。

④ 遺構の存在は確認できなかった。

⑤ 板碑、五輪塔出土。

⑥ 平野元三郎・滝口宏調査、国分寺台埋文化財調査団保管。

41209 手長台貝塚 (335)

- ① 市原市菊間手長2137
- ② 上総国市原郡菊間郷
- ③ 村田川河口南岸の台地縁辺にあり、縄文時代貝塚を主とする遺跡。

④ 地下遺構、1基を検出。

⑤ なし。

⑥ 平野元三郎調査。

41210 荒久遺跡 (287)

- ① 市原市荒久～山王街道
- ② 上総国市原郡市原郷
- ③ 上総国分寺の東約200mの台地上にあり、直下には雷電池からの支谷が入り込む。8世紀～13世紀の集落を主とする複合遺跡。

④ 土壌約100基が点在する。多くは円形、長方形で、希に多量の焼土を混入した例はあるが、人骨は検出されていない。

⑤ 遺構に伴わずに室町時代陶器(常滑・古瀬戸・越前)磁器(青磁・白磁)が出土。

⑥ 上総国分寺台遺跡調査団保管。

41211 御林跡遺跡 (431)

- ① 市原市加茂御林跡外
- ② 上総国市原郡市原郷
- ③ 国分寺台最西端に位置する。縄文～古

墳時代集落跡および弥生～中世の墓域。

④ 埋葬遺構として、土壌120基が南斜面に集中、平坦面には地下式土壌4基が点在する。

⑤ 土壌中のいつくかより、人骨が検出された。

41212 台遺跡A地点 (378)

① 市原市加茂字台388-3外

② 上総国市原郡市原郷

③ 国分寺台の西端に位置し、養老川の沖積平野に面する三角形の小台地。道路をはさみ南にB地点と対峙する。弥生～中世の集落墓地の複合遺跡。

④ 円形の凹み2カ所、溝等により、約120×90mの範囲が区画され、これを中心に土壌110基が群在する。土壌のうち40基前後の地下式土壌、また長方形の大形のものもある。

⑤ 地下式土壌内より、陶器(古瀬戸・常滑)磁器(青磁)土器(内耳・摺鉢)石臼の他板碑(貞治7年)等が出土。

41213 勝間遺跡 (275-b)

① 市原市勝間字土器石

② 上総国市原郡建市郷

③ 小支谷に挟まれた標高70mの舌状台地上にあり、主として縄文時代の集落跡。

④ 火葬墓1墓とU字溝が確認され、恐らく奈良時代の所産と考えられる。

⑤ 不明。

⑥ 武士塙寺との関連遺構か。平野元三郎調査。

41214 南総中学遺跡 (195・377)

① 市原市牛久町江子田

② 上総国市原郡江田郷

③ 養老川中流域の蛇行する部分、東岸は内田川、石川川等により舌状台地となっている。遺跡は両川を南、北下に望む台地上にある。縄文～歴史時代の墓域、集落。

④ 墓地として、溝、土壇等の遺構あり。溝は南北40m、東西20m以上の方形の区画を設け、このうちに土壇、柱列がある。土壇のうちには方形で底面に溝の走る火葬墓、人骨1体分の出土した土葬墓等がある。

⑤ 墓壇内より、陶・磁器、六文銭（「開元通宝」「咸平元宝」「聖宋元宝」「政和通宝」「永樂通宝」）を出土。

他に土器（カワラケ、内耳土器）、鉄製品（釘等）、煙管、瓦、砥石、古銭（「寛永通宝」「文久永宝」）あり。

41215 椎津遺跡（304）

- ① 市原市椎津榎上2770-1外
- ② 上総国海上郡馬野郷
- ③ 東京湾に注ぐ椎津川は北上し下流で西に向きを変えるが、変換点付近の東岸南向きの台地上にある。
- ④ 中世以降の墓跡2基。
- ⑤ 古銭（「寛永通宝」）等出土。
- ⑥ 市毛勲調査。

41301 大竹遺跡（328）

- ① 君津郡袖ヶ浦町字大竹小字滝350
- ② 上総国畔蒜郡畔蒜郷
- ③ 第4トレンチ第1区内出土。
- ⑤ 長頸瓶の頸部を打ち欠いたもの。成人火葬骨、須恵坏。

41302 川原井所在遺跡（369）

- ① 君津郡袖ヶ浦町川原井
- ② 上総国畔蒜郡甘木郡
- ④ 畑を耕作中に偶然出土。

⑤ 火葬骨と鉄片伴出。

灰釉蔵骨壺（蓋付） 1

⑥ 上総博物館保管。

41401 ^{あいさと}相里所在遺跡（151）

- ① 木更津市相里
- ② 上総国望陀郡会戸郷
- ③ 経塚と考えられるマウンドの麓から出土、中に人骨が入っていた。
- ④ 不詳。
- ⑤ 古瀬戸瓶子 1 鎌倉末
常滑不識壺 1 室町初

41402 ^{じよざい}請西大山台第100遺構（432）

- ① 木更津市請西
- ② 下総国望陀郡会戸郷
- ④ 土壇内に土師甕に内黒の土師坏を蓋とし全体を倒立させた状態で出土。
- ⑤ 土師甕、同蓋。
- ⑥ 木更津教育委員会。

41403 高蔵寺裏山遺跡（327）

- ① 木更津市矢那
- ② 上総国望陀郡鹿津郷
- ③ 墓地の脇に掘り出された状態で放置してあったという。
- ④ 不詳。
- ⑤ 渥美壺 1 鎌倉時代。
- ⑥ 市原 松村要氏。

41404 江川遺跡（86・109a）

- ① 木更津市江川1008（熊野神社境内）
- ② 上総国望陀郡会戸郷
- ③ 小櫃川下流沖積平野にみられる低砂丘列の最も海側の砂丘裏にある。
- ④ 深さ3尺径6尺程の壇内に石櫃を安置していた。
- ⑤ 石櫃は凝灰質砂岩製で、中に蛇紋岩製

の家型骨蔵器が納置されていた。骨蔵器中には成年男子骨が検出された。

⑥ 奈良時代と推定される。

41501 新御堂所在遺跡 (299)

- ① 君津市新御堂
- ② 上総国周准郡藤部郷
- ③ 西北に面する斜面。
- ④ 地表下のピットに正位で出土。周囲に木炭。
- ⑤ 土師 (蓋に土師坏)

41701 国府関所在遺跡 (327)

- ① 茂原市国府関
- ② 上総国長柄郡太部
- ③ 長生郡二宮本郷村国府関小学クゲ谷で溜池を造成する際に出土。
- ④ 不詳。
- ⑤ 渥美の壺 1
「天」の逆字が肩に陰刻されている。

⑥ 二宮小学校。

42401 道庭遺跡 (438)

- ① 東金市家之子中大宮台1,059
- ② 上総国山辺郡岡山郷
- ③ 作田川中流域南岸の台地上にあり、東には九十九里平野が広がる。
- ④ 土壇7基その他。
- ⑤ 瓦。
- ⑥ 浜名徳永調査、東金市教育委員会保管。

42601 川崎所在遺跡 (327)

- ① 山武郡成東町川崎
- ② 上総国武射郡畔代郷
- ③ 不詳。
- ④ 不詳。
- ⑤ 渥美壺 1 鎌倉時代。
- ⑥ 芝山はにわ博物館。

42801 金光寺廃寺跡遺跡 (224・327)

- ① 山武郡芝山町山田字小金
 - ② 上総国武射郡新居郷
 - ③ 南に延びる舌状台地の突端にあり東端から工事中にまとまって発見された。
 - ④ 特に施設はなかったという。
 - ⑤ 甕 1
壺 2
三筋壺 1
不識壺 1
- } 鎌倉末
常滑 }
室町初

⑥ 芝山はにわ博物館。

42802 高田権現遺跡 (456)

- ① 山武郡芝山町高田
- ② 上総国武射郡新居郷
- ③ 木戸川上流域東岸台地上にあり、丈塚群中に散在する。
- ④ 火葬墓6墓を含む土壇約30基。火葬墓は方形が基本的で、底面に溝が走る。炭、焼土等がつまり、人骨も遺存する。
- ⑤ 人骨の他はなし。

43201 神明山所在遺跡 (299)

- ① 富津市神明山
- ② 上総国天羽郡
- ③ 不詳。
- ④ 小横穴有段棺座の中央に安置。
- ⑤ 土師長甕 1 平安時代。

43202 山田所在遺跡 (299)

- ① 富津市大字岩坂字山田
- ② 上総国天羽郡長津郷
- ⑤ 土師長甕 石櫃あり。

43203 桜井所在遺跡 (299)

- ① 富津市桜井
- ② 上総国天羽郡長津郷
- ⑤ 須恵長頸壺 (頸部以上欠)

土師、須恵碗、刀子伴出。

43401 横山遺跡 A 地点 (379)

- ① 夷隅郡大多喜町横山字細谷
- ② 上総国夷隅郡大野郷
- ③ 愛宕山麓の台地縁辺にあり、直下には夷隅川に注ぐ小支流が東より入り込む。古墳時代集落跡。

④ 住居跡内に土壇墓 2 基。1 辺 1 m 程の方形土壇。

⑤ 土壇内より古銭（「開元通宝」「至和元宝」「太平通宝」「洪武通宝」「永楽通宝」）出土。

43501 法興寺裏山遺跡 (327・354)

- ① 夷隅郡岬町岩熊
- ② 上総国夷隅郡夷隅郷
- ③ 現在の法興寺の東側にある舌状台地上から出土。
- ④ 不詳。(崖面が崩れた時に出土したという)。

⑤ 渥美の壺 1 鎌倉前
常滑の壺 3 鎌倉末～室町初
青磁の碗片が伴出している。

⑥ 法楽寺蔵。

43801 松部遺跡 (372)

- ① 勝浦市松部下長者 519
- ② 上総国夷隅郡勝浦郷
- ③ 勝浦湾を望む台地上にあり、南には支谷が入り込む。
- ④ 台地を区画するように、溝が走り、土壇多数が散在する。土壇は基本的には円形で径 80～100cm のものが多い。遺物は殆どの場合出土していない。
- ⑤ 遺物の多くは遺構外よりの出土である。主として陶器（美濃・織部・万古）磁器（

伊万里）で、その他土器・炆器・土製品（土錘・面子・瓦）・石製品（砥石）・金属製品（鉄釘・銅釘・煙管）・古銭（「寛永通宝」）等である。いずれも近世以降の所産であろう。

44001 吉春所在遺跡

- ① 野田市吉春
- ② 下総国葛飾郡度毛郷
- ③ 山林の凹地の部分 3～4 坪。板碑を伴出。
- ④ ロームを切り込んで 1 辺 50～60cm の掘り込みがあり、壺のまわりに小石が詰まっていたという。

⑤ 古瀬戸瓶子 1
常滑壺 2
広口壺 1 (須恵質)

⑥ 野田市郷土博物館保管。

44101 大畔台遺跡 (218)

- ① 流山市大畔
- ② 下総国葛飾郡茂侶郷
- ③ 江戸川東岸の小支谷に面する台地端に位置する。縄文・古墳時代集落跡。
- ④ 地下式土壇墓 1 基。天井崩落し、上面で 3.6×3.9m の楕円形、底面 3.25×2.7m ある。

⑤ なし。

44102 下花輪第二遺跡 (218)

- ① 流山市下花輪
- ② 下総国葛飾郡茂侶郷
- ③ 江戸川東岸の支谷に西面する舌状台地上に位置し、支谷を狭んで大畔台遺跡と対峙する。縄文～歴史時代の集落跡。
- ④ 蔵骨器は台地縁辺に 2 基、径 50cm 程のピットを 20～30cm 掘り下げた内に甕を立て

る。

遺跡全域に60基近くの土壇がある。多くは1 m前後の楕円形・円形・長方形で、深いものでも60cm程である。このうち地下式土壇、井戸跡各2基が含まれる。

⑤ 鉄釘、骨片等わずか出土するのみ。

44201 春日神社前遺跡 (187)

- ① 松戸市秋山春日神社前
- ② 下総国葛飾郡葛飾郷
- ③ 春日神社参道の隣接地の台地の採土の際出土。
- ④ 不詳。
- ⑤ 古瀬戸四耳壺。
- ⑥ 下総史料館。

44202 坂花所在遺跡 (98)

- ① 松戸市大字新橋字坂花
- ② 下総国葛飾郡井上郷
- ④ 地表下90cm位に正位で出土。
- ⑤ 土師甕 1

高坏を逆にして蓋としている。

「国厨」の墨書銘あり。

⑥ 松戸市教委。

44203 須和原所在遺跡 (300)

- ① 松戸市和名ヶ谷須和原
- ② 下総国葛飾郡井上郷
- ③ 不詳。
- ④ 不詳。
- ⑤ 蔵骨器 (土師質)
- ⑥ 下総史料館。

44204 幸田貝塚 (241・437)

- ① 松戸市幸田745—3外
- ② 下総国葛飾郡茂侶郷
- ③ 江戸川に東より注ぐ坂川の折曲する地点の南側、突出する台地上に位置する、縄

文時代貝塚。

④ 土壇 (ピット) 群、溝等が発見された。とくに第Ⅳ地点に集中し、土壇のなかには「横穴様」のものもある。

⑤ 当該地点を中心に陶器、土器 (炮烙) 鉄片、砥石、古銭 (「永楽通宝」) が、また他地点より古銭 (「寛永通宝」「文久永宝」) が出土。

44301 国分所在遺跡 (20)

- ① 市川市国分
- ② 下総国葛飾郡葛飾郷
- ⑤ 古瀬戸水注。

44601 万福寺裏山 (406)

- ① 鎌ヶ谷市中沢
- ② 下総国葛飾郡葛飾郷
- ③ 江戸川放水路の東側東京湾に注ぐ小河川が市川市内で分岐するが、北東にのびる支流の上流域西岸の台地縁辺にある。
- ④ 巾7 m、長16 mにわたって「U」字形の墓域を設定。域内に横倒した板碑多数を検出した。
- ⑤ 板碑約50基、灯明皿、骨壺 (灰釉、古瀬戸、常滑、備前その他)。
- ⑥ 鎌ヶ谷市教育委員会。

44602 中沢所在遺跡 (299)

- ① 鎌ヶ谷市中沢
- ② 下総国葛飾郡葛飾郷
- ⑤ 陶器壺。

44701 亥鼻城跡遺跡 (151)

- ① 千葉市亥鼻
- ② 下総国千葉郡池田郷
- ③ 千葉氏の居城である亥鼻城の西側の土塁下より。
- ④ 土塁基底面下より出土したが施設を確

認するまでに至らなかったものの、人夫の話では他にもまだ埋まっているという。

⑤ 古瀬戸四耳壺
) 土師の蓋あり。

常滑壺

常滑甕

鎌倉後期

44702 大金沢所在遺跡 (93)

- ① 千葉市大金沢町
- ② 下総国千葉郡千葉郷
- ③ 開墾畑より掘り出された。
- ⑤ 球形須恵器 (身とセット)。

44703 平和公園内C地点遺跡 (307)

- ① 千葉市多部田
- ② 下総国千葉郡糟苅郷
- ③ 都川の上流、多部田支谷と佐和支谷にはさまれた舌状台地上。縄文・平安時代以降の複合遺跡。
- ④ 土壌 (火葬墓か)
- ⑤ 国分式の土師器甕 1
- ⑥ 千葉市教委。

44704 千葉家累代の墓 (2)

- ① 千葉市園生
- ② 下総国千葉郡三枝郷
- ③ 現在のスポーツセンターの西、国道16号線沿いの林の中。
- ④ 千葉氏累代の墓地と考えられる地で塚が点在する。
- ⑤ 常滑壺 3
うち2個については蓋あり、県立房総風土記の丘にその1個が保管されている。時代は鎌倉後期から南北朝。
- ⑥ 県立房総風土記の丘。

44705 寺台所在遺跡 (366)

- ① 千葉市武石町寺台

② 下総国千葉郡茜津郷

③ 台地上。

④ 不詳。

⑤ 渥美の壺、肩に逆字の「天」銘陰刻あり。

⑥ 小川直氏。

44706 松原遺跡 (376)

- ① 千葉市都町1219
- ② 下総国千葉郡池田郷
- ③ 都川の支谷に東面する台地上。
- ④ 塚3基の他土壌等がある。
- ⑤ カワラケ、経石 (3号塚)、人骨片 (1号塚) 等が出土。
- ⑥ 市川勇調査。

44707 築地台貝塚 (407)

- ① 千葉市平山町136外
- ② 下総国千葉郡千葉郷
- ③ 都川上流域より東に侵入する長谷部支谷の北岸台地上にある、縄文時代貝塚を主とする遺跡。
- ④ 調査区東端に集中して墓塚 (骨片出土4、火葬墓3、土壌2) があり、他に時期不詳の土壌も16基群在する。
- ⑤ 人骨の他、布目瓦、陶器 (瀬戸・美濃・唐津系) 骨製品 (根付)、金属製品 (鉄刀子、煙管) 古銭 (「熙寧元宝」1・文久永宝1) 年代記銘のあるものとして武蔵型板碑3 (うち貞治3 (1364)、永和5 (1379) 年) がある。

44708 西屋敷遺跡 (415)

- ① 千葉市大宮町885
- ② 下総国千葉郡糟苅郷
- ③ 都川およびその支流によって形成された2.5kmの西北に伸びる舌状台地南面に位

置する。古墳～歴史時代集落跡。

④ 台地斜面を利用した東西約70mの方形台地整形区画があり内を3個の小区画に分ける。区画内等に大小の土壇約200個があり、そのうちに地下式土壇9、土葬墓7、火葬1基、掘立柱建物跡1棟等がある。また整然とした溝による区画が遺跡内を走る。

⑤ 台地整形区画を中心として、陶器（古瀬戸、常滑、美濃、唐津等）磁器（伊万里、青磁）土器（カワラケ、内耳）金属製品（鉄釘、鏡、煙管、金銅製品、玉）石製品（砥石、石版）土製品（面子）古銭（「開元通宝」「祥符元宝」～「永樂通宝」等中国銭20余「寛永通宝」18）等が出土。

⑥ 房総風土記の丘資料館保管。

44709 武石遺跡 (361)

① 千葉市武石町1-520

② 下総国千葉郡茜津郷

③ 花見川河口近くの東京湾に南面する舌状台地端に位置する。近世墓地。

④ 摺鉢状の凹部2カ所と溝5本が群在し、この内側に方、短形の大小土壇約50基が検出された。

⑤ 土壇内より人骨出土の例二・三ある。

他に表土中より泥面子出土。

45201 石神第1地点 (283)

① 佐倉市臼井石神

② 下総国印旛郡日理郷

③ 印旛沼南岸、手操川と鹿島川にはさまれた標高20mの舌状台地上にある臼井南遺跡の一地点。弥生時代集落を主とする遺跡。

④ 溝により囲まれた30×30mの方形区画内に151基の土壇墓群がある。土壇は2m前後の方形のものを主とし、総数の70%に

は人骨歯等が遺存し、墓地であることが知られる。

⑤ 土壇内には、カワラケ、数珠玉、古銭（「開元通宝」～「永樂通宝」）石造物として板碑が出土。いずれも室町期を示す。

45202 間野台遺跡 (346)

① 佐倉市臼井間野台

② 下総国印旛郡日理郷

③ 印旛沼南岸、東西を鹿島川、手操川が流れる洪積台地は、さらに幾条かの支谷が入り込む。そのうちの東端支谷に西面する台地縁辺に位置し、南の緩やかな小支谷を間に古屋敷遺跡と対峙する。縄文～中世にわたる複合遺跡。

④ 調査区西半部に径10m弱の摺鉢状の窪み2カ所、溝等がある。前者の内側には斜面に連なって10余基の不定形土壇がめぐり、室状遺構、のうち1基は窪み底面より検出された。室状遺構、は一般に地下式土壇といわれ全部で4基が発見されている。

⑤ これら遺構内より、陶器、土器（内耳）土製品、古銭（「聖宋元宝」1、「咸平完宝」1、不明2）が、表土中より古銭（「永樂通宝」2）が出土。

45203 古屋敷遺跡 (346)

① 佐倉市臼井間野台

② 下総国印旛郡日理郷

③ 印旛沼南岸の洪積台地上、小支谷に西面する台地縁辺にあり、間野台遺跡と対峙する。縄文～中世の複合遺跡。

④ 溝により隔離された土壇墓群2カ所あり。第I群28基は円形、方形土壇で、いずれも焼土、炭、火葬骨がみられる。土壇自体は焼化の痕跡ない。第II群28基は、円形、

長方形土壇と、トンネル溝により連接された土壇があり、前者は土葬、後者は火葬墓と思われる。他に「室状遺構、3基がある。

⑤ 遺物の多くは土壇群内にあり、いずれも中世期のものである。人骨片、土器（内耳）陶器、銅輪、石造物として五輪塔（空輪）、板碑（「正和」「弘安」「嘉暦」「文明」記年銘のあるものを含め20基）古銭のうち表採（「文久永宝」「洪武通宝」「寛永通宝」を除き、宋明銭（「開元通宝」「皇宋通宝」「祥符元宝」「嘉祐元宝」「熙寧元宝」「天聖元宝」「元豐通宝」「元祐通宝」等18出土。

45204 大塚山 (335)

- ① 佐倉市白井大塚山
- ② 下総国印旛郡日理郷
- ③ 印旛沼南岸、台地上。
- ④ 塚1基。辺1.8mの方形墳墓、内部主体は方形土壇。
- ⑤ 火葬骨、古銭出土。

45205 江原台遺跡 (420・421)

- ① 佐倉市白井字江原台
- ② 下総国印旛郡日理郷
- ③ 印旛沼東端、鹿島川南岸の突出した台地上全面に広がる、縄文～中世の大複合遺跡。
- ④ 数次の調査の結果、大溝が縦横に走り、地下式土壇4基が、北端及び中央部分に発見された。その他に時期不詳の土壇も数基認められる。
- ⑤ カワラケ、古銭（「開元通宝」「景德元宝」「皇宋通宝」「永樂通宝」「寛永通宝」）、銅製品、板碑片などが出土。

45206 不動作遺跡 (335)

- ① 佐倉市鎚町不動作981—2

② 下総国印旛郡島矢郷

③ 印旛沼を見下す下総台地上にあり、古墳時代集落および近世墓地の複合遺跡。

④ 墓墳7基。

⑤ 墳内に人骨7体、他の地点より、陶器、鉄製品（鋏、火打具）、古銭が出土。

⑥ 鈴木尚調査。

45207 二番町遺跡 (仮称) (99)

- ① 佐倉市二番町
- ② 下総国印旛郡島矢郷
- ③ 地方事務所庁舎の地下1m。
- ④ 土牢様の10畳程の大穴あり。
- ⑤ 15体の人骨の他古銭（「寛永通宝」3）
- ⑥ 元治元（1864）年水戸天狗騒動の関係者か。

45301 竜腹寺境内遺跡 (239)

- ① 印旛郡木埜村竜腹寺
- ② 下総国印旛郡吉高郷
- ③ 印旛沼々頭付近に広がる低地帯西部に流入する小支流北岸の台地縁にある。
- ④ 竜腹寺境内の旧墓地。
- ⑤ 発掘した石造物は、板碑、五輪塔、宝篋印塔など総計893点にのぼる。このうち紀年銘の確認できたものは64基で、元応3（1319）～享祿4（1531）年を示す。

45401 平塚所在遺跡 (367)

- ① 印旛郡白井町平塚
- ② 下総国印旛郡三宅郷
- ③ 平賀沼を北方に望む丘陵の山林の土砂採取の際に発見。
- ④ 不詳。
- ⑤ 常滑壺 1 鎌倉末～南北朝。

45701 東台遺跡 (285)

- ① 印旛郡富里村日吉倉東台

- ② 下総国殖生郡山方郷
- ③ 根格川中流西岸の台地を分断する数条の支谷に南面する舌状台地上にあり、谷を隔てて北に松ノ木台遺跡と対峙する。古墳時代の集落および古墳群。
- ④ 土壌60基前後いずれも小ピットで、このうちに地下式土壌1基ある。2.7×1.8mの方形地下室と階段状の竪坑。
- ⑤ 底面上30cmの所に人骨粉（歯を含む）が出土。

45901 宮後所在遺跡 (107・299・366)

- ① 印旛郡印西町大字浦部字宮内宮後
- ② 下総国印旛郡三宅郷
- ③ 標高15mの丘陵上、畑耕作土中に出土。
- ④ 不詳。
- ⑤ 渥美の壺（土師の蓋あり）1。
- ⑥ 松村侑。

46801 大慈恩寺遺跡 (366)

- ① 香取郡大栄町吉岡。
- ② 下総国香取郡真敷郷
- ③ 大慈恩寺の西側丘陵の崖面を土取りのため削った際に大量の五輪塔と宝篋印塔と伴出。
- ④ 川原石や木炭などの出土はなかったという。
- ⑤ 常滑壺 1
古瀬戸瓶子 1

47201 木の内所在遺跡 (366)

- ① 香取郡小見川町木の内
- ② 下総国海上郡城上郷
- ③ 千葉六党の一人東氏の墓地とされる。台地端で崖面の工事中に発見された。
- ④ まわりに経石や墓石の破損したものがあったという。壺の中には骨が入っていた。

- ⑤ 常滑三筋壺 1
- ⑥ 小見川保存館。

47401 干潟桜井遺跡 (286・316)

- ① 香取郡干潟町桜井字釜山台
- ② 下総国海上郡神代郷
- ③ 下総台地東縁、九十九里平野に面する比高30～50mの海蝕崖をもつ台地上に位置し、東辺を大塚川が流れる。遺跡は約11,000㎡に及び、先土器～江戸時代の複合遺跡。
- ④ 径10mの円形周溝状遺構内に円列する土壌多数がある。神楽場と思われる。他に地下式横穴が4基、土壌墓10余墓がある。国分式土師器利用の蔵骨器2基併設。
- ⑤ 遺構内より土器（カワラケ）、木製品（刀子模造品、小柄の柄）等とくに墓壇内よりは人骨、古銭（「寛永通宝」「文久永宝」の他「開元通宝」「政和通宝」「熙寧元宝」「永楽通宝」等）が六道銭として埋置される。

47701 佐野原所在遺跡

- ① 銚子市三崎町佐野原
- ② 下総国海上郡三前郷
- ⑤ 灰釉長頸瓶 1（人骨あり）
灰釉椀 1
- ⑥ 銚子市教委。

47801 豊四季遺跡 (389)

- ① 柏市西町761-3
- ② 下総国相馬郡色陀郷
- ③ 手賀沼に流れこむ篠籠田谷に北面する台地端に位置する。古墳時代集落跡。
- ④ 土壌1基、2.7×1m程の長方形の土壌の南に小楕円形の土壌が接続する。両者の接続する部分は溝状となり、前者埋土内に焼土が堆積する。
- ⑤ 土壌内よりは出土せず、住居跡覆土内

に近世と思われる仏像土版出土。

47802 中馬場遺跡 (198)

- ① 柏市根戸中馬場～我孫子市法華坊
- ② 下総国相馬郡色陀郷
- ③ 手賀沼西端の北側に東西にのびる台地上に位置する。歴史時代の大集落跡。
- ④ 柱列跡、溝（方形ピット列）の他、地下式土壇2基、方または長方形の地下室に方形の竪壇が付帯する比較的大形のもので墓としている。
- ⑤ 地下式土壇中位より人骨片を検出。

47803 花前Ⅰ遺跡 (438)

- ① 柏市船戸字花前1224
- ② 下総国相馬郡色陀郷
- ③ 利根川南岸に位置し、北眼下に利根運河を望む台地土にある。
- ④ 土壇25基、溝4本等を主とする。土壇のうちには地下式土壇4、井戸跡1がある。

⑤ 陶器、磁器等出土。

47804 布施寺山遺跡 (438)

- ① 柏市布施寺山1590外
- ② 下総国相馬郡古溝郷
- ③ 利根川南岸の台地土、西向き台地縁辺にある。
- ④ 土壇5基。
- ⑤ 古銭（「寛永通宝」）他。

47901 鹿島前遺跡 (458)

- ① 我孫子市中峠字鹿島前210外
- ② 下総国相馬郡古溝郷
- ③ 手賀沼東端の北側台地中央に位置し、その北1kmには利根川が東流する。縄文・土師前期の大集落。
- ④ 溝状遺構数条と、地下式土壇5基を確認。その他にも400基以上の土壇が発見され、このうちには時期不詳のものが多い。
- ⑤ 中世期と思われるが、遺物は不明。

5 祭 祀

50501 ^{いでのう}出野尾経塚 (159)

- ① 館山市出野尾小網坂
- ② 安房国安房郡麻原郷
- ③ 汐入川に南から流れこむ小支流先端東側の小網寺裏山にある。
- ④ 現状では盛土も削平され、殆んど不明。
- ⑤ 大甕内に甕が、さらにその中に銅製経筒がある。

50502 三ツ塚群 (303)

- ① 館山市広瀬江田
- ② 安房国安房郡大井郷
- ③ 山名川東岸の舌状台地上に位置する。
- ④ 塚3基中1基を調査。17.5×16mの扁平円形丘に突出部を持つ、前方後円形の塚。
- ⑤ 陶器、丸釘等出土。

50503 大塚 (424)

- ① 館山市国分大塚455-2
- ② 安房国安房郡
- ③ 平久里川の東岸に南北にのびる自然丘上に位置する。
- ④ 塚1基、30×23.5m高さ3m。
- ⑤ かんざし、陶器、土師器の他「寛永通宝」出土。近世末期か。

51201 ^{おおうまや}大厩遺跡 (248)

- ① 市原市大厩
- ② 上総国市原郡菊麻郷
- ③ 村田川と支流の神崎川の合流点西側の台地上にあり、弥生時代集落跡を中心に、縄文～近世の複合遺跡。
- ④ 古墳(8号墳)転用の塚および土壇、溝状遺構より構成される(E-5号址)
- ⑤ 墳丘中よりカワラケ、五輪塔の一部、

溝内より陶器(下し皿)、その他に陶器、古銭(「寛永通宝」4)が出土。

51202 十三坊塚群 (55)

- ① 市原市郡本字大宮
- ② 上総国市原郡市原郷
- ③ 東京湾の東岸に隣接する郡本大宮台地上(市原中学校校庭内)にある。
- ④ 60間の長さにわたり、塚13基が、南北に整列している。各塚間は約1.8mの間隔がある。
- ⑤ 素焼壺および国分寺に関連する古瓦が出土。

51203 加茂古墳 (433)

- ① 市原市加茂
- ② 上総国市原郡市原郷
- ③ 海岸平地を開析した谷の一支谷に南面する台地上にある。
- ④ 古墳・塚各1基。1号塚は径9.0～8.8m、高さ1.25mの円錐形丘。
- ⑤ なし
- ⑥ 地境標識か。

51204 坊作遺跡B地点 (338)

- ① 市原市山田橋679-1-3
- ② 上総国市原郡海部郷
- ③ 養老川下流国分寺台を北から侵入する小支流の南岸台地上にある。
- ④ 塚1基。
- ⑤ なし

51205 持塚古墳群 (304)

- ① 市原市西広字東245 外
- ② 上総国市原郡海部郷
- ③ 養老川下流、折曲して北西流を始める

地点の北岸、市原台上にある。

- ④ 塚1基。1辺10mの方形丘。
- ⑤ 不明
- ⑥ 滝口宏調査。

51401 ^{しもべたやま} 下部多山供養塚 (243)

- ① 木更津市田川字部多谷915-1-1
- ② 上総国𤞮郡𤞮郡𤞮郷
- ③ 小櫃川上流の西側舌状台地縁辺に位置する。
- ④ 外径20余mの古墳に若干の盛土を加えた転用の供養塚で、現状では11m程の方形丘を呈す。
- ⑤ 墳丘中位に直立の陶器甕。甕内より、古銭(「寛永通宝」12) 水晶片3が出土。
- ⑥ 県立房総風土記の丘資料館保管。

51402 御所台遺跡 (304)

- ① 木更津市茅野字御所台1276-3
- ② 上総国𤞮郡𤞮郡美々郷
- ③ 小櫃川下流の木更津平地に開ける東岸台地上にある。縄文～奈良時代の集落跡。
- ④ 塚1基。
- ⑤ 人骨1体分、古銭が出土。
- ⑥ 野中徹調査。

51501 北子安塚 (215-1)

- ① 君津市北子安
- ② 上総国周准郡周東郷
- ③ 丘陵々麓に位置する。
- ④ 塚2基、ともに径10m前後の円形丘。
- ⑤ なし

52401 カネ塚 (148,210)

- ① 東金市家之子
- ② 九十九里平野に東面する台地上に散在する74基を容する家之子古墳群中にある。
- ④ 塚3基 (第71・77・78号遺構)

- ⑤ 墳丘下層より鏡箱を検出、この中に「松喰鶴文、鏡を発見。その近くよりは、古銭(「寛永通宝」118,他2)が一括して出土。

52601 湯坂古墳群 (210,302)

- ① 山武郡成東町字湯坂
- ② 上総国武射郡𤞮代郷
- ③ 成東川の侵入による舌状台地上に位置し、南眼下には上・下池を望む古墳群。
- ④ 塚3基を調査。7×6m高さ1.3mの円形丘と径5mの小丘、他に排土による塚状遺構。
- ⑤ なし

52801 高田権現遺跡 (456)

- ① 山武郡芝山町高田
- ② 上総国武射郡新井郷
- ③ 木戸川上流域、東岸の突出した台地上に位置する塚群を主とする遺跡。
- ④ 塚40基、台地東縁辺に南北に12基以上が並列、他は台地上に散在する。その範囲は南北100m、東西50mにもわたる。径3～6mの円形丘が一般的である。
- ⑤ 塚中より五輪塔片、土器、古銭(「元祐通宝」「寛永通宝」「文久永宝」外)が出土。

52901 木戸台遺跡 (376)

- ① 山武郡横芝町木戸台138-1
- ② 上総国武射郡狎猯郷
- ③ 栗田川と高谷川の合流点に、南より突出した台地上にあり、南眼下に小池を望む。
- ④ 塚1基の他、中世と思われる土壙6基を検出。
- ⑤ 陶器出土。
- ⑥ 平岡和夫調査。横芝町教育委員会保管。

54101 鷹の見遺跡 (409)

- ① 流山市思井赤松606
- ② 下総国葛飾郡茂侶郷
- ③ 市街中央より南下する舌状台地東側の縁辺に位置する。
- ④ 塚2基、尾根状の高まり部分に並列。径7m、高さ0.8mの1号塚、径6m、高さ0.4mの2号塚。
- ⑤ 盛土中に陶磁器(幕末～明治)出土。
- ⑥ 筑波信仰に関する男・女塚と関連ありか。

54701 東光院裏山遺跡 (366)

- ① 千葉市平山町谷津
- ② 下総国千葉郡千葉郷
- ③ 谷地を望む台地上。
- ④ 地下9尺位より出土。壺の中に朱が入っていた。
- ⑤ 平安末常滑壺。骨壺というよりは経筒埋納のための容器と考えられる。

⑥ 東光院蔵。

54702 仁戸名古墳群 (197)

- ① 千葉市仁戸名町720-1
- ② 下総国千葉郡千葉郷
- ③ 生実池に注ぐ西流する小支流の先端は分岐し、舌状台地の南北下を流れる。遺跡はこの台地上にあり、中央を分断するように小支谷が入り込む。古墳～奈良時代の古墳群と集落跡。
- ④ 約100m離れて塚2基。1辺7.5m、高さ1.5mと、1辺11m、高さ2.5mの二段築成の方形丘。
- ⑤ なし

54703 七天王塚 (173)

- ① 千葉市亥鼻千葉大学医学部内

- ② 下総国千葉郡池田郷
- ③ 都川下流南岸の亥鼻城のある台地縁辺に散在する。
- ④ 塚8基、未調査のまま。
- ⑤ 不明
- ⑥ いくつかに石碑建立さる。

54704 多部田塚群 (307-a)

- ① 千葉市多部田町内野～聖人塚
- ② 下総国千葉郡糟苅郷
- ③ 都川中流域、多部田台地に嵌入する2本の小支谷による3つの舌状台地のうち、中央および西丘に散在する塚群。
- ④ 塚8基の測量調査。1辺10m、高さ2m以上の方形丘の2基はともに周溝状の凹部がみられる。他は径8～10mの円形丘または径2mのものである。
- ⑤ 不明

54705 車坂三山塚 (217)

- ① 千葉市貝塚町1521-1外
- ② 下総国千葉郡三枝郷
- ③ 千葉市の沖積平野を西に望む舌状台地の最南端の台地上に位置し、北眼下に都川に注ぐ小支流を見る。古墳～歴史時代の集落跡を主とする。
- ④ 塚1基。1辺11mの正方形で、高さ3.5mを計る。整然とした3段築成。
- ⑤ 盛土内より古銭(「寛永通宝」5)を出土。
- ⑥ 三山碑10基が建立されている。記年銘に寛延3(1750)～昭和40(1965)年がある。

54706 東寺山戸張作遺跡 (340)

- ① 千葉市東寺山町464 外
- ② 下総国千葉郡三枝郷
- ③ 葭川下流域の南西方に延びる3本の舌

状台地の一に位置する。古墳時代集落・古墳群を主とする遺跡。

④ 塚8基中7基を調査。東西に2丘ずつ並列している。径6m高さ1.25mを最大とし、径3m高0.7mまであり、ほぼ円形を呈す。

⑤ 塚盛土上・内より土器、陶器、古銭（「寛永通宝」1）、他より古銭（「嘉祐通宝」「大平通宝」各1）が出土。

54707 東寺山遺跡O・P地点（174）

① 千葉市東寺山町～源町

② 下総国千葉郡三枝郷

③ 市内を南下する葭川の上流東岸に、入り込む小支谷に西面する台地上にある。

④ 塚2基、1辺10m高さ2m程の方形丘と小円形丘。

⑤ 当該期遺物なし。

55001 村上第1塚群（251-a）

① 八千代市村上字黒沢台

② 下総国印旛郡村神郷

③ 新川東岸の辺田前田地縁辺に位置し、南直下には黒沢地がある。調査区外の7基を含め約100×100mに群在する塚群。

④ 塚9基を調査。台地縁辺に南北に並んで6基が、台地中央付近に3基が集中する。7m強の長方形丘2基の他は、径4～6mの小円形丘である。

⑤ 当該期遺物なし。

⑥ 房総風土記の丘資料館保管。

55002 村上第2塚群（251-b）

① 八千代市村上字込の内～黒沢台

② 下総国印旛郡村神郷

③ 台地の西端を新川が北流し、数条の支谷が東岸に嵌入するが、この小支谷に北面

する台地上にある。調査区外を含め8基の塚が群在する。

④ 塚4基を調査、10.3×11.3m、高さ2.2mの大方形丘を中心に、6.9×5.6m高さ1.5mの1号塚、径4m前後の小円形丘が群在する。1号塚の墳丘下、旧地表上に径30m程の浅い凹みがある。

⑤ 1号塚の凹み内より、カワラケ10、珠子玉6、古銭（「寛永通宝」220「宣和通宝」「洪武通宝」各1）、やや離れて古銭（「寛永通宝」6）が出土された。他に1号塚裾より古銭（「永楽通宝」国産1）が出土。

⑥ 房総風土記の丘資料館保管。

55003 村上供養塚（271）

① 八千代市村上字黒沢台

② 下総国印旛郡村神郷

③ 新川東側の台地上、黒沢地に注ぐ谷を見下す台地端にあり、村上第2塚群と一群をなす。

④ 塚1基。一辺約16m高さ3mの整然とした方形丘であるが、東側はかなり破壊が進んでいる。墳丘直下に旧地表面を削った、主体部（土壌）がある。

⑤ 主体部内より陶器（常滑壺2）カワラケ10が出土。古銭総数293枚のうち2つの壺内（「寛永通宝」245、北宋銭5、国産明銭3）と他盛土（「寛永通宝」40）より出土。

55004 村上古墳群（211,434）

① 八千代市村上2600-1外

② 下総国印旛郡村神郷

③ 印旛沼に注ぐ新川東岸、黒沢地北側の台地上の小古墳群中にあり、隣接して村上第1塚群がある。

④ 塚1基、1辺17m、高さ4.5mの三段

築成方形丘。

⑤ 古銭（「寛永通宝」）出土。

55101 坊前遺跡（94）

① 成田市土室坊前

② 下総国香取郡磯部郷

③ 尾羽根川上流域の南岸台地は南下する数条の支谷により舌状台地を形成し、そのほぼ中央台地端に位置する。

④ 不明

⑤ 円筒形金銅製の経筒で、「天文17年」記銘がある。

⑥ 出土地付近に、入定塚、六部塚等があるという。

55102 東和田^{とうわだ}2号墳（179-9）

① 成田市東和田

② 下総国殖生郡山方郷

③ 根木名川が寺台で分岐する、北岸川栗台地上に位置する。

④ 現状では長方形で呈す。長辺11.5m高さ1m。

⑤ なし

55103 川栗台古墳群（435）

① 成田市東和田字台上34

② 下総国殖生郡山方郷

③ 西の根木名川、東の取香川に挟まれた舌状台地の中央縁辺に位置する。6基の古墳群。

④ 塚1基、9.8×8.6m、高さ4mの方形丘、盛土構築は5段に分かれる。

⑤ 現表土および旧表土下より古銭（「開元通宝」「元豊通宝」「至道元宝」「天聖元宝」「嘉祐通宝」「元祐通宝」「永樂通宝」等15）出土。

55104 獅子台遺跡（376）

① 成田市北羽鳥字獅子台2005

② 下総国殖生郡酢取郷

③ 龍角寺に連なる台地、羽鳥台北端の標高30mの台地上にある。

④ 塚1基、15.3×15.0m、高さ1.3mの不整形の塚。

⑤ 盛土内より古銭（「文久永宝」）、陶器出土。

⑥ 成田市教育委員会保管。

55105 林西^{はやしにし}遺跡

① 成田市土室字坊前770

② 下総国香取郡磯部郷

③ 根木名川の支流、尾羽根川と荒海川によって形成された舌状台地（荒海台）上にある。塚の他、縄文土器の包含地。

④ 径20m、高さ50cmの円形の塚および近世以降の炭焼窯跡。

⑤ 塚表土中より古銭（「開元通宝」1）

55201 石神塚（333）

① 佐倉市臼井台字石神1379-2

② 印旛沼南岸、手操川と鹿島川にはさまれた標高20mの舌状台地上にある臼井南遺跡の一地点。先土器～近世の複合遺跡。

④ 塚1基。1辺15m高さ2.5m程の方形丘で、至る所に破壊が認められる。墳頂は広範な平坦面が形成され、所謂台状となる。

⑤ なし

55202 岩名遺跡（335）

① 佐倉市岩名姿山

② 下総国印旛郡印旛郷

③ 印旛沼南岸舌状台地上にあり、縄文～近世の複合遺跡。

④ 中世柱列・井戸跡等、近世塚。

⑤ 不明

⑥ 樋口清之調査。

55203 上代新山^{じょうだい} (438)

① 佐倉市上代字新山70-1外

② 下総国印旛郡島矢郷

③ 西に流れる高崎川と北上する小支流が合流する地点を西に望む、本佐倉台地の南縁に位置する。

④ 塚2基。

⑤ なし

⑥ 森重彰文調査。

55204 大篠塚上代遺跡B地点 (438)

① 佐倉市大篠塚字上代1278外

② 下総国印旛郡余戸郷

③ 高崎川中流の北岸、本佐倉台地上にある。

④ 庚申塚、土塁、溝等を検出。

⑤ 不明

⑥ 田川良調査、佐倉市教育委員会保管。

55205 寒風遺跡 (179-e)

① 佐倉市寒風字上ノ台

② 下総国印旛郡長隅郷

③ 高崎川が高岡で分岐する地点、西東に伸びる台地の奥部に位置する。

④ 6.3×7.0m、高さ1mの方形に近い丘。盛土中に多量の焼土を含む。

⑤ なし

55206 人形塚古墳 (179-c)

① 佐倉市大篠塚字上代外

② 下総国千葉郡物部郷

③ 前記大篠塚塚群と同地点にある。

④ 11×11mの方形丘。現高1.3mを計る。巾1.5~2.2mの周溝がめぐり、盛土下等に溝、土壌がある。

⑤ 当該期遺物なし。

55207 大篠塚古墳群 (179-b)

① 佐倉市大篠塚字上代、小篠塚字八幡原

② 下総国千葉郡物部郷

③ 鹿島川と高崎川が形成する樹枝状の台地上に散在する塚群。

④ 8基中7基が塚の可能性ある。古塚である2号墳を最大とし、東西に6基並列する。方形丘が一般的で、17m級2基の他は10m級である。盛土最下層中に焼土を多量に含む特徴がある。

⑤ 当該期遺物なし。

55301 大門遺跡 (253-c)

① 印旛郡本埜村滝大門570

② 下総国印旛郡言美郷

③ 東は印旛沼より侵入する物木支谷、西は手賀沼より侵入する大森支谷に挟まれた、南北に長い台地上にある。

④ 塚6基、大形の第3号塚を中心に方形丘5基が群在。小支谷により隔たった西丘端に他の1基がある。第3号塚は、辺17×15.3m高さ2.6mで、外周を小さな溝がめぐり、溝は南および北の一部で切れ、土橋の如くなっている。他は、大既辺7~10m、高さ1.5m程である。

⑤ 第3・6号塚封土中より古銭（「皇宋通宝」1、「寛永通宝」1）

55302 関所塚群 (312-f)

① 印旛郡本埜村角田関所401 外

② 下総国印旛郡吉高郷

③ 印旛沼の西部調整池から北上する大廻支谷と同北部調整池から侵入する小支谷の先端台地上にある。

④ 塚3基、うち2基は隣接し、その南西

200mに1基ある。1号塚は径10m高さ2.11mの円形、3号塚は1辺13m、高さ2.4mの方形丘である。

⑤ 当該期遺物なし。

55401 白井第2塚群 (284-a)

- ① 印旛郡白井町堀込576 外
- ② 下総国印旛郡三宝郷
- ③ 白井川と神崎川に挟まれた南北に長い洪積台地の中央部分、白井川下流左岸の富ヶ谷の台上に散在する。
- ④ 塚16基。台地中央を東西600mにわたり15基が、その南に300mに1基があり、塚群の中央には6基が密集する。1辺8m以上5基、7m前後2基、6m前後7基等全体に小形で、旧表土基盤の遺存状況をみると、13基が方形を呈す。
- ⑤ なし

55402 清戸遺跡 (312-a)

- ① 印旛郡白井町清戸堀込370
- ② 下総国印旛郡三宅郷
- ③ 神崎川により形成された沖積低地を眼下に望む北側、清戸台地上にあり、2地点に分かれる。縄文～弥生の包含地。
- ④ 第2地点に、1辺12m程の塚跡あり、これを取りまくように野馬堀の一部を検出。
- ⑤ 第1地点磁器(伊万里)・古銭(「寛永通宝」1)、第2地点古銭(「治平元宝」「元祐通宝」「寛永通宝」各1)

55701 日吉倉古墳 (179-f)

- ① 印旛郡富里村日吉倉
- ② 下総国殖生郡山方郷
- ③ 根木名川中流域西岸台地上に位置する。古墳時代の遺跡。
- ④ 破壊顕しく形状不明の墳丘。墳頂に盗

堀壕があり。

⑤ なし

55702 松ノ木台遺跡 (285)

- ① 印旛郡富里村日吉倉松木台
- ② 下総国殖生郡山方郷
- ③ 根木名川中流西岸の台地、数条の支谷により独立丘化している松ノ木台上にある。
- ④ 塚1基、1辺11.0m、高さ3mの方形丘で墳頂は平坦である。破壊が著しい。
- ⑤ なし

55801 萩原出戸遺跡 (253-d)

- ① 印旛郡印旛村萩原2068
- ② 下総国印旛郡言美郷
- ③ 印旛沼の折屈する部分の台地上にあり、舟戸より南下する小川の最奥池を南に望む舌状台地上に位置する。
- ④ 塚7基。台地尾根線上に南西―北東200mの間に直線的に並ぶ。北東の2塚は1辺10m強、他は6m弱である。
- ⑤ 4号塚より槍先(全長23.4cm、身長15.0cm断面三角形を呈す)、古銭(「寛永通宝」5「文久永宝」1)が、他より陶器片、(常滑)が出土。

55802 庚申塚 (253-e)

- ① 印旛郡印旛村松虫字丑むぐり
- ② 下総国印旛郡吉高郷
- ③ 印旛沼北岸、萩原出戸塚群の南、台地端にある。
- ④ 崩れた方形の塚で、6.1×5.5m、高さ1.25m程の小丘である。
- ⑤ 表土中より磁器、古銭(「寛永通宝」2)が出土。
- ⑥ 塚頂には江戸中期記年銘の三山碑等がある。

55803 梵天塚遺跡 (253-e)

- ① 印旛郡印旛村松戸字中峠2083
- ② 下総国印旛郡吉高郷
- ③ 印旛沼北岸、萩原出戸塚群の南の台地端にある。
- ④ 1辺13m程の方形丘に角状の「張り出し」を有する塚で、これをめぐり約70×45mの長方形に土壘が認められる。土壘は巾2.5m、高さ50～70cmで、さらにこの外縁にピット列がめぐる。
- ⑤ なし

55804 吉高家老地遺跡 (313)

- ① 印旛郡印旛村吉高家老地653-1外
- ② 下総国印旛郡吉高郷
- ③ 印旛沼に注ぐ長門川の河口から北西1.5kmの南岸台地端にある。縄文～中世の複合遺跡。
- ④ 塚1基。5.8×6.1m、高さ0.8mの不整形方形丘で、土壘状の深い溝が各辺に検出された。また墳頂下旧地表面不整形の土壘がある。
- ⑤ 陶磁器片若干出土。近世。

55805 吉高山山王遺跡 (371)

- ① 印旛郡印旛村吉高山山王1479
- ② 下総国印旛郡吉高郷
- ③ 印旛沼西岸の標高30m程の舌状台地上にあり、古墳及び歴史時代の集落遺跡。
- ④ 古墳々丘上に「元文2年」記銘の祠あり、転用の供養塚。
- ⑤ 表土内より陶器(灯明皿)、古銭(「寛永通宝」4)。

55901 大塚塚群 (284-c)

- ① 印旛郡印西町小倉大塚
- ② 下総国印旛郡三宅郷

③ 手賀沼南々東約2.7km、標高26mの洪積台地上で、東西南北より小支谷が侵入し、舌状台地様となった中央部にある。

④ 塚5基、方形の1号塚より40m南に東西に走る野馬堀土壘があり、この一端に4基が並列する。1号塚は25.8×26.4m、高さ5.1mの整然とした方形丘で、盛土構築にあたり「モッコ」使用の痕跡が顕著である。また塚縁周には盛土供給跡と思われる多くの凹みが認められた。他は、3・5号塚で7.4×7.0m、2号塚で6.5m、4号塚で5.5mを計る小円形丘である。

⑤ 1号塚の中央旧表土面より陶器壺が出土。壺内よりカワラケ8、古銭(「祥符元宝」1「天聖元宝」2「熙寧元宝」2「元豊通宝」4「淳熙元宝」1「洪武通宝」1「永樂通宝」2「祥符国宝」1不明5)が検出され、他に盛土より古銭(「寛永通宝」2)、2号塚盛土より古銭(「元祐通宝」1「寛永通宝」1)も出土。

55902 並塚塚群 (284-d)

- ① 印旛郡印西町和泉字並塚1352
- ② 下総国印旛郡三宅郷
- ③ 手賀沼に流れる和泉支谷を北に、神崎川よりの小支谷を南に見下す台地上にある。
- ④ 塚15基。大形8号塚を中央に南東—北西にかけて一直線に、140mにわたって整然と並ぶ。8号塚のみ方形で、10.6×10.2m高さ2.0m、他は円形で径8.8～5mまであり、多くは6.5m、高さ0.6～0.8mである。塚の間隔は約4.5mと一定ある。
- ⑤ 当該期の遺物は殆んどなく、わずか8号塚、旧表土下より陶器片。

55903 大野庚申塚 (284-e)

- ① 印旛郡印西町戸神大野618 外
- ② 下総国印旛郡船穂郷
- ③ 神崎川北岸の小支谷一戸神支谷一を眼下に見下す台地縁辺にある。
- ④ 6.3×5.1m、高さ80cmの小円塚。
- ⑤ 盛土最下部より、カワラケ、古銭（「寛永通宝」2）が出土。他に灯明皿2を表採。
- ⑥ 丘頂には庚申塔（天保11年銘）あり。

55904 鳥見神社塚群 (312-b)

- ① 印旛郡印西町宗浦東割114- 1外
- ② 下総国印旛郡言美郷
- ③ 草深原に源を発する別所支谷の先端が分岐する地点の左岸、標高25mの台地縁辺にある。
- ④ 塚4基。崩れた方形丘で、辺9m、高さ2.3mの1号塚から、辺3m弱の3号塚までである。
- ⑤ 3号塚の丘上には47×33cmの方形の凝灰岩製花台、その他墳丘表土中等より、古銭（「寛永通宝」3、「文久永宝」3）が出土。

55905 船尾中峠遺跡 (312-e)

- ① 印旛郡印西町船尾白幡317
- ② 下総国印旛郡船穂郷
- ③ 神崎川と新川の合流点に形成された低地帯を眼下にみる船尾台の南端にある。
- ④ 塚1基。1辺12m程の方形丘で、高さ2m以上である。一部は道により切断されていた。
- ⑤ 墳丘下層中より緑泥片岩質の板碑片出土。

55906 結縁寺塚群 (312-c)

- ① 印旛郡印西町船尾結縁寺885

② 下総国印旛郡船穂郷

- ③ 神崎川左岸台地上、船尾中郷より北に侵入する支谷の先端台地上にある。
- ④ 塚6基。第1地点には大塚2基と東西に並列する小丘3基があり、他は約500m東に1基がある。1号塚基盤で6.6×5.6m高さは1m強の方形、2号塚は8.6×7.8m高さ0.6mの円形丘で、他は径3m以下の小円丘である。
- ⑤ 1・6号塚盛土中より古銭（「寛永通宝」3、鉄製1を含む）が出土。
- ⑥ 1・2・6号塚頂には庚申・供養塔が建てられている。いずれも江戸後期の記年銘がある。

56601 多古台遺跡No.4地点 (314)

- ① 香取郡多古町多古台
- ② 下総国匝瑳郡原郷
- ③ 栗山川と多古橋川の合流点を南に見下す多古台地上、小田辺にある。
- ④ 塚1基。現状で1辺15m高さ2mの不整形方形丘。古墳転用の塚か。
- ⑤ なし

56801 桜田遺跡 (仮称) (242)

- ① 香取郡大栄町桜田
- ② 下総国香取郡矢作郷
- ④ 経石約2,000個が畑地内に散在。
- ⑤ 経石は鎌倉時代の浄土宗阿弥陀経が墨で書き込まれている。
- ⑥ 町立桜田小学校に一部保管。

57001 名古屋経塚群 (410)

- ① 香取郡下総町名古屋小堤
- ② 下総国香取郡須賀郷
- ③ 利根川に注ぐ尾羽根川北岸台地は、数条の支谷により舌状台地を形成する。その

西端高倉台上にある。

辺約10.5m 高さ1.5m 前後である。

④ 塚3基。東西に接続して3基が並列。
中央丘で7.2×7.3m 高さ1.4m 両側丘で、一

⑤ 当該期遺物なし。

6 その他

60501 江田遺跡 (303)

- ① 館山市江田
- ② 安房国安房郡大井郷
- ③ 山名川東岸の現水田地にある。
- ④ 排水路を発掘、水路は溝と畦畔の集合体である。
- ⑤ 土師(国分後期)木製品。古銭(「元豊通宝」)等を出土。

61201 宮の前遺跡 (115)

- ① 市原市郡本字宮の前
- ② 上総国市原郡市原郷
- ③ 郡本八幡社のある郡本台地の崖端に位置する。長さ20mのトレンチによる調査。
- ④ 土壇の一部を検出。土壇基部の溝内に貝の薄層がある。
- ⑤ 土器片(土師、須恵器)陶器(常滑・古瀬戸)磁器(高麗青磁)ガラス瓶、鉄片等が出土。平安末～鎌倉時代と思われる。

61301 川原井遺跡 (376)

- ① 君津郡袖ヶ浦町川原井
- ② 上総国畔蒜郡甘木郷
- ③ 小櫃川の支谷により形成された舌状台地上にある。
- ④ 堀跡1カ所。
- ⑤ 遺物なし
- ⑥ 齊藤武一、江尻和正調査。

61401 菅生第2遺跡 (411)

- ① 木更津市菅生
- ② 上総国望陀郡鹿津郷
- ③ 小櫃川下流域で、川が大きく北へ湾曲する地点南岸の沖積地上に位置し、川の氾濫による各時代の遺物包含遺跡。

④ なし

- ⑤ 陶器(鎌倉～明治時代)、磁器(高麗青磁・伊万里)土器(内耳・火消壺)古銭(「寛永通宝」)煙管、木器(漆椀・曲物等)五輪塔、瓦等が出土。

64001 東新田遺跡 (373)

- ① 野田市山崎東新田2380
- ② 下総国葛飾郡度毛郷
- ③ 利根川から北西に伸びる三ヶ尾支谷と江戸川にはさまれた比較的平坦な台地中央にある。
- ④ 野馬堀跡。断面の試掘のみ。
- ⑤ なし

64201 下矢切遺跡 (149,150)

- ① 松戸市下矢切大堀
- ② 下総国葛飾郡葛飾郷
- ③ 江戸川下流の東岸台地上に位置し、西眼下に陀行によって形成された小低地帯をみる。
- ④ 「穴倉」と称する地下式土倉1基。地表より小堅坑を通じ、約2mの地下に、1×1mの方形の土壇がある。内の高さ50cmである。
- ⑤ 退蔵金リング箱8個分が出土。「開元通宝」～「永楽通宝」まで各種中国銭があるが、皇朝銭、江戸銭は含まれないようである。

64301 里見公園内遺跡 (376)

- ① 市川市国府台3-9
- ② 下総国葛飾郡葛飾郷
- ③ 江戸川に面する台地上。
- ④ 遺構確認の調査。
- ⑤ 陶器(室町期)。

64601 初富向台馬込 (小金中野牧の込跡)
(295)

- ① 鎌ヶ谷市初富小字向山
- ② 下総国葛飾郡大結郷
- ③ 南端は水田に面し、北及び西に広がる台地縁に位置する。
- ④ 測量調査により、野馬土手に囲まれた三つの囲いを確認。
- ⑤ なし

64701 中野僧御堂遺跡 (334)

- ① 千葉市中野町1224外
- ② 下総国千葉郡糟苺郷
- ③ 印旛沼に注ぐ鹿島川上流の西岸台地縁に位置する。縄文時代遺跡。
- ④ 「特殊遺構」2基、100×80cmの三角形土壌が相接して検出され、底面には白色粘土を敷きつめていた。
- ⑤ 一方の土壌底面に壺が埋置。瓦質土器(火消壺)鉄板出土。土器の一片に「石出」刻書。

64702 椎名崎遺跡 (416)

- ① 千葉市椎名崎町西ノ原
- ② 下総国千葉郡千葉郷
- ③ 村田川下流域北岸のイズミ谷津谷頭を基部とする東西にのびる舌状台地先端に位置する。古墳群と歴史時代の大集落。
- ④ なし
- ⑤ 表採品として、古瀬戸、土器(内耳)煙管、古銭(「熙寧元宝」「洪武通宝」)がある。

64703 上ノ台遺跡 (235)

- ① 千葉市幕張町2丁目
- ② 下総国千葉郡茜津郷
- ③ 検見川低地西端、東京湾に南面する台

地上にある。縄文～古墳時代の大集落。

- ④ 近世と思われる土壌、濠跡を検出。
- ⑤ 不明

65101 法華塚遺跡 (191)

- ① 成田市小菅字法ヶ塚
- ② 下総国殖生郡山方郷
- ③ 西流する尾羽根川に南より侵入する小支流の奥端、分岐点の北台地端に位置し、先土器～近代にわたる複合遺跡。
- ④ 長さ120m以上にわたる野馬堀跡と、それに付帯する土堤状遺構。
- ⑤ なし
- ⑥ 江戸～明治の「駒狩り」に関する遺構か。

65201 井野遺跡

- ① 佐倉市井野字南作
- ② 下総国印旛郡鳥取郷
- ③ 印旛沼に注ぐ井野川が、西ノ作で5～6の支谷に分岐する。その中央辺に東西に伸びる舌状台地上に位置する。
- ④ 遺構はとくになし。
- ⑤ 陶器(美濃・瀬戸)磁器(染付け)が出土。江戸後～明治。

65301 向原遺跡 (253-b)

- ① 印旛郡本埜村竜腹寺字向原249
- ② 下総国印旛郡吉高郷
- ③ 印旛沼に西より流入する諸谷津の源草深原台地の東端にある。
- ④ 方形土壌列が少くとも100m以上にわたり、100本以上が2列に続く。土壌は2×1.5m程が主で、深さ2mを越すものも多い。性格時期等は不明。
- ⑤ 表土より古銭(「寛永通宝」「文久永宝」)が出土。特に前者には寛保年間鑄造の足字

銭（下野足尾産）元字銭（大阪高津新地産）

がある。

66901 舟塚原古墳（246-f）

- ① 香取郡神崎町新字舟塚原
- ② 下総国香取郡子松郷
- ③ 下総丘陵東北部で、北に利根川を望む
標高20～40mの丘上。
- ④ 古墳後円部分に盗掘壙がある。
- ⑤ 壙内より五輪塔の破片。

66801 城山遺跡（438）

- ① 香取郡大栄町十余三字城山388-17
- ② 下総国殖生郡山方郷
- ③ 大須賀川の開析した洪積台地に位置す
る。
- ④ 馬土手。
- ⑤ なし

Ⅲ 遺物目録

1 土 器

[墨書土器]

南大広 (11202)、山田水呑 (12401)、須和田 (14301)、仁戸名 (14701)、
木戸作 (14704)、芳賀輪 (14706)、ムコアラク (14709)、駒形 (14712)、
村上込の内 (15001)、東和田 (15101)、野毛平同免 (15104)、大篠塚 (15201)、
鹿島台 (15202)、神明社 (15204)、石神Ⅰ (15206)、石神Ⅱ (15207)、渡戸 (15208)、
江原台 (15209)、古屋敷 (15211)、広 (15213)、飯合作 (15214)、西の台 (15217)、
寺沢 (15702)、新橋 (15703)、高根北 (15804)、北の台 (15903)、船尾城 (15907)、
大寺 (16101)、大寺出羽 (16102)、萱付道 (16402)、妙名 (16403)、阿広台 (16702)、
干潟桜井 (17401)、中馬場 (17801)、南台 (17803)、上総国分尼寺 (21202)、
萩の原廃寺 (21212)、下総国分僧寺 (24301)、下総国分尼寺 (24302)、坂花 (44202)。

[中近世土器(カワラケ)]

久留里城 (31501)、大野城 (33301)、大多喜城 (33401)、小金城 (34201)、
武石城 (34702)、松子城 (36801)、助崎城 (37001)、平良文館 (37201)、
中峠城 (37901)、南総中学 (41214)、松原 (44706)、西屋敷 (44708)、石神Ⅰ (45201)、
干潟桜井 (47401)、大厩 (51201)、村上第2塚 (55002)、村上供養塚 (55003)、
大塚塚 (55901)、大野庚申塚 (55903)。

[中近世土器(内耳・土鍋他)]

小金城 (34201)、栗山池の尻 (34905)、船尾城 (35902)、平良文館 (37201)、
台A地点 (41212)、南総中学 (41214)、松部 (43801)、幸田貝塚 (44204)、
西屋敷 (44708)、間野台 (45202)、古屋敷 (45203)、高田権現 (52801)、
高寺山戸張作 (54706)、菅生第2 (61401)、僧御堂 (64701)、椎名崎 (64702)。

2 陶 磁 器

[陶器]

新山 (14708)、松の木台 (15701)、吉高家老地 (15801)、上総国分尼寺 (21202)、
下総国分僧寺 (24301)、下総国分尼寺 (24302)、館山城 (30501)、久留里城 (31501)、
高砂城 (33001)、大野城 (33301)、大多喜城 (33401)、松部城 (33801)、
加村屋敷 (34101)、小金城 (34201)、城の腰 (34701)、栗山・流の尻 (34905)、

佐倉城 (35201)、吉高家老地 (35801)、内山城 (36101)、松子城 (36801)、
平良文館 (37201)、中峠城 (37901)、根戸城 (37902)、旭森経塚 (41101)、大坪 (41201)、
南中野台 (41202)、矢田 (41203)、台 (41204) 荒久 (41210)、台A地点 (41212)、
南総中学 (41214)、川原井 (41302)、相星 (41401)、高蔵寺裏山 (41403)、
国府関 (41701)、川崎 (42601)、金光寺廃寺 (42801)、法興寺裏山 (43501)、
松部 (43801)、吉春 (44001)、春日神社前 (44201)、幸田貝塚 (44204)、国分 (44301)、
万福寺裏山 (44601)、中沢 (44602)、亥鼻城 (44701)、千葉家累代の墓 (44704)、
寺台 (44705)、築地台貝塚 (44707)、西屋敷 (44708)、間野台 (45202)、古屋敷 (45203)、
江原台 (45205)、不動作 (45206)、平塚 (45401)、宮後 (45901)、大慈恩寺 (46801)、
木の内 (47201)、佐野原 (47701)、花前I (47803)、山野尾経塚 (50501)、
三ツ塚群 (50502)、大厩 (51201)、十三坊塚 (51202)、下部多山供養塚 (51401)、
木戸台 (52901)、鷹の見 (54101)、東光院裏 (54701)、東寺山戸張作 (54706)、
村上供養塚 (55003)、萩獅子台 (55104)、萩原出戸 (55802)、吉高家老地 (55804)、
吉高山王 (55805)、大塚塚群 (55901)、並塚塚群 (55903)、大野庚申塚 (55903)、
菅生第2 (61401)、井野 (65201)。

[磁器]

館山城 (30501)、久留里城 (31501)、大野城 (33301)、大多喜城 (33401)、
小金城 (34201)、城の腰 (34701)、栗山・池の尻 (34905)、佐倉城 (35201)、
吉高家老地 (35801)、根戸城 (37902)、荒久 (41210)、台A地点 (41212)、
南総中学 (41214)、法興寺裏山 (43501)、松部 (43801)、西屋敷 (44708)、
花前I (47803)、鷹の見 (54101)、清戸第1地点 (55402)、庚申塚 (55802)、
吉高家老地 (55804)、菅生第2 (61401)、井野 (65201)。

3 瓦

[古瓦] ・ [文字瓦]

増間廃寺 (20101)、安房国分寺 (20501)、上総国分僧寺 (21201)、上総国分尼寺 (21202)、
光善寺廃寺 (21203)、菊間廃寺 (21204)、川焼台廃寺 (21205)、武士廃寺 (21206)、
千草山廃寺 (21207)、二日市場廃寺 (21208)、久保雷廃寺 (21209)、
月崎永昌寺廃寺 (21210)、今富廃寺 (21211)、萩の原廃寺 (21212)、川原井廃寺 (21301)、
上総大寺廃寺 (21401)、真里谷廃寺 (21402)、九十九坊廃寺 (21501)、笠森寺 (21901)、
湯坂廃寺 (22601)、真行寺廃寺 (22602)、山田廃寺 (22801)、小金台廃寺 (22802)、
小川廃寺 (23001)、埴谷横宿廃寺 (23101)、岩熊廃寺 (23501)、流山廃寺 (24101)、

下総国分僧寺 (24301)、下総国分尼寺 (24302)、千葉寺 (24701)、大椎廃寺 (24702)、
小食土廃寺 (24703)、谷津台 (24704)、長熊廃寺 (25201)、大木別所廃寺 (25901)、
大塚前廃寺 (25902)、八日市場大寺廃寺 (26201)、御堂跡廃寺 (26202)、
竜正院寺 (27001)、名木廃寺 (27002)、竜角寺 (27101)、木内廃寺 (27201)、
船戸 (27901)、手賀廃寺 (28001)、築地台貝塚 (44707)、十三坊塚 (51202)。

[瓦]

菊間 (11203)、坊作 (11205)、須和田 (14301)、国分校地 (14302)、大塚前 (15901)、
大木別所廃寺 (15906)、高野台 (17804)、館山城 (30501)、成東城 (32601)、
加村屋敷 (34101)、佐倉城 (35201)、南総中学 (41214)、道庭 (41214)、松部 (43801)、
菅生第2 (61401)。

[瓦塔]

萩の原廃寺 (21212)、山田廃寺 (22801)、下総国分尼寺 (24302)、千葉寺 (24701)、
長熊廃寺 (25201)、木下別所廃寺 (25901)、大塚前廃寺 (25902)、竜角寺 (27101)。

4 土 製 品

[支脚]

山田水呑 (12401)、芳賀輪 (14706)、ムコアラク (14709)、駒形 (14712)、村上 (15001)、
高津 (15002)、寺沢 (15702)、仏師台 (16701)。

[土玉] 小玉も含む

駒形 (14712)、村上 (15001)、古屋敷 (15211)、吉高山王 (15802)、仏師台 (16701)。

[土錘]

仏師台 (16701)、松部 (43801)。

[紡錘車]

山田水呑 (12401)、駒形 (14712)、千代田 (14901)、村上 (15001)、裏坪 (16401)、
妙名 (16403)、中馬場 (17801)。

[面子]

松部 (43801)、西屋敷 (44708)、武石 (44709)。

〔人形・土馬等〕

北の台 (15903)、鴻の巣 (17802)

〔その他〕

山田水呑 (12401)、桐ヶ谷新田 (14103)、村上 (15001)、間野台 (45203)、
豊四季 (47801)。

5 石 製 品

〔支脚〕

阿広台 (16702)、千潟桜井 (17401)。

〔紡錘車〕

山田水呑 (12401)、湯坂 (12601)、ムコアラク (14709)、駒形 (14712)、千代田 (14901)、
鹿島台 (15201)、古屋敷 (15211)、阿広台 (16702)、中馬場 (17801)。

〔砥石〕

山田水呑 (12401)、木戸作 (14704)、ムコアラク (14709)、西屋敷 (14711)、
駒形 (14712)、古屋敷 (15211)、阿広台 (16702)、鴻の巣 (17802)、久留里城 (31501)、
大多喜城 (33401)、小金城 (34201)、栗山・池の尻 (34905)、内山城 (36101)、
南総中学 (41214)、松部 (43801)、幸田 (44204)、西屋敷 (44708)。

〔板碑〕

成東城 (32601)、小金城 (34201)、佐津間城 (34601)、木出砦 (34903)、佐倉城 (35201)、
宮前 (41208)、台A地点 (41212)、吉春 (44001)、万福寺裏山 (44601)、
築地台貝塚 (44707)、石神第1地点 (45201)、古屋敷 (45203)、竜腹寺 (45301)、
船尾中峠 (55905)。

〔経石〕

松原 (44706)、木の内 (47201)、桜田 (56801)。

〔五輪塔他〕

大多喜城 (33401)、木出砦 (34903)、大庵 (41201)、宮前 (41208)、古屋敷 (45203)、

竜腹寺 (45301)、高田権現 (52801)、菅生第 2 (61401)、舟塚原 (66901)。

[その他]

駒形 (14712)、安房国分寺 (20501)、上総国分尼寺 (21202)、竜角寺 (27101)、
小金城 (34201)、台 A 地点 (41212)、江川 (41404)、山田 (43202)、西屋敷 (44708)、
石神第 1 地点 (45201)、下部多山供養塚 (51401)、鳥見神社塚群 (55904)。

6 鉄製品

[刀子]

菊間 (11203)、山田水呑 (12401)、高品第 2 (14709)、ムコアラク (14709)、
西屋敷 (14711)、駒形 (14712)、千代田 (14901)、加定地 (15107)、鹿島台 (15202)、
石神第 1 地点 (15206)、瀬戸 (15208)、古屋敷 (15211)、広 (15213)、飯合作 (15214)、
寺沢 (15702)、木下別所廃寺 (15906)、船尾城 (15907)、阿広台 (16702)、
中馬場 (17801)、高野台 (17804)、上総国分尼寺 (21202)、館山城 (30501)、
小金城 (34201)、松子城 (36801)、平良文館 (37201)、桜井 (43203)、
築地台貝塚 (44707)。

[鎌・鍬・鋤]

菊間 (11203)、山田水呑 (12401)、夏見台 (14501)、夏見大塚 (14502)、
高品第 2 (14703)、ムコアラク (14709)、西屋敷 (14711)、駒形 (14712)、
鹿島台 (15202)、石神 (15206)、古屋敷 (15211)、広 (15213)、飯合作 (15214)、
西ノ台 (15217)、阿広台 (16702)、中馬場 (17801)、高野台 (17804)、大野城 (33301)。

[鑿・斧]

高品第 2 (14703)、鹿島台 (15202)、飯合作 (15214)。

[鍬]

山田水呑 (12401)、高品第 2 (14703)、有吉 (14705)、ムコアラク (14709)
駒形 (14712)、渡戸 (15208)、寺沢 (15702)、中馬場 (17801)、上総国分尼寺 (21202)。

[釘・鍬]

南大広 (11202)、山田水呑 (12401)、駒形 (14712)、千代田 (14901)、鹿島台 (15202)、
飯合作 (15214)、大寺 (16101)、中馬場 (17801)、高野台 (17804)、

上総国分僧寺 (21201)、上総国分尼寺 (21202)、千草山廃寺 (21207)、
萩の原廃寺 (21212)、下総国分尼寺 (24302)、千葉寺 (24701)、長熊廃寺 (25201)、
木下廃寺 (25901)、館山城 (30501)、久留里城 (31501)、大多喜城 (33401)、
小金城 (34201)、南総中学 (41214)、松部 (43801)、下花輪第2 (44102)、
西屋敷 (44102)、三ツ塚群 (50502)。

[その他]

菊間 (11203)、山田水呑 (12401)、夏見台 (14501)、ムコアラク (14709)、駒形 (14712)、
山谷 (15105)、加定地 (15107)、鹿島台 (15202)、石神 (15206)、広 (15213)、
飯合作 (15214)、寺沢 (15702)、阿広台 (16702)、鴻ノ巣 (17802)、高野台 (17804)、
上総国分尼寺 (21202)、萩の原廃寺 (21212)、栗山・池の尻 (34905)、佐倉城 (35201)、
松子城 (36801)、助崎城 (37001)、川原井 (41302)、幸田貝塚 (44204)、不動作 (45206)、
萩原出戸 (55802)、中野僧御堂 (64701)。

7 金属製品

萩の原 (11204)、下花輪第2 (14101)、村上 (15001)、渡戸 (15208)、飯合作 (15214)、
大多喜城 (33401)、小金城 (34201)、南総中学 (41214)、松部 (43801)、
築地台貝塚 (44707)、西屋敷 (44708)、出野尾経塚 (50501)、カネ塚 (52401)、
坊前 (55101)、菅生第2 (61401)、椎名崎 (64702)。

8 古銭

[皇朝十二銭]

下総国分尼寺 (24302)。

[中国銭]

大野城 (33301)、小金城 (34201)、城の腰 (34701)、小林城 (35901)、岩部城 (36501)、
平良文館 (37201)、根戸城 (37902)、南総中学 (41214)、横山A地点 (43401)、
幸田貝塚 (44204)、西屋敷 (44708)、石神第1地点 (45201)、間野台 (45202)、
古屋敷 (45203)、干潟桜井 (47401)、東寺山戸張作 (54706)、村上第2群塚 (55002)、
村上供養塚 (55003)、川栗台古墳群 (55103)、林西 (55105)、大門 (55301)、
清戸第2地点 (55402)、大塚塚群 (55901)、江田 (60501)、下矢切 (64201)、
椎名崎 (64702)。

[江戸銭]

久留里城 (31501)、大野城 (33301)、城の腰 (34701)、佐倉城 (35201)、船尾城 (35902)、
助崎城 (37001)、南総中学 (41214)、椎津 (41215)、松部 (43801)、幸田貝塚 (44204)、
西屋敷 (44708)、古屋敷 (45203)、二番町 (45207)、干潟桜井 (47401)、
布施寺山 (47804)、大厩 (51201)、下部多山供養塚 (51401)、カネ塚 (52401)、
高田権現 (52801)、車坂三山塚 (54705)、東寺山戸張作 (54706)、村上第2塚群 (55002)、
村上供養塚 (55003)、村上古墳群 (55004)、獅子台 (55104)、大門 (55301)、
清戸第1地点 (55402)、清戸第2地点 (55402)、萩原出戸 (55801)、庚申塚 (55802)、
吉高山王 (55805)、大塚塚群 (55901)、大野庚申塚 (55903)、鳥見神社塚群 (55904)、
結縁寺塚群 (55906)、菅生第2 (61401)、向原 (65301)。



第1図 県内市町村図



第2図 県内旧郡郷図

西曆	和曆		西曆	和曆		西曆	和曆		西曆	和曆	
645	大	化	877	元	慶	1040	長	久	1145	久	安
50	白	雉	85	仁	和	44	寬	德	51	仁	平
86	朱	鳥	89	寬	永	46	永	承	54	久	壽
701	大	宝	98	昌	泰	53	天	喜	56	保	元
04	慶	雲	901	延	喜	58	康	平	59	平	治
08	和	銅	23	延	長	65	治	曆	60	永	曆
			31	承	平	69	延	久	61	応	保
(奈良)			38	天	慶	74	承	保	63	長	寬
715	靈	龜	47	天	曆	77	承	曆	65	永	万
17	養	老	57	天	德	81	永	保	66	仁	安
24	神	龜	61	応	和	84	応	德	69	嘉	応
29	天	平	64	康	和	87	寬	治	71	承	安
48	天平	咸宝	68	安	和	94	嘉	保	75	安	元
49	天平	勝宝	70	天	祿	96	永	長	77	治	承
57	天平	宝子	73	天	延	97	承	德	81	養	和
65	天平	神護	76	貞	元	99	康	和	82	壽	永
67	神護	景雲	78	天	元	1104	長	治	84	(元曆)	
70	宝	龜	83	永	觀	6	嘉	承	85	文	治
81	天	応	85	寬	和	8	天	仁	90	建	久
82	延	曆	87	永	延	10	天	永			
			89	永	祚	13	永	久	(鎌倉)		
(平安)			90	正	曆	18	元	永	1199	正	治
806	大	同	95	長	德	20	保	安	1201	建	仁
10	弘	仁	99	長	保	24	天	治	4	元	久
24	天	長	1004	寬	弘	26	大	治	6	建	永
34	承	和	12	長	和	31	天	承	7	承	元
48	嘉	祥	17	寬	仁	32	長	承	11	建	曆
51	仁	壽	21	治	安	35	保	延	13	建	保
54	齊	衡	24	万	壽	41	永	治	19	承	久
57	天	安	28	長	元	42	康	治	22	貞	応
59	貞	觀	37	長	曆	44	天	養	24	元	仁

西曆	和曆	西曆	和曆	西曆	和曆	西曆	和曆
1225	嘉 祿	1321	元 享	1452	享 德	1681	天 和
27	安 貞	24	正 中	55	康 正	84	貞 享
29	貴 喜	26	嘉 曆	57	長 祿	88	元 祿
32	貞 永	29	元 德	60	寬 正	1704	宝 永
33	天 福	(南北朝)		66	文 正	11	正 德
34	文 曆			67	応 仁	16	享 保
35	嘉 禎	北朝	南朝	69	文 明	36	元 文
38	曆 仁	32 正慶	31 元弘	87	長 享	41	寬 保
39	延 応	1334	建 武	89	延 德	44	延 享
40	仁 治	38 曆 應	36 延元	92	明 応	48	寬 延
43	寬 元	42 康永	40 興国	1501	文 龜	51	宝 曆
47	宝 治	45 貞和	46 正平	4	永 正	64	明 和
49	建 長	50 觀 應		21	大 永	72	安 永
56	康 元	52 文和		28	享 祿	81	天 明
57	正 嘉	56 延文		32	天 文	89	天 政
59	正 元	61 康安		55	弘 治	1801	享 和
60	文 応	62 貞治	70 建德	58	永 祿	4	文 化
61	弘 長	68 応安	72 文中	70	元 龜	18	文 政
64	文 永	75 永和	75 天授	73	天 正	30	天 保
75	建 治	79 康曆		92	文 祿	44	弘 化
78	弘 安	81 永德	81 弘和	96	慶 長	48	嘉 永
88	正 応	84 至德	84 元中			54	嘉 政
93	永 仁	87 嘉慶		(江戸)		60	万 延
99	正 安	89 康 應		1615	元 和	61	文 久
1302	乾 元			24	寬 永	64	元 治
3	嘉 元	1390	明 德	44	正 保	65	慶 応
6	德 治	94	応 永	48	慶 安		
8	延 慶	1428	正 長	52	承 応	(近代)	
11	応 長	29	永 享	55	明 曆	1868	明 治
12	正 和	41	嘉 吉	58	万 治	1912	大 正
17	文 保	44	文 安	61	寬 文	26	昭 和
19	元 応	49	宝 德	73	延 宝		

1 図 解 説

番号	市町村名	番号	市町村名	番号	市町村名
1	三 芳 村	31	山 武 町	61	八日市場市
2	富 浦 町	32	富 津 市	62	旭 市
3	富 山 町	33	夷 隅 町	63	光 町
4	鋸 南 町	34	大 多 喜 町	64	山 田 町
5	館 山 市	35	岬 町	65	栗 源 町
6	白 浜 町	36	大 原 町	66	多 古 町
7	千 倉 町	37	御 宿 町	67	佐 原 市
8	丸 山 町	38	勝 浦 市	68	大 栄 町
9	和 田 町	39	関 宿 町	69	神 崎 町
10	鴨 川 市	40	野 田 市	70	下 総 町
11	天津小湊町	41	流 山 市	71	栄 町
12	市 原 市	42	松 戸 市	72	小見川町
13	袖ヶ浦町	43	市 川 市	73	東 庄 町
14	木更津市	44	浦 安 町	74	千 潟 町
15	君 津 市	45	船 橋 市	75	海 上 町
16	一 宮 町	46	鎌ヶ谷市	76	飯 岡 町
17	茂 原 市	47	千 葉 市	77	銚 子 市
18	睦 沢 村	48	習 志 野 市	78	柏 市
19	長 南 町	49	四街道市	79	我 孫 子 市
20	長 柄 町	50	八千代市	80	沼 南 町
21	長 生 村	51	成 田 市		
22	白 子 町	52	佐 倉 市		
23	九十九里町	53	本 埜 村		
24	東 金 市	54	白 井 町		
25	大網白里町	55	酒々井町		
26	成 東 町	56	八 街 町		
27	蓮 沼 村	57	富 里 村		
28	芝 山 町	58	印 旛 村		
29	横 芝 町	59	印 西 町		
30	松 尾 町	60	野 栄 町		

2 図解説 (千葉県旧郷名分布・日本地理誌料による)

番地	郷名	訓			
	安房国				
A	安房郡	アハ	26	酒井	サカイ
1	河曲	カハワ	27	田原	タハラ
2	塩海	シホミ	28	日置	ヘキ (オキヅ)
3	麻原	ヲハラ	29	壬生	ニフ
4	安房・神戸	アハ	30	賀茂	カモ
5	神余	カムノアマリ	31	長狭	ナカサ
6	白浜	シラハマ	32	伴部	トモベ
7	太田	オホタ	33	余戸	アマルベ
8	大井	オホイ	34	置津	オキヅ
B	平群	ヘクリ		上総国	
9	大里	オホサト	E	天羽郡	アマハ
10	白浜・駅家	シラハマ	35	雨霨	ウルウ
11	達良	タタラ	36	天羽	アマハ
12	余戸	アマルベ	37	三宅	ミヤケ
13	石井	イハイ	38	長津	ナカツ
14	穂田	ホタ	39	讃岐	サヌキ
15	狭隈	サクマ	F	周淮郡	スエ
16	川上・駅家	カハカミ	40	山家	ヤマイベ
17	長門	ナカト	41	額田	ヌカタ
18	砥河	トカハ	42	山名	ヤマナ
C	朝夷郡	アサヒナ	43	周淮郡家	スエ
19	朝夷	アサヒナ	44	丸田	ワダ
20	新田	ヤワタ	45	湯坐	ユエ
21	大瀦	オホヌマ	46	藤部	フジベ
22	御原	ミハラ	47	三直	ミナホ
23	健田	タケタ	G	望陀郡	マウタ
24	満祿	マロ	48	会戸	クラト
D	長狭郡	ナカサ	49	表可	ヲカ
25	丈部	ハセズカベ	50	望陀	マウタ

番号	郷名	訓	番号	郷名	訓
51	飫 富	オフ	79	島 穴	シマナ
52	鹿 津	カツ (オイツ)	80	海上郡家	ウナカミ
53	盤 田	イハタ	81	稲 庭	イナムハ
54	河 曲	カハワ	K	市 原 郡	イチハラ
55	畔 治	アハル	82	菊 麻	ククマ
H	畔 蒜 郡	アヒル	83	湿 津	ウルヒツ
56	畔 蒜	アヒル	84	市 原	イチハラ
57	三 衆	ミモロ	85	海 部	アマ
58	甘 木	アマキ	86	建 市	タケチ
59	美 々	ミタ	87	山 田	ヤマタ
60	新 田	ニフタ	88	江 田	エタ
61	小 河	ヲカハ	L	殖 生 郡	ハニフ
62	椅 原	ハシバラ	89	横 栗	ヨクリ
I	夷 濫 郡	イシミ	90	河 家	カワノベ (イカツカ)
63	蘆 道	イホチ	91	小 田	ヤマタ
64	白 羽	シラハ	92	埴 生	ハニフ
65	余 戸	アマルベ	93	埴 石	ハニシ
66	勝 浦	カツラ	94	坂 本	サカモト
67	長 狭	ナカサ	M	長 柄 郡	ナカラ
68	雨 霑	ウルウ	95	車 持	クラモチ
69	大 野	オホノ	96	刑 部	クサカベ
70	三 宅	ミヤケ	97	長 柄	ナカラ
71	荒 田	アラタ	98	谷 部	ハセベ
72	夷 濫	イシミ	99	兼 施	カネタ (オホタ)
J	海上郡	ウナカミ	100	柏 原	カシハラ
73	大 野	オホノ	101	管 見	ツツミ
74	倉 橋	クラハシ	N	山 辺 郡	ヤマノベ
75	山 田	ヤマタ	102	禾 生	アハフ
76	佐 三	サセ	103	余 戸	アマルベ
77	福 良	フクラ	104	山 辺	ヤマノベ
78	馬 野	ムマノ	105	草 野	カヤノ

番号	郷名	訓	番号	郷名	訓
106	高文	タカフミ	Q	葛飾郡	アトシカ
107	山口	ヤマクチ	133	大結	オホヒ
108	岡山	ヲカヤマ	134	栗原	クリハラ
109	管屋	スカヤ	135	葛筋	カトシカ
110	武射	ムザ	136	井上・駅家	キノベ
O	武射郡	ムザ	137	茂侶	モロ
111	巨備	コビ	138	度毛	トモ
112	畔代	アジロ	R	相馬郡	サウマ
113	大蔵	オホクラ	139	色陀	シコタ
114	埴屋	ハニヤ	140	古溝	フセ
115	巨林	コマ	141	布佐	フサ
116	長倉	ナガクラ	142	大井	オホキ
117	新居	ニヒキ	S	印旛郡	イナバ (イムバ)
118	加毛	カモ	143	三宅	ミヤケ
119	狎猿	オシクマ	144	言美	トミ
120	理倉	ソネアヒ	145	吉高	ヨシタカ
121	片野	カタノ	146	船穂	フナホ
122	武射	ムザ	147	村神	ムラカミ
			148	鳥取	トットリ
	下 総 国		149	日理	ワタリ
P	千葉郡	チハ	150	印旛	イナバ (イムバ)
123	千葉	チハ	151	島矢	カブラ
124	池田	イケタ	152	余戸	アマルベ
125	糟苅	カソリ	153	長隈	ナガクマ
126	三枝	サイクサ	154	八代	ヤツシロ
127	山梨	ヤマナシ	T	埴生郡	ハニフ
128	物部	モノノベ	155	山方	ヤマカタ
129	余戸	アマルベ	156	埴生	ハニフ
130	駅家・茜津	アカネツ	157	玉作	タマヅクリ
131	山家	ヤマカ	158	麻在	アサフ
132	草田	カヤタ	159	酢取	ハトリ

番号	郷名	訓	番号	郷名	訓
U	香取郡	カトリ	W	海上郡	ウナカミ
160	訳草	ラサタ (アラミ)	189	布方	フマ (フハ)
161	磯部	イソベ	190	大倉	オホクラ
162	須賀	スガ	191	城上	キノベ
163	子松	コマツ	192	麻績	ヲミ
164	健田	タケタ	193	編玉	アタマ
165	小川	ヲカワ	194	橘川	タチバナ
166	香取	カトリ	195	軽部	カルベ
167	大槻	オホツキ	196	海上	ウナカミ
168	矢作	ヤハキ	197	神代	クマシロ (カムシロ)
169	真敷	マシキ	198	石井	イハキ
V	逆瑳郡	サフサ	199	須賀	スカ
170	田部	タベ	200	石田	イシタ
171	播羅・原	ハラ	201	船木	フナキ
172	茨城	イバラキ	202	小野	ヲノ
173	千田	チタ	203	横根	ヨコネ
174	石室	イハムロ	204	三宅	ミヤケ
175	栗原	クリハラ	205	三前	ミサキ
176	幡間	ハマ			
177	野田	ノダ			
178	逆瑳	サフサ			
179	大田	オホタ			
180	辛川	アシカハ			
181	珠浦	カフラ			
182	千俣	チマタ			
183	長尾	ナカヲ			
184	須加	スカ			
185	山上	ヤマノベ			
186	中村	ナカムラ			
187	玉作	タマツクリ			
188	日部	クサカベ			

千葉県文化財センター研究紀要 5

昭和55年3月31日 発行

発行者 財団法人 千葉県文化財センター
千葉県亥鼻1丁目3番13号
電話 千葉 (0472)25-6478

印刷所 株式会社 多田印刷

BULLETIN
OF
CULTURAL PROPERTIES CENTER OF CHIBA PREFECTURE

VOL. 5
MARCH 1980

CONTENTS

ARCHAEOLOGICAL STUDIES OF BŌSŌ (房総) CULTURE

PART 5

— ON THE HISTORIC AGE —

Message from the Chief Director

Notes for Readers

Page

Introduction 1

Data Compilation

I Bibliography 2

II List of Excavated Sites 26

III List of Excavated Artefacts 85

Articles

I The MAMA(真間) Type Pottery in SHIMOSA(下総) Area 101

II The Excavated Mediaeval Castle Sites 116

Published by

CULTURAL PROPERTIES CENTER OF CHIBA PREFECTURE

1-3-13, Inohana, Chiba City, Chiba, Japan,

Telephone 0472-25-6478